資料 1-4

南丹市
子どもの生活状況調査
結果報告書

令和６年５月
南丹市

目　次

第1章　調査の概要 1

1. 調査の目的 3
2. 調査の種類と実施方法 3
3. 配布と回収状況 3
4. 報告書を読むにあたって 4

第2章　世帯の類型化 5

1. “生活困難”の視点からの世帯の類型化に用いた設問 7
2. 等価世帯年収指標 8
3. 剥奪指標による判別 9
4. 困窮指標による判別 13
5. 3つの指標から捉えた判別を踏まえた類型化 14

第3章　保護者向け調査結果 17

1. 回答者と家族について 19
2. 親について 24
2. 子どもの健康について 30
3. 子どもの生活・学習習慣について 33
4. 子育ての悩みや相談について 41
5. 子どもを取り巻く環境・モノについて 45
6. 各種支援・サービスについて 48
7. 世帯の経済的状況について 52
8. ひとり親家庭の方への質問 56
9. 自由意見 57

第4章　子ども向け調査結果 59

1. 学年について 61
2. 将来の夢について 61
3. 自分の持ち物について 65
4. ふだんの生活の状況について 67
5. ふだんの生活で感じていることについて 87
6. 自由意見 89

第１章　調査の概要

1．調査の目的

本市では「子どもの未来応援プラン～子どもの貧困対策推進計画～（令和2年度からの5か年計画）」に基づき、すべての子どもたちが、自分自身の生きる力を高め未来を切り拓き夢をもって成長できる社会の実現を目指して施策や事業を推進してきました。

本年度、計画期間が満了になることから、「南丹市こども計画（令和 7 年度から11年度）」を策定をすることとし、計画策定の基礎資料とするため、ご家庭の子育ての状況や市の取り組みへのご意見をお聞かせいただくことを目的として実施したものです。

2．調査の種類と実施方法

本調査においては、対象者別に次の2種類のアンケート調査を実施しました。

調査の種類	調査の対象（母集団）	調査期間	実施方法
子どもの生活状況アンケート	南丹市立の小学校5年生、中学校2年生の子どもがいる保護者	令和6年　2月～3月	郵送による配布・回収及びWeb調査
子どもの暮らしの様子アンケート	南丹市立の小学校5年生、中学校2年生	令和6年　2月～3月	

3．配布と回収状況

調査票の配布と回収の状況は次のとおりです。

			配布数	回収数	回収率
子どもの生活状況アンケート（保護者）	郵送		456票	89票	38.6%
	Web			87票	
	合計			176票	
子どもの暮らしの様子アンケート（児童・生徒）	郵送	小学校5年生	233票	205票	88.0%
		中学校2年生	223票	197票	88.3%
		不明		25票	
	合計		456票	427票	93.6%

４．報告書を読むにあたって

(1)電算処理の注意点

・調査結果の%表記については、小数第2位を四捨五入した値であるため、単数回答でも合計が必ずしも 100%になるとは限りません。

(2)その他

・複数回答の質問は、回答数を 100%として各選択肢の%を算出しているため、合計は 100%を超えています。

・図表中では、スペースの都合で選択肢名などを一部省略している場合があります。

第２章　世帯の類型化

1．“生活困難”の視点からの世帯の類型化に用いた設問

本調査の集計・分析にあたっては、子どもの貧困問題について南丹市における実態を把握するため、アンケート結果に基づき、子どもの“生活困難”という視点から世帯の判別・類型化を行いました。

子どもの“生活困難”について、本調査では“等価世帯年収”“剥奪指標”“困窮指標”の3つの視点から捉えることとし、具体的には次の5つの設問への回答データに基づく判定・類型化を行いました。

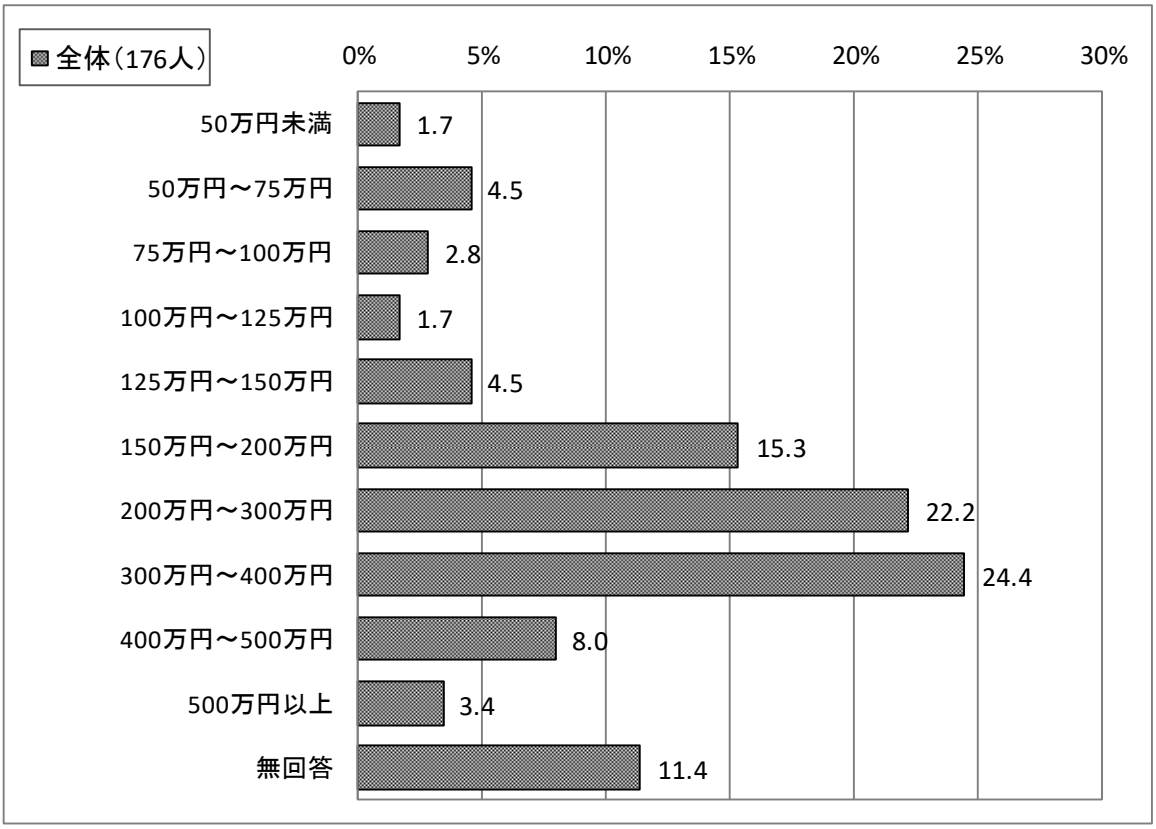
世帯の類型化は、保護者向け調査の回答があった世帯のみの集計・分析としています。

判定	判別・類型化に用いた設問
等価世帯年収	世帯の年間収入【問 29】
	世帯人数【問4】
剥奪指標	子どもにとって必要な環境・モノ(15 項目)【問 23】
	お子さんに与えられている環境・モノ(15 項目)【問 24】
困窮指標	経済的理由による困窮指標(6項目)【問 25】

2．等価世帯年収指標

世帯年収の情報に加え、当該世帯人数の情報を加味することで等価世帯年収（世帯年収を世帯人数の平方根で除した値）として捉えました。

保護者向け調査の等価世帯年収の状況についてみると、「300 万円～400 万円未満」が最も多く 24.4%となっており、これを含む等価世帯年収 200 万円以上の世帯が全体の 58.0%を占めています。



等価世帯年収指標は、「令和4年国民生活基礎調査」による貧困線である 127 万円未満の世帯を“生活困難層”と判別することとしました。

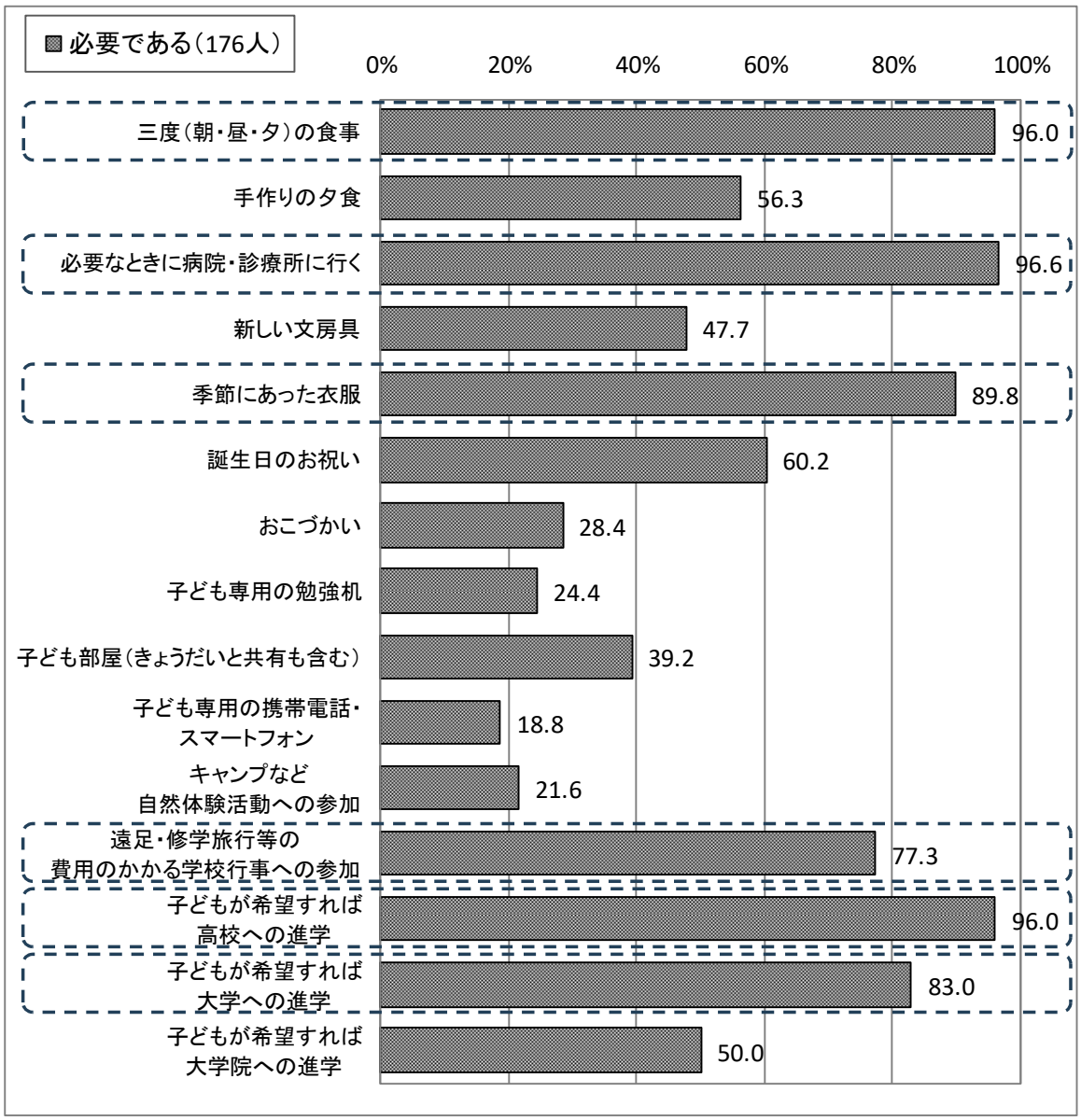
◆等価世帯年収“127 万円未満”の場合　⇒　“生活困難層”

3．剥奪指標による判別

（1）剥奪指標の設定

子どもにとって必要な環境・モノについて伺ったところ、次のような結果となっています。

保護者向け調査で“必要である”との回答が多かったのは、「必要なときに病院・診療所に行く」が 96.6%、「三度（朝・昼・夕）の食事」と「子どもが希望すれば高校への進学」が 96.0%、「季節にあった衣服」が 89.8%、「子どもが希望すれば大学への進学」83.0%、「遠足・修学旅行等の費用のかかる学校行事への参加」が 77.3%となっており、75%以上の方が“必要である”と考える環境・モノが6項目あります。



これらの6項目は、保護者の 75%以上の方が子どもにとって必要な環境・モノとして捉えており、言い方を換えると、南丹市に暮らす子どもにとって不可欠である（子どもから剥奪されるべきではない）と考える環境・モノとして 75%以上の方の合意があると考えることができます。

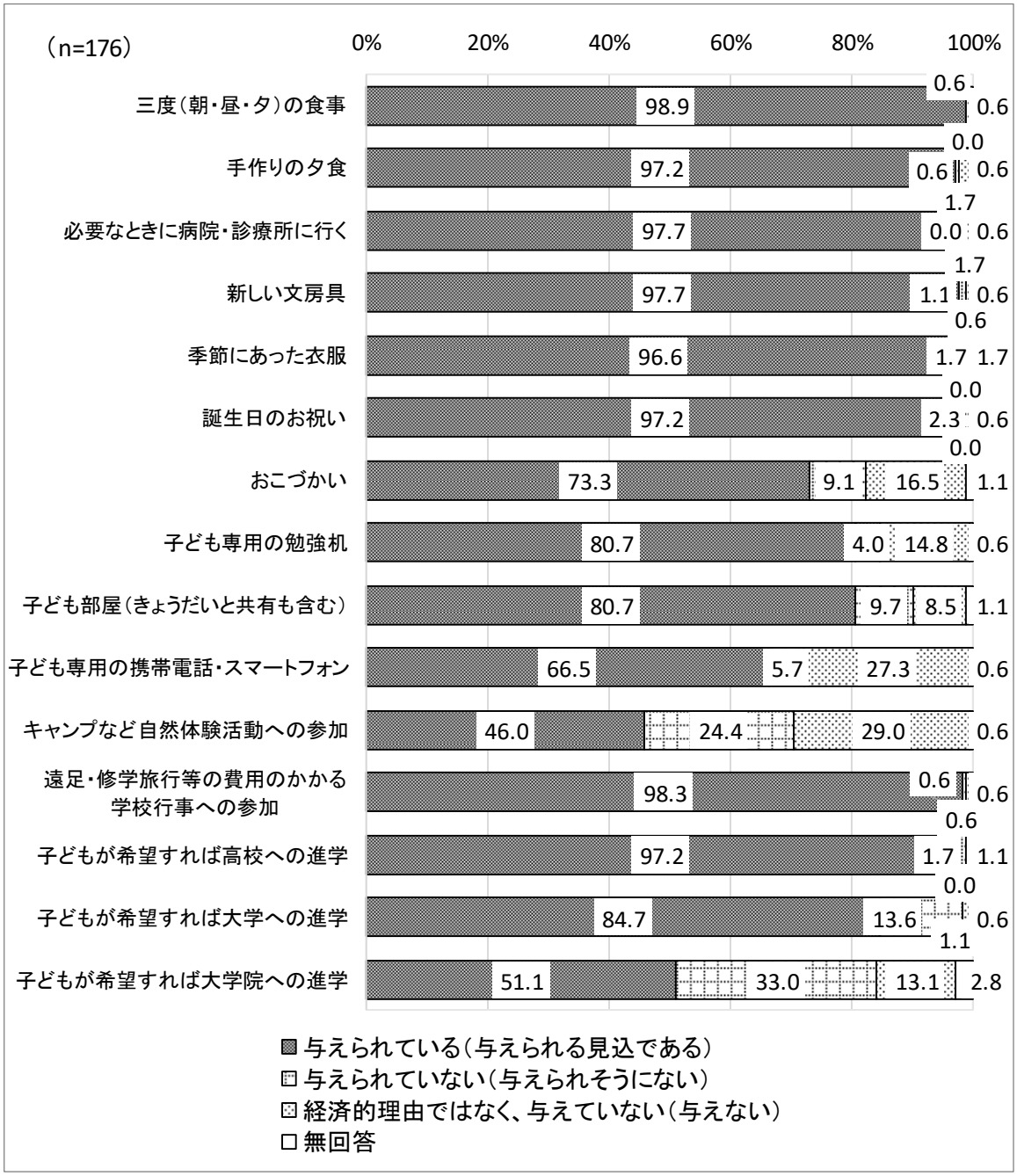
こうした考え方に基づき、本調査では、保護者の 75%以上の方が子どもにとって必要な環境・モノとして挙げた6項目について、子どもに欠かすべきではない環境・モノとして“生活困難層”の判別に用いることとしました。

剥奪指標6項目 （子どもにとって必要な環境・モノ）	“必要である”割合
三度（朝・昼・夕）の食事	96.0%
必要なときに病院・診療所に行く	96.6%
季節にあった衣服	89.8%
遠足・修学旅行等の費用のかかる学校行事への参加	77.3%
子どもが希望すれば高校への進学	96.0%
子どもが希望すれば大学への進学	83.0%

■剥奪指標による判別

保護者向け調査で、お子さんに与えられている環境・モノは次のとおりです。

「子ども専用の携帯電話・スマートフォン」や「キャンプなど自然体験活動への参加」については、経済的理由ではなく与えていない割合が 20%以上となっており、必ずしも経済的な理由ではなく与えていない環境・モノもあることがわかります。



以上の結果について、“与えられていない（与えられそうにない）”に着目してみると次のようになっています。

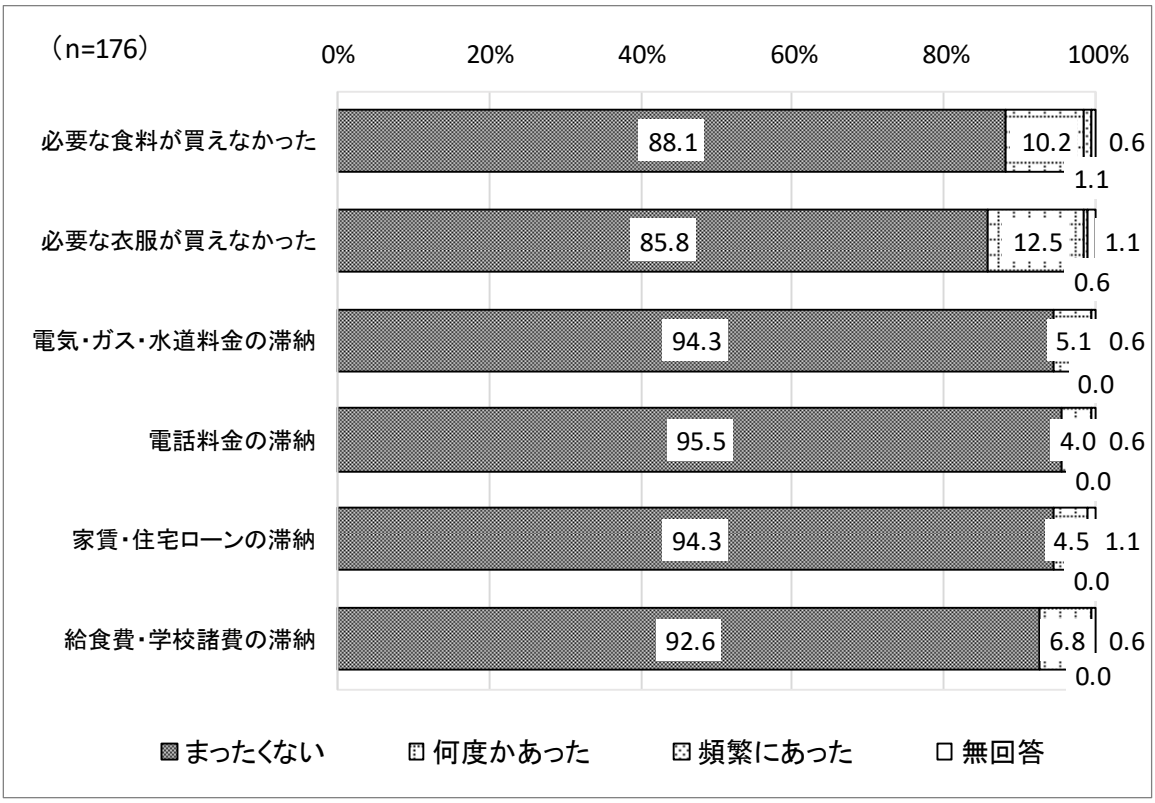
剥奪指標6項目 （子どもにとって必要な環境・モノ）	“与えられていない （与えられそうにない）” 割合
三度（朝・昼・夕）の食事	0.6%
必要なときに病院・診療所に行く	0.0%
季節にあった衣服	1.7%
遠足・修学旅行等の費用のかかる学校行事への参加	0.6%
子どもが希望すれば高校への進学	1.7%
子どもが希望すれば大学への進学	13.6%

「必要なときに病院・診療所に行く」については“与えられていない（与えられそうにない）”の該当者はいませんので、剥奪指標による判別として、「必要なときに病院・診療所に行く」を除く5項目のいずれかが“与えられていない（与えられそうにない）”世帯について“生活困難層”と判別することとしました。

◆剥奪指標5項目のいずれかが“与えられていない（与えられそうにない）”場合
⇒“生活困難層”

4．困窮指標による判別

経済的理由による困窮経験について伺ったところ、「必要な食料が買えなかった」等の6項目について、次のような結果を得ることができました。



困窮指標による判別として、これら6項目について、“何度かあった”と“頻繁にあった”が2項目以上該当する世帯について“生活困難層”と判別することとしました。

困窮指標6項目	“何度かあった”割合	“頻繁にあった”割合
必要な食料が買えなかった	10.2%	1.1%
必要な衣料が買えなかった	12.5%	0.6%
電気・ガス・水道料金の滞納	5.1%	0.0%
電話料金の滞納	4.0%	0.0%
家賃・住宅ローンの滞納	4.5%	0.0%
給食費・学校諸費の滞納	6.8%	0.0%

◆困窮経験6項目について“何度かあった”と“頻繁にあった”が2項目以上該当
⇒“生活困窮層”

5．３つの指標から捉えた判別を踏まえた類型化

ここまでに示した3つの視点からの“生活困難層”“非生活困難層”といった類型化を行いました。

“生活困難層”の指標	判別基準
等価世帯年収指標	◆等価世帯年収“127 万円未満”の場合、“生活困難層”と判別する ◇世帯年収について無記入の場合、等価世帯年収による判別は不能とする
剥奪指標5目	◆5項目のいずれかが“与えられていない（与えられそうにない）”場合、“生活困難層”と判別する
困窮指標6項目	◆6項目について“何度かあった”と“頻繁にあった”が2項目以上該当した場合、“生活困難層”と判別する

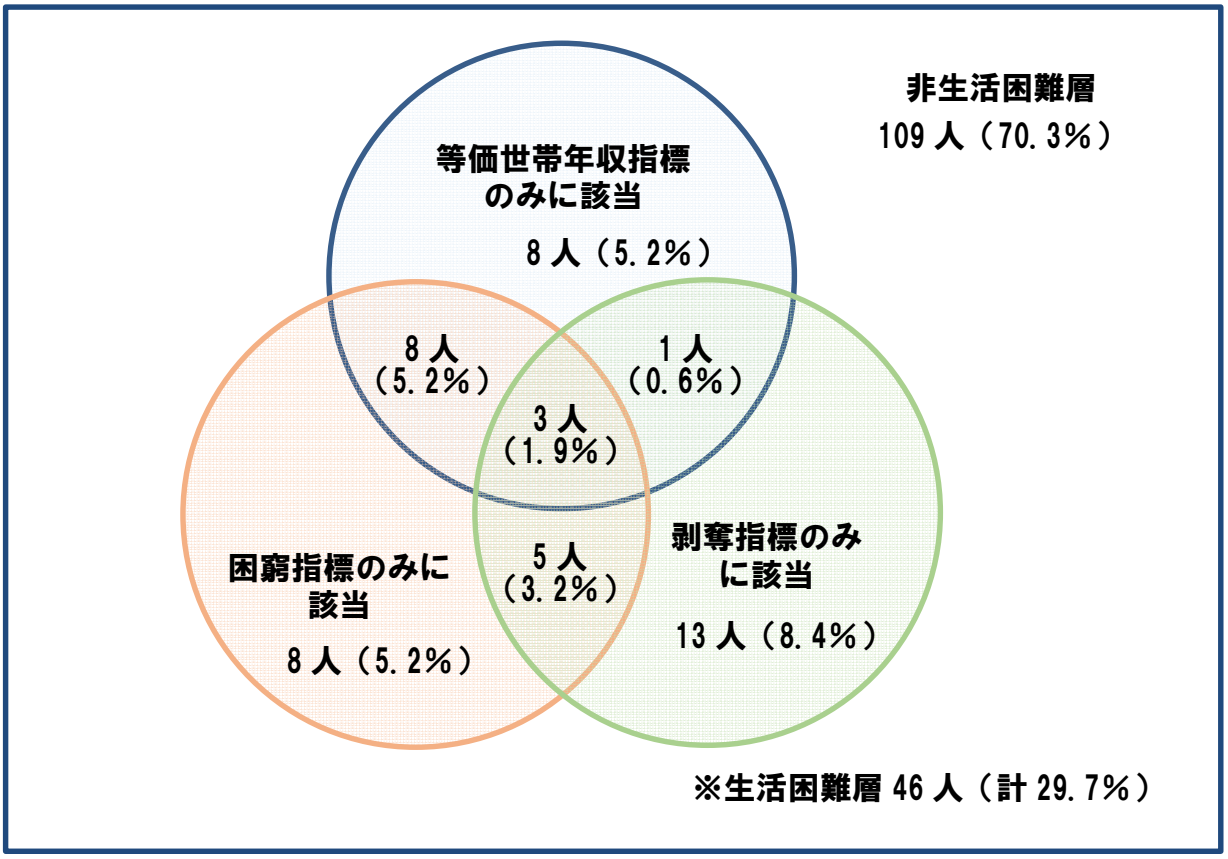
◆生活困難層（生活困窮層・周辺層）、非生活困難層

生活困難層		困窮層＋周辺層
	生活困窮層	2つ以上の要素に該当
	周辺層	いずれか1つの要素に該当
非生活困難層		いずれの要素にも該当しない

		件　数	構成比	
			全データ対象	判別可能データ
生活困難層の分布	生活困難層	46 世帯	26.1%	29.7%
	生活困窮層	17 世帯	9.7%	11.0%
	周辺層	29 世帯	16.5%	18.7%
	非生活困難層	109 世帯	61.9%	70.3%
	不　明	21 世帯	11.9%	
	計	176 世帯	100.0%	100.0% （155 世帯）

■生活困難層の割合

不明を除いた類型により、“生活困難層”の割合が 29.7%、非生活困難層が 70.3%となりました。なお、類型化を行うための設問への回答がない世帯については類型化ができないため、ここでの割合はこうした類型化不能の世帯を除いて算出しています。



○本レポートでは、次ページ以降、原則として類型化した“生活困難層（生活困窮層）”“生活困難層（周辺層）”“非生活困難層”別の集計を基本とします。
○集計結果を示すグラフには、“全体”“生活困難層（生活困窮層）”“生活困難層（周辺層）”“非生活困難層”別のそれぞれが示されており、“全体”には類型化ができなかった“不明”を含んでいます。
○グラフ中に“n=427”などとあるのは、その設問に回答すべき対象者数です。一部の人に回答を求めている設問などがあるため、nの値は設問によって異なります。

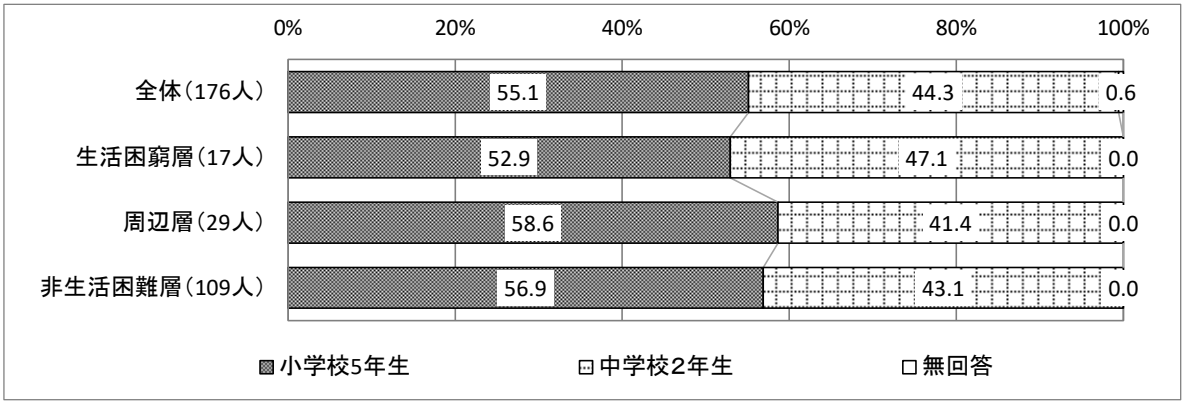
第３章　保護者向け調査結果

1．回答者と家族について

（1）子どもの学年

問1　お子さんの学年についてお答えください。（1つに○）

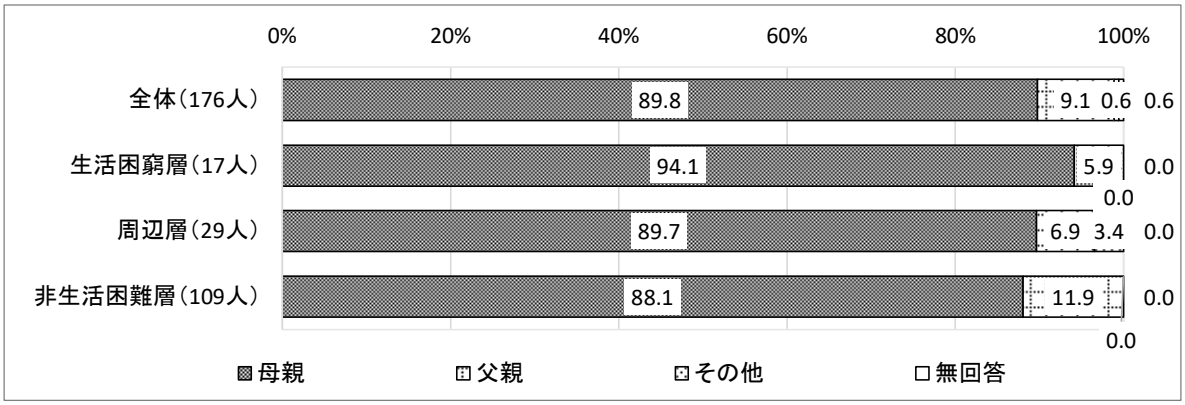
子どもの学年は、「小学校5年生」が 55.1%、「中学校2年生」が 44.3%となっています。



（2）回答者の続柄

問2　あなた（回答いただいている方）の、お子さんからみた続柄についてお答えください。（1つに○）

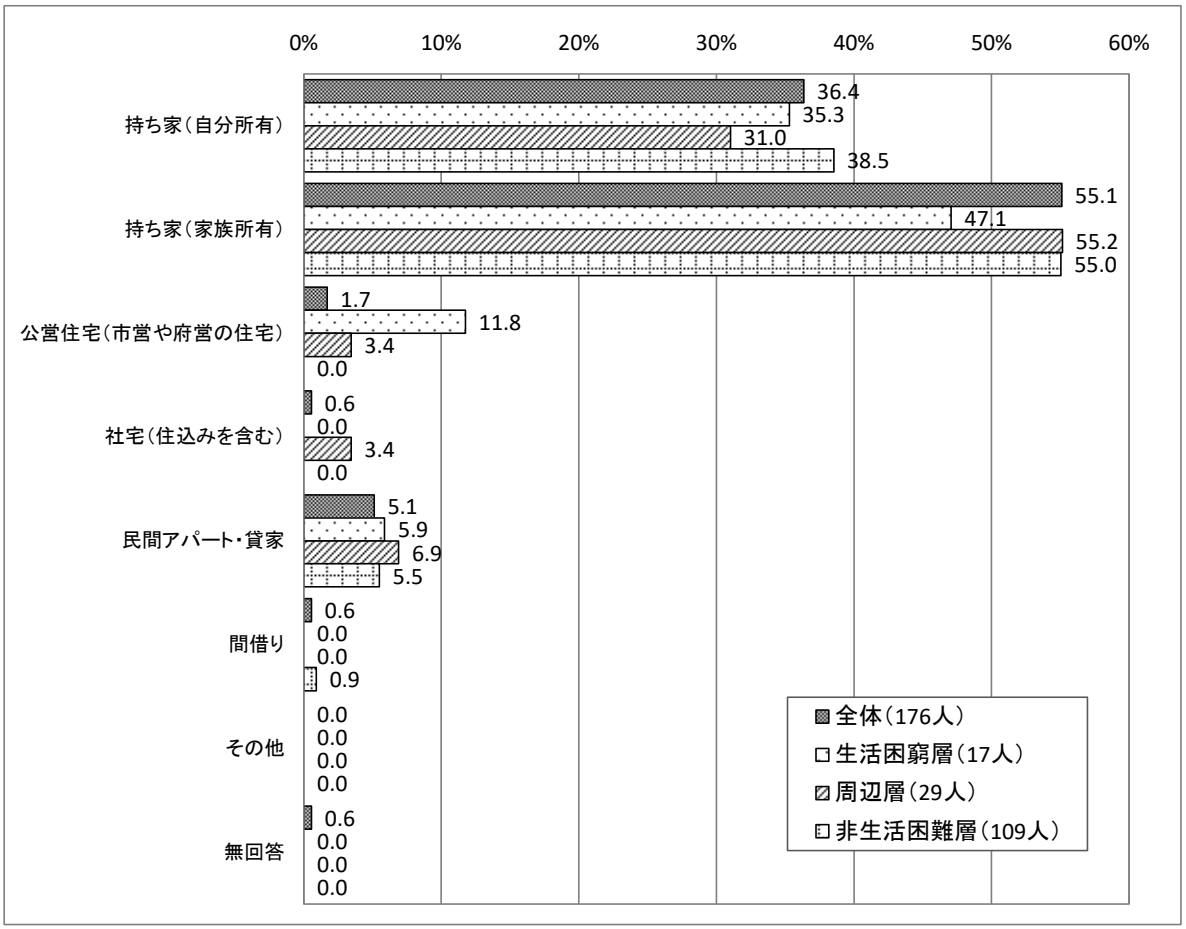
回答者については、「母親」が 89.8%で最も多く、次いで「父親」が 9.1%となっています。



（3）住居形態

問3　現在のお住まいについてお答えください。（1つに○）

住居形態については、「持ち家（家族所有）」が 55.1%と半数以上になっており、次いで「持ち家（自分所有）」が 36.4%となっています。“生活困窮層”では「公営住宅（市営や府営の住宅）」がやや多くなっています。

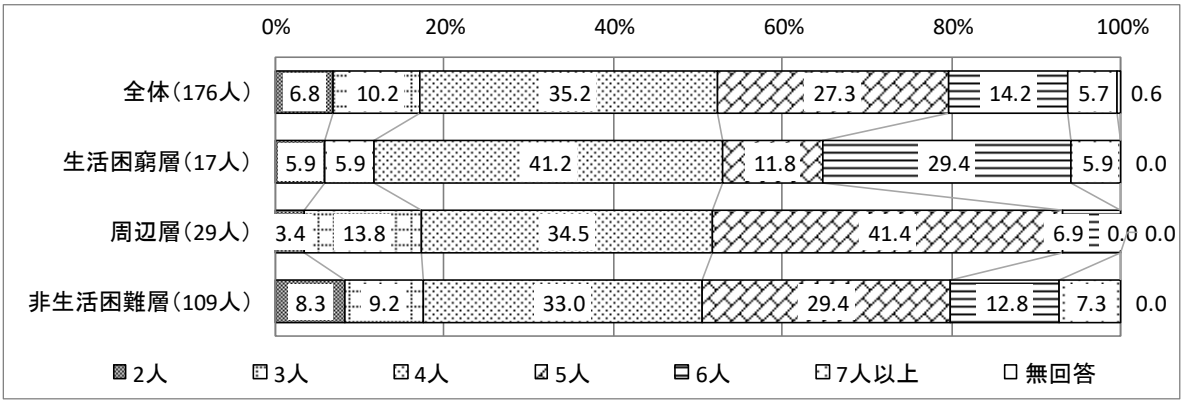


（4）家族の人数

問4　生計を共にしているご家族（単身赴任のご家族も含む）は、あなたを含めて全員で何人ですか。家族の人数をお答えください。（人数を記入）

家族の人数については、「4人」が 35.2%で最も多く、次いで「5人」が 27.3%となっています。“生活困窮層”では「6人」が 29.4%とやや多く、“周辺層”では「5人」が 41.4%と多くなっています。

平均人数は、“非生活困難層”は 4.52 人、“周辺層”は 4.34 人、“生活困窮層”は 4.76 人となっています。

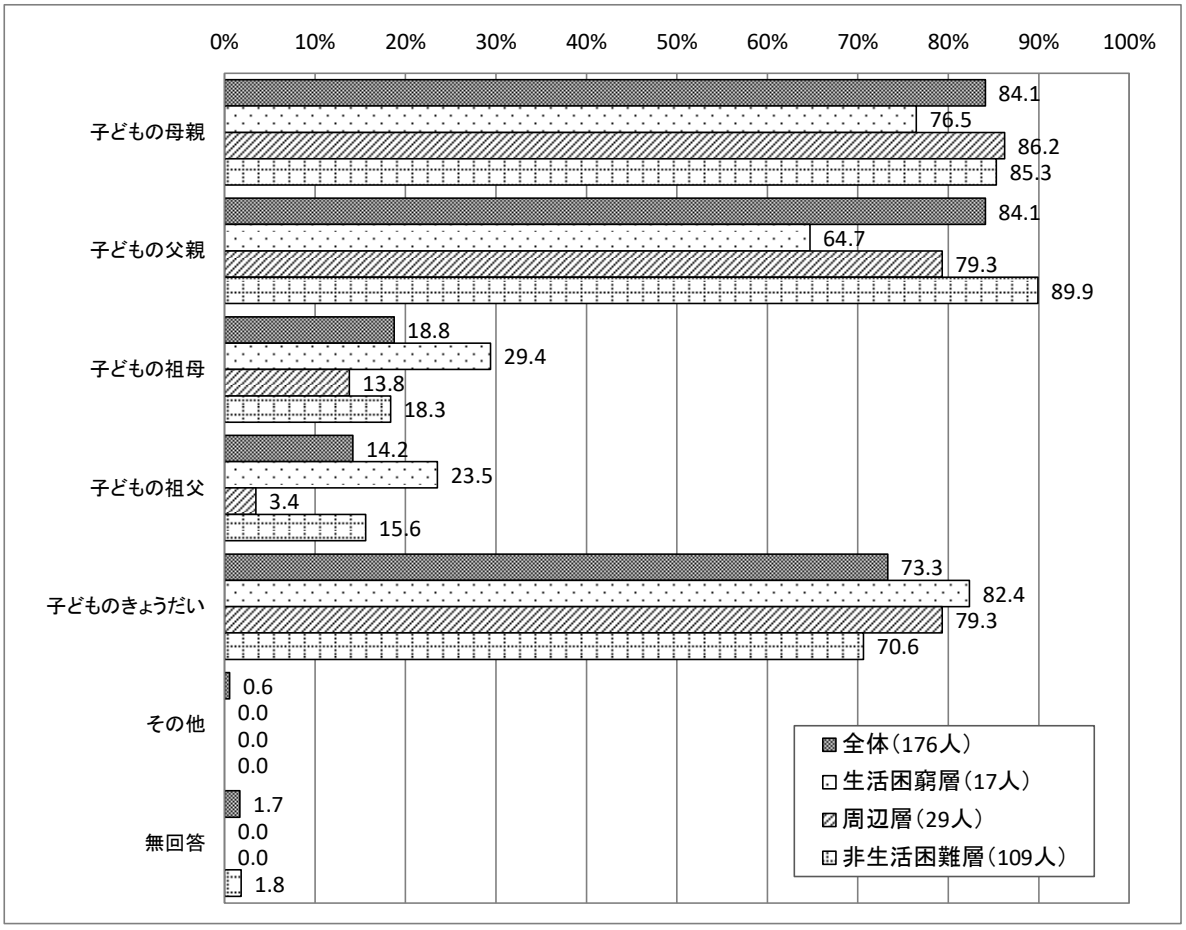


（５）家族構成

問4－1　生計を共にしているご家族（単身赴任のご家族も含む）についてお答えください。（あてはまるものすべてに○）

家族構成についてみると、「子どもの父親」がいる世帯が“非生活困難層”では 89.9%であるのに対し、“生活困窮層”では 64.7%、“周辺層”では 79.3%となっています。

“生活困窮層”では「子どもの祖父」「子どもの祖母」「子どものきょうだい」が“非生活困難層”に比べ多くなっています。



（6）子どもの人数

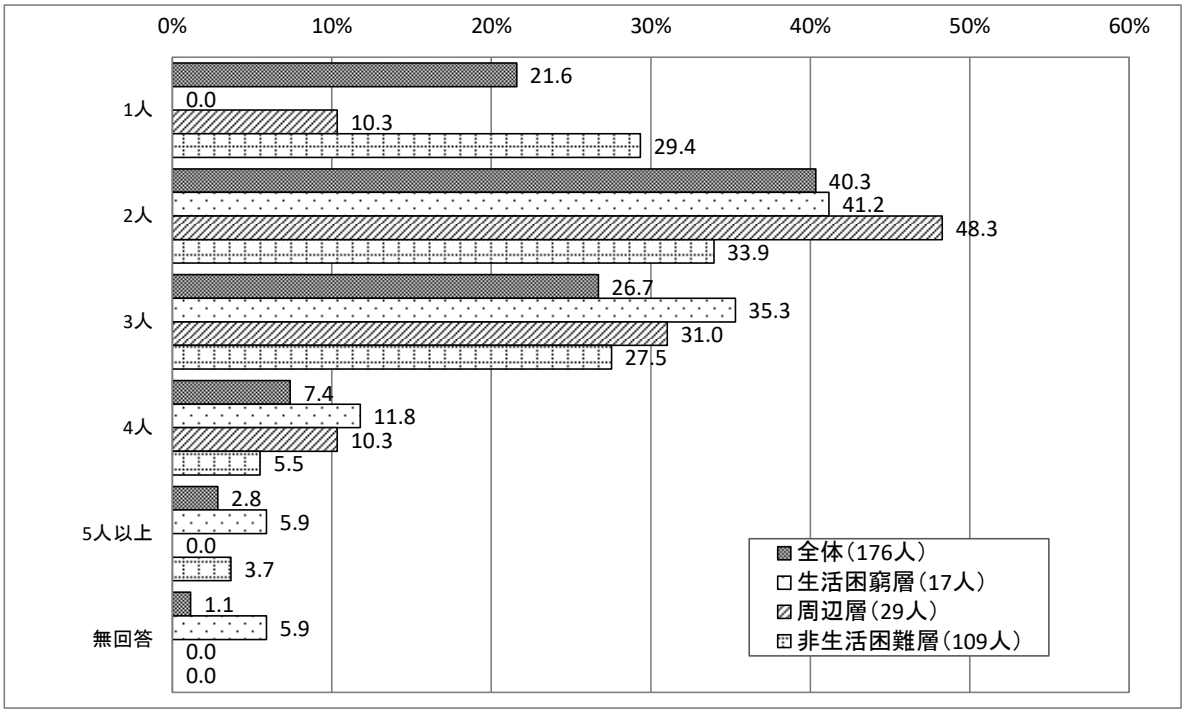
問5　生計を共にしているご家族のうち、お子さん（年齢は問いません）の人数は何人ですか。（人数を記入）

子どもの人数をみると、「2人」が 40.3%で最も多くなっています。“非生活困難層”では2番目に多いのが「1人」になっていますが、“生活困窮層”と“周辺層”では「3人」になっています。

平均人数は、“非生活困難層”は 2.23 人、“周辺層”は 2.41 人、“生活困窮層”は 2.88 人となっています。

	家庭数		合計人数	平均人数
	（世帯）	（%）	（人）	（人）
未就学（小学校入学前）	24	13.8	31	1.29
小学生	115	66.1	165	1.43
中学生	107	61.5	116	1.08
高校生	49	28.2	54	1.10
大学生・大学院生 （短大・専門学校等を含む）	21	12.1	22	1.05
働いている	9	5.2	14	1.56
いずれにも該当しない	0	0	ー	ー
合計	174	100%	398	2.31

※対象者ごとの人数と合計値は一致していない回答があり、記載の合計値を使用



2．親について

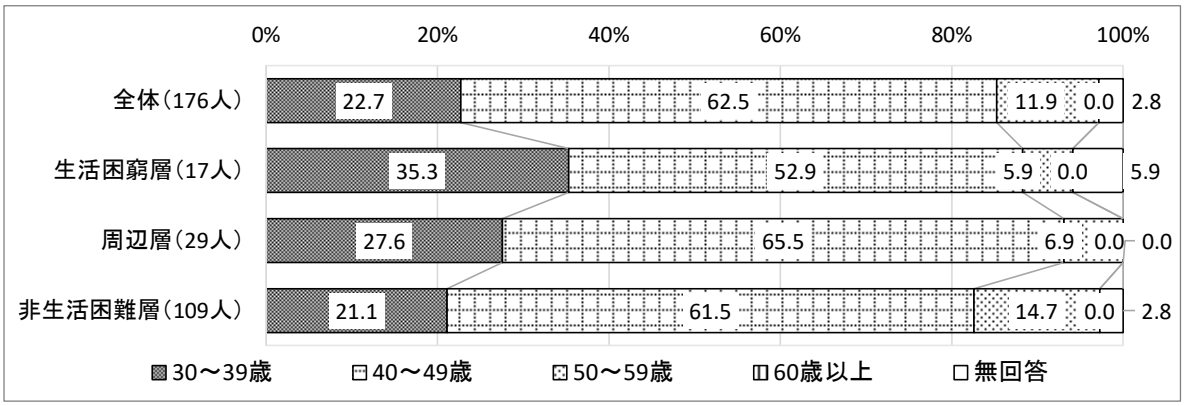
（1）親の年齢

問6　お子さんの親の年齢についてお答えください。（それぞれ1つに○）

（母親）

母親の年齢については、「40～49 歳」が 62.5%で最も多く、次いで「30～39 歳」が 22.7%となっています。

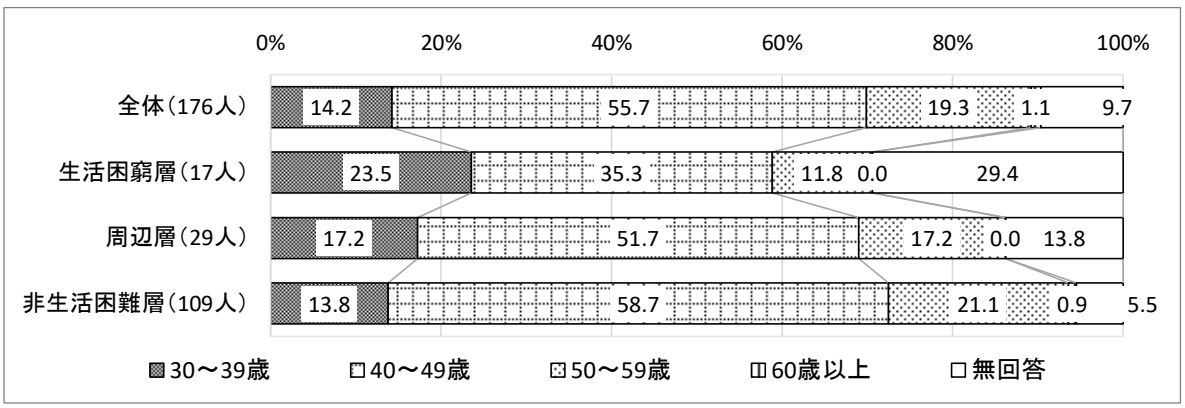
「30～39 歳」については、“生活困窮層”では 35.3%、“周辺層”では 27.6%と、“非生活困難層”の 21.1%よりやや多くなっています。



（父親）

父親の年齢については、「40～49 歳」が 55.7%で最も多く、次いで「50～59 歳」が 19.3%となっています。

「30～39 歳」については、“生活困窮層”では 23.5%、“周辺層”では 17.2%と、“非生活困難層”の 13.8%よりやや多くなっており、「50～59 歳」については、“生活困窮層”では 11.8%、“周辺層”では 17.2%と、“非生活困難層”の 21.1%よりやや少なくなっています



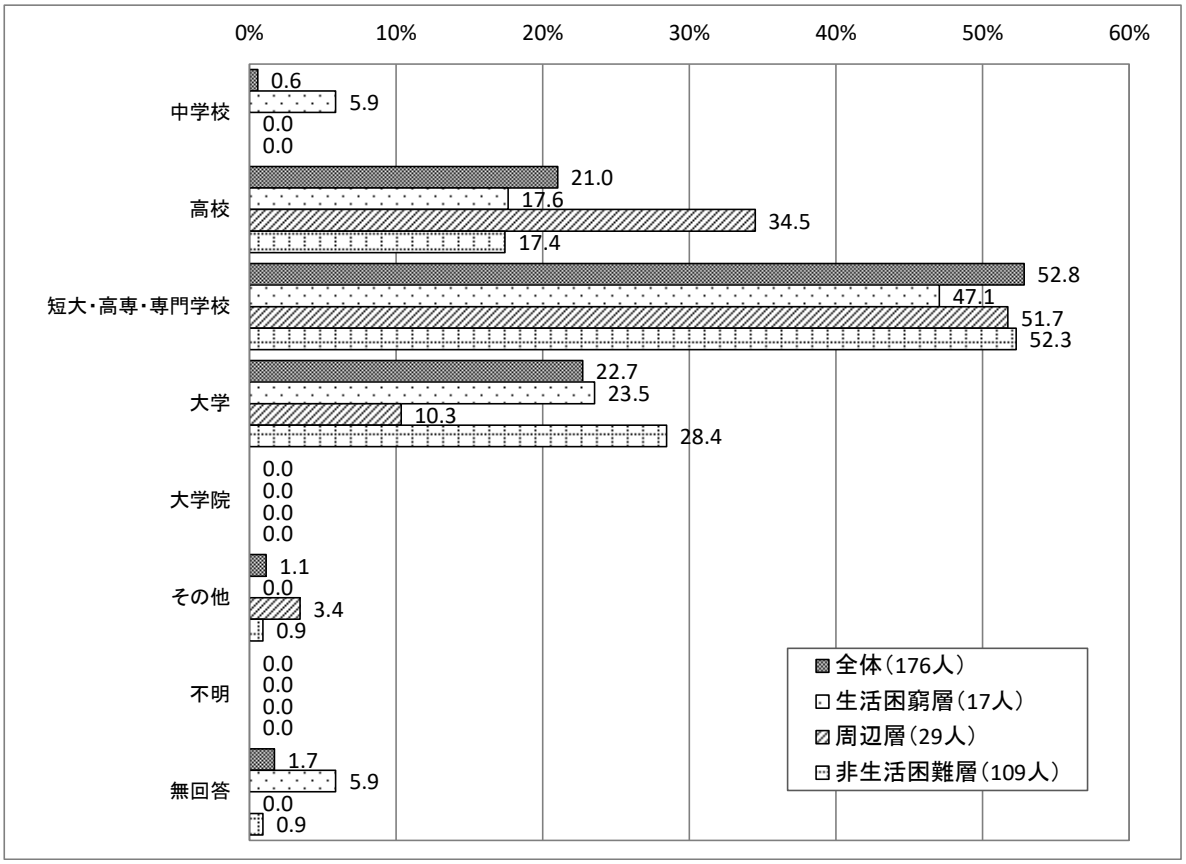
（２）親の最終学歴

問7　お子さんの親が最後に卒業した学校についてお答えください。（それぞれ1つに○）

（母親）

母親の最終学歴については、「短大・高専・専門学校」が 52.8%で最も多く、次いで「大学」が 22.7%となっています。

“周辺層”では「高校」が2番目に多くなっています。

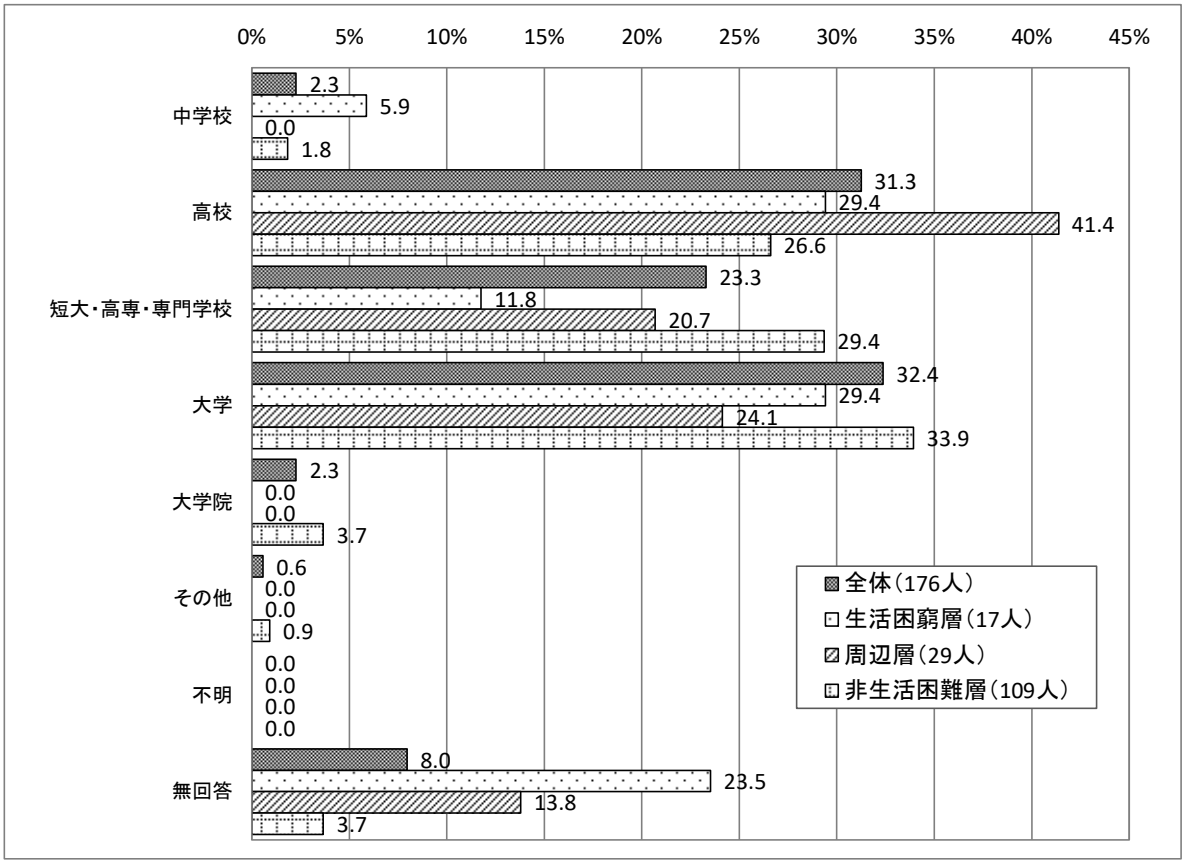


（父親）

父親の最終学歴については、「大学」が 32.4%で最も多く、次いで「高校」が 31.3%となっています。

“生活困窮層”では「高校」と「大学」が共に 29.4%で最も多くなっており、“周辺層”では「高校」が 41.4%で最も多くなっています。“非生活困難層”では「大学」が 33.9%で最も多くなっています。

“生活困窮層”では「無回答」が多くなっています。これは、本設問については母親・父親それぞれの有無に関わらずわかる範囲でその最終学歴を回答いただくこととしていたため、父親のいない世帯でその最終学歴がわからない場合等、「無回答」となっています。



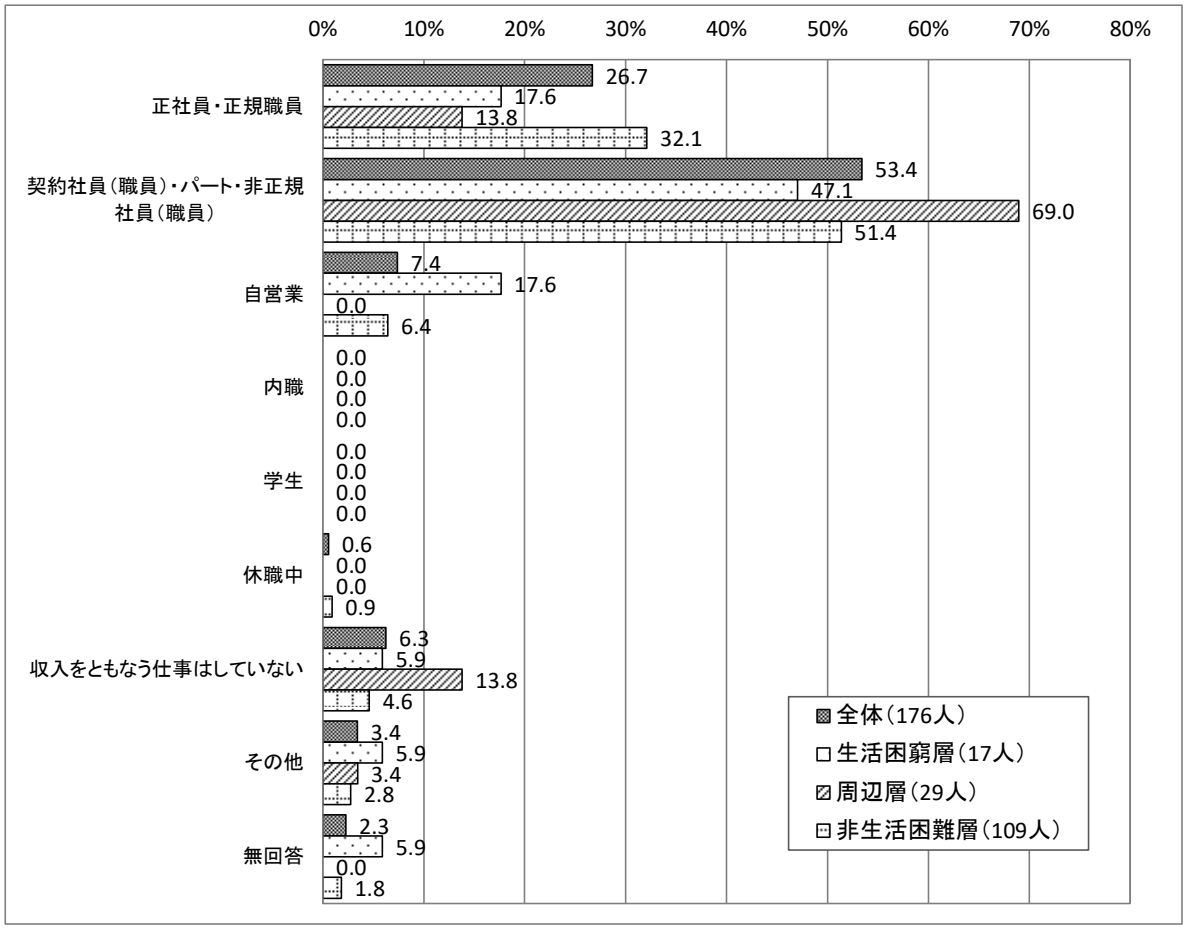
（３）親の就業状況

問8　お子さんの親の就業状況についてお答えください。（それぞれ1つに○）

（母親）

母親の就業状況については、「契約社員（職員）・パート・非正規社員（職員）」が 53.4%で最も多く、次いで「正社員・正規職員」が 26.7%となっています。

「契約社員（職員）・パート・非正規社員（職員）」については、“非生活困難層”の 51.4%に対し、“周辺層”では 69.0%と多く、一方、「正社員・正規職員」は“非生活困難層”の 32.1%に対し、“生活困窮層”では 17.6%、“周辺層”では 13.8%と少なくなっています。

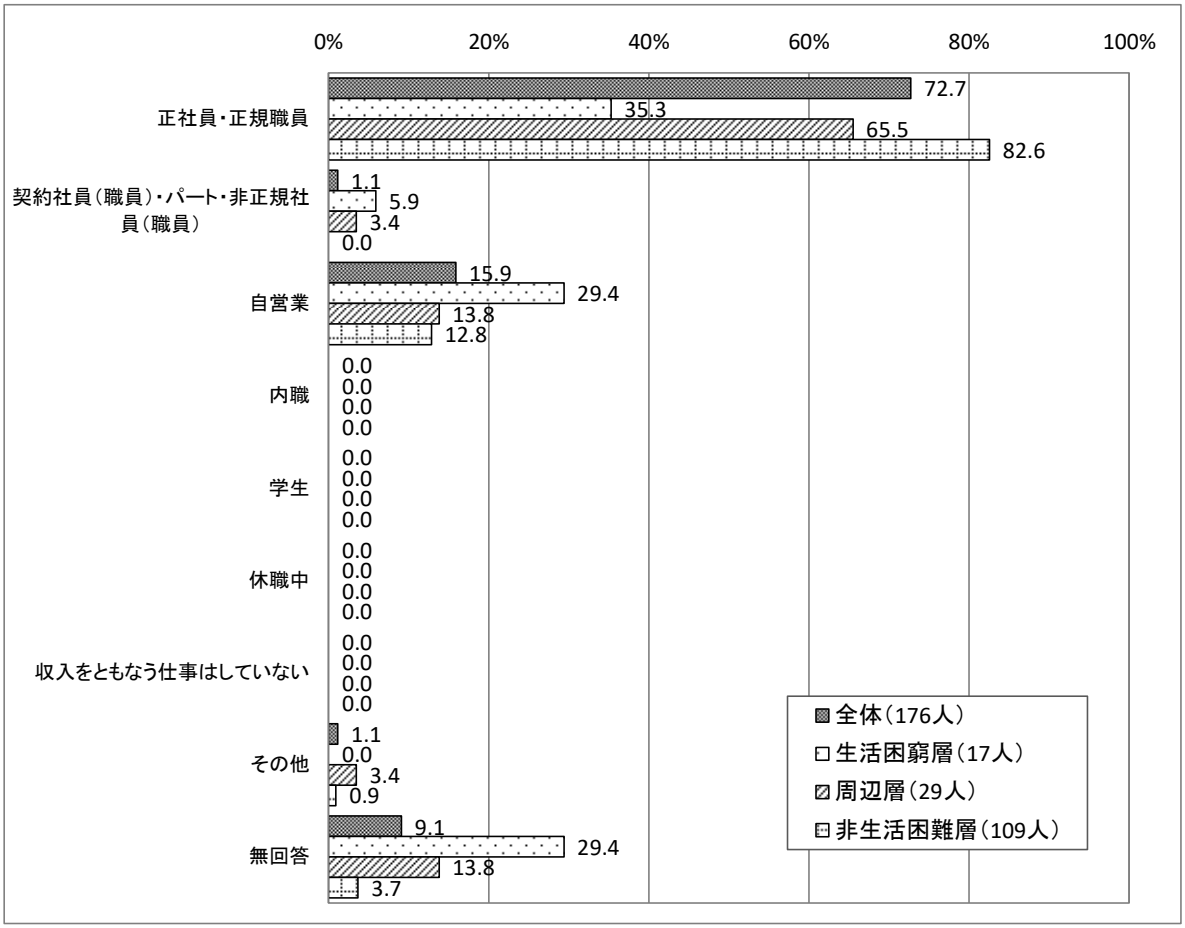


（父親）

父親の就業状況については、「正社員・正規職員」が 72.7%で最も多く、次いで「自営業」が 15.9%となっています。

“生活困窮層”では「自営業」が 29.4%と“周辺層 “非生活困難層”に比べて多くなっています。

また、“生活困窮層”では「無回答」も多くなっています。これは母親・父親それぞれの有無に関わらず、わかる範囲でその就業状況を回答いただくこととしていたため、父親のいない世帯で就業状況がわからない場合等、「無回答」となっています。



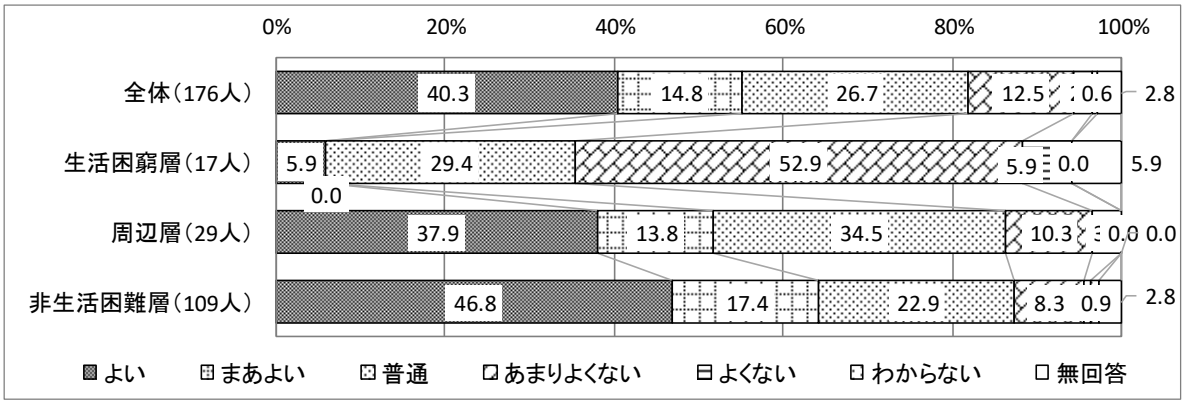
（４）親の健康状態

問9　ここ数か月のお子さんの親の健康状態についてお答えください。（それぞれ1つに○）

（母親）

母親の健康状態については、「よい」が 40.3%で最も多く、次いで「普通」が 26.7%となっています。

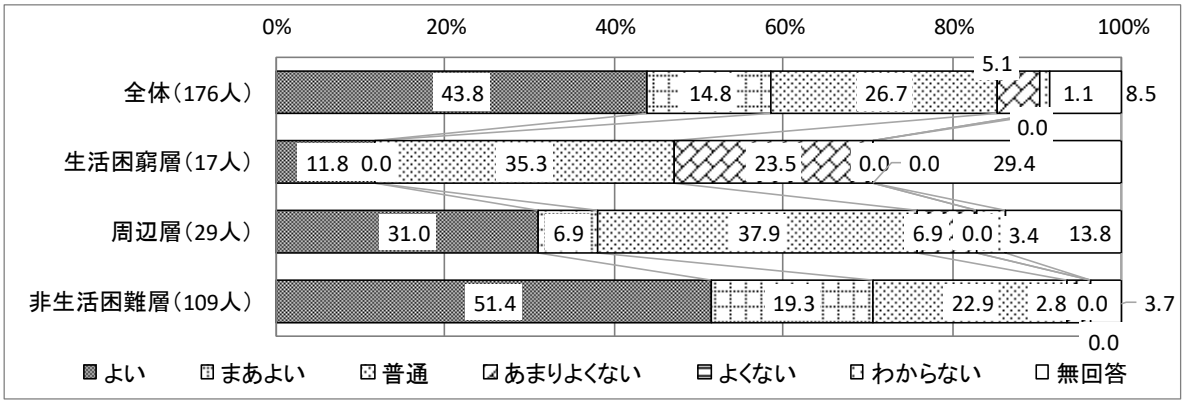
“生活困窮層”では「よい」が 5.9%と少ないのに対し、「あまりよくない」が 52.9%と半数以上となっています。



（父親）

父親の健康状態については、「よい」が 43.8%で最も多く、次いで「普通」が 26.7%となっています。

“生活困窮層”では「よい」が 11.8%と少ないのに対し、「あまりよくない」が 23.5%と“周辺層”“非生活困難層”に比べて多くなっています。



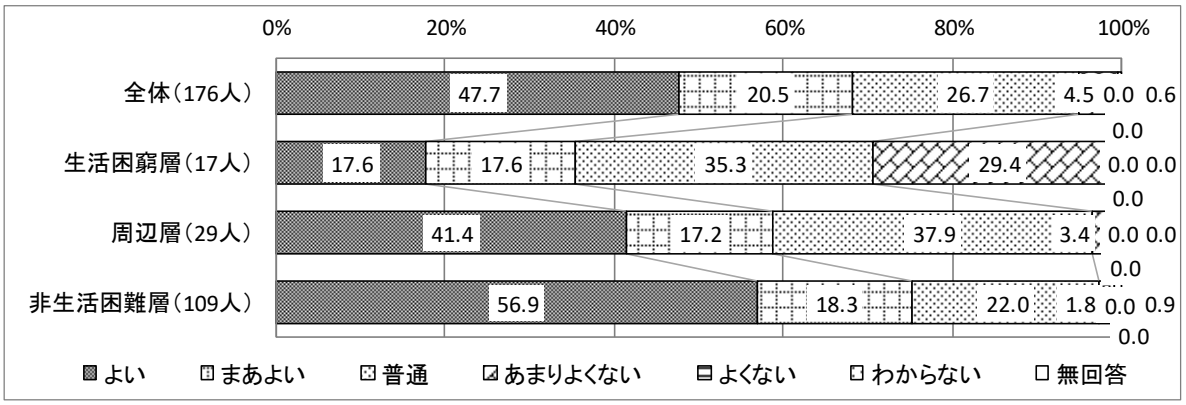
2．子どもの健康について

（1）子どもの健康状態

問10　ここ数か月のお子さんの健康状態についてお答えください。(1つに○)

子どもの健康状態については、「よい」が 47.7%で最も多く、次いで「普通」が 26.7%となっています。

“生活困窮層”では「よい」が 17.6%と少ないのに対し、「あまりよくない」が 29.4%と“周辺層”“非生活困難層”に比べて多くなっています。

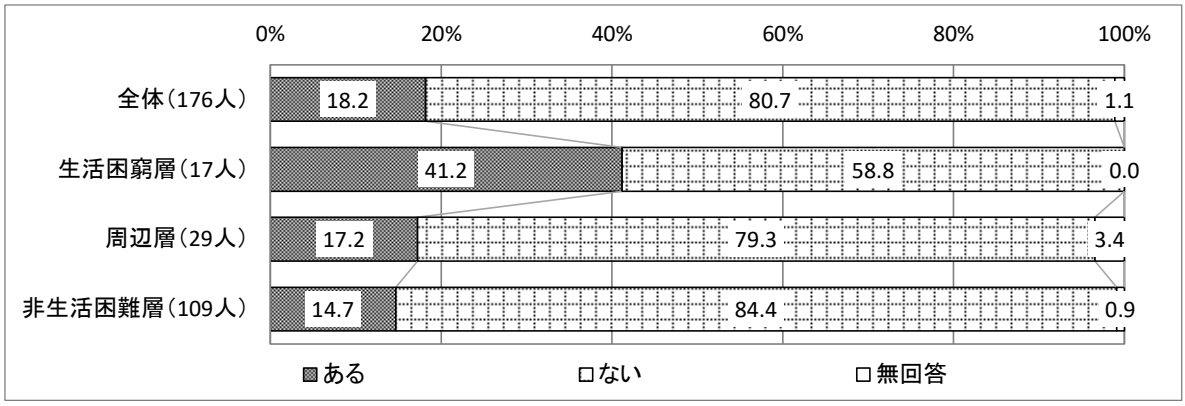


（2）受診が必要であるのに受診しなかった経験

問11　過去1年間に、お子さんの病気や怪我の治療のために病院や診療所を受診したほうがよいと思ったのに、実際には受診しなかったことがありますか。(1つに○)

受診が必要であるのに受診しなかった経験については、「ある」が 18.2%となっています。

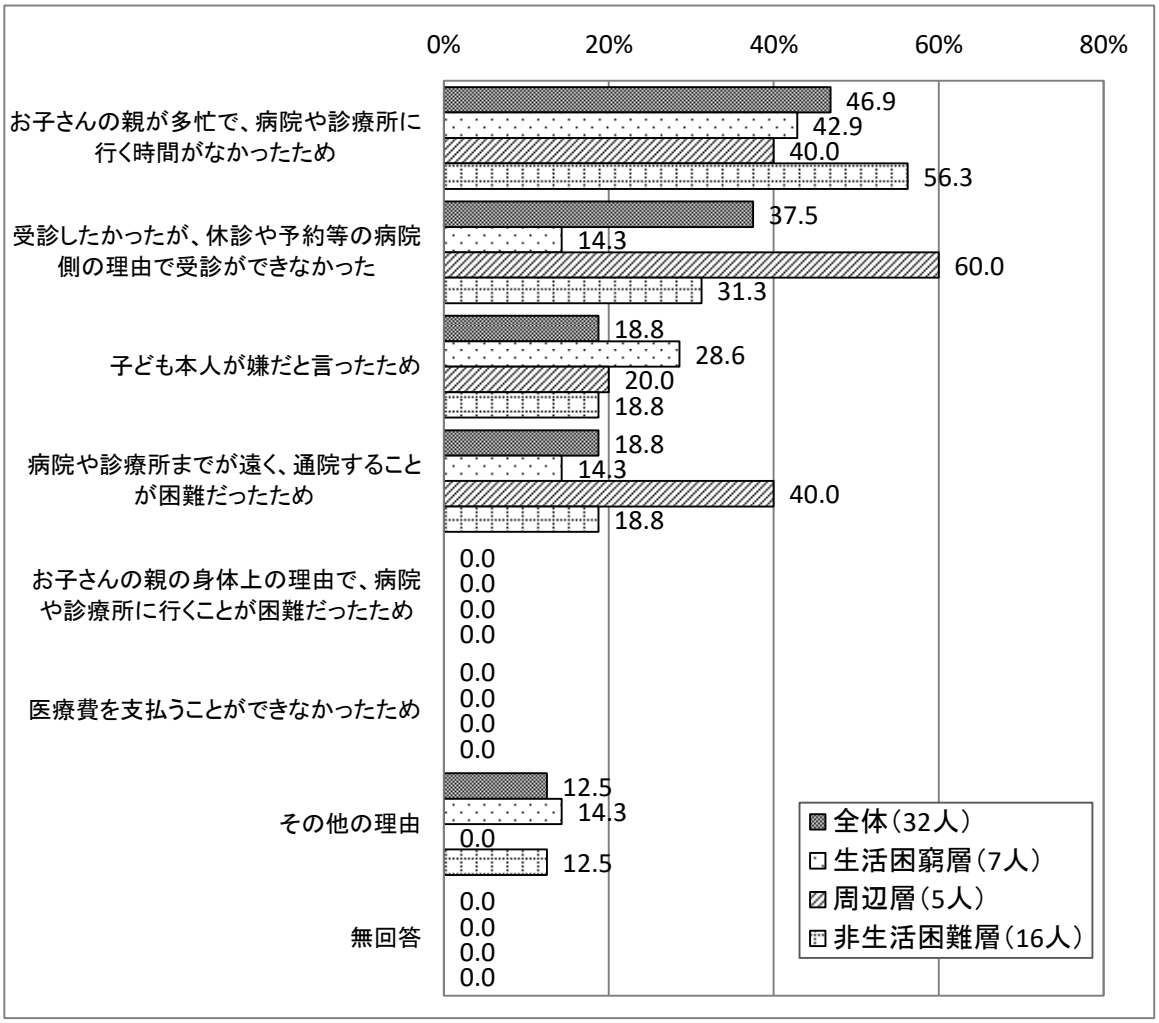
“ある”については、“非生活困難層”が 14.7%であるのに対し、“生活困窮層”では 41.2%と高くなっています。



（3）受診しなかった理由

問11－1　問11で「1　ある」を選んだ方にうかがいます。
受診しなかった理由をお答えください。（あてはまるものすべてに○）

受診しなかった理由としては、「お子さんの親が多忙で、病院や診療所に行く時間がなかったため」が 46.9%で最も多く、次いで「受診したかったが、休診や予約等の病院側の理由で受診ができなかった」が 37.5%でとなっています。

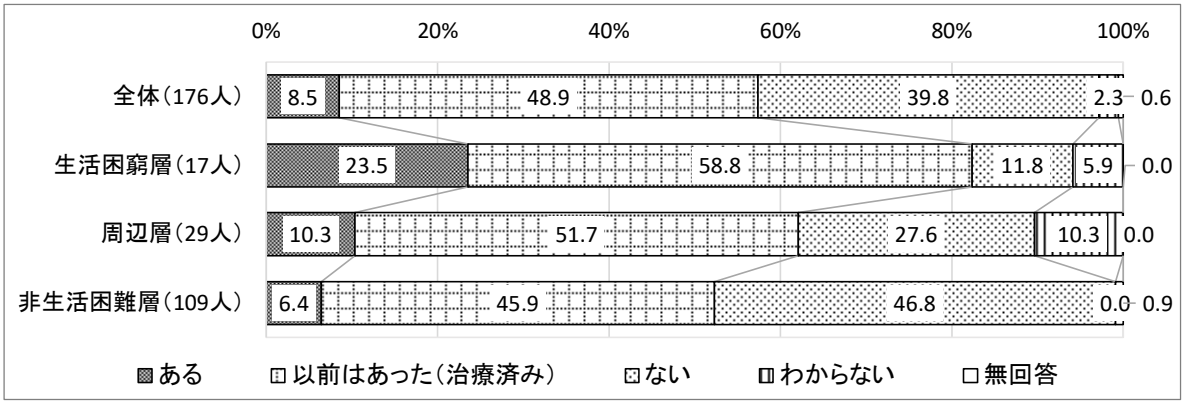


（4）子どもの虫歯

問12　お子さんには、現在むし歯がありますか。（1つに○）

子どもの虫歯については、「以前はあった（治療済み）」が 48.9%で最も多く、次いで「ない」が 39.8%となっています。

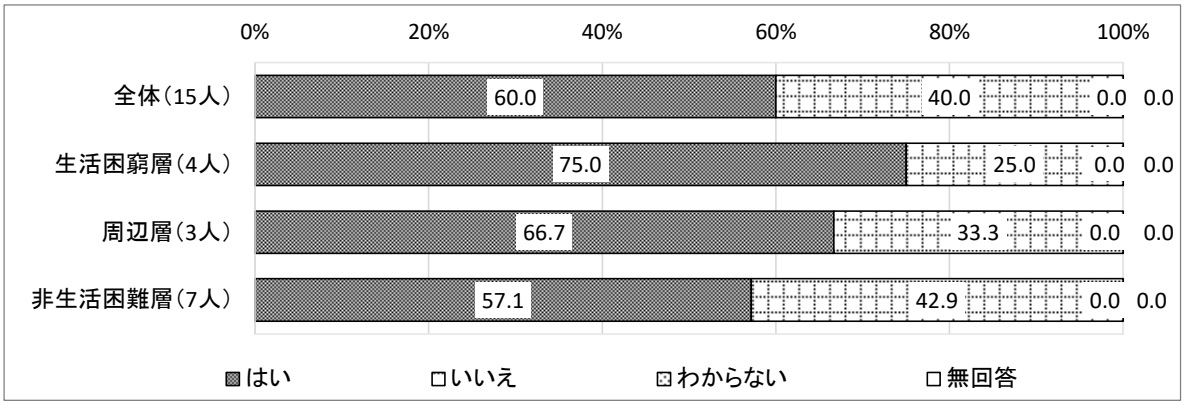
“ある”については、“非生活困難層”が 6.4%であるのに対し、“生活困窮層”では 23.5%と高くなっています。



（5）虫歯の治療

問12－1　問12で「1　ある」を選んだ方にうかがいます。
現在、むし歯を治療中ですか。（1つに○）

子どもの虫歯の治療状況については、「はい」が 60.0%、「いいえ」が 40.0%となっています。



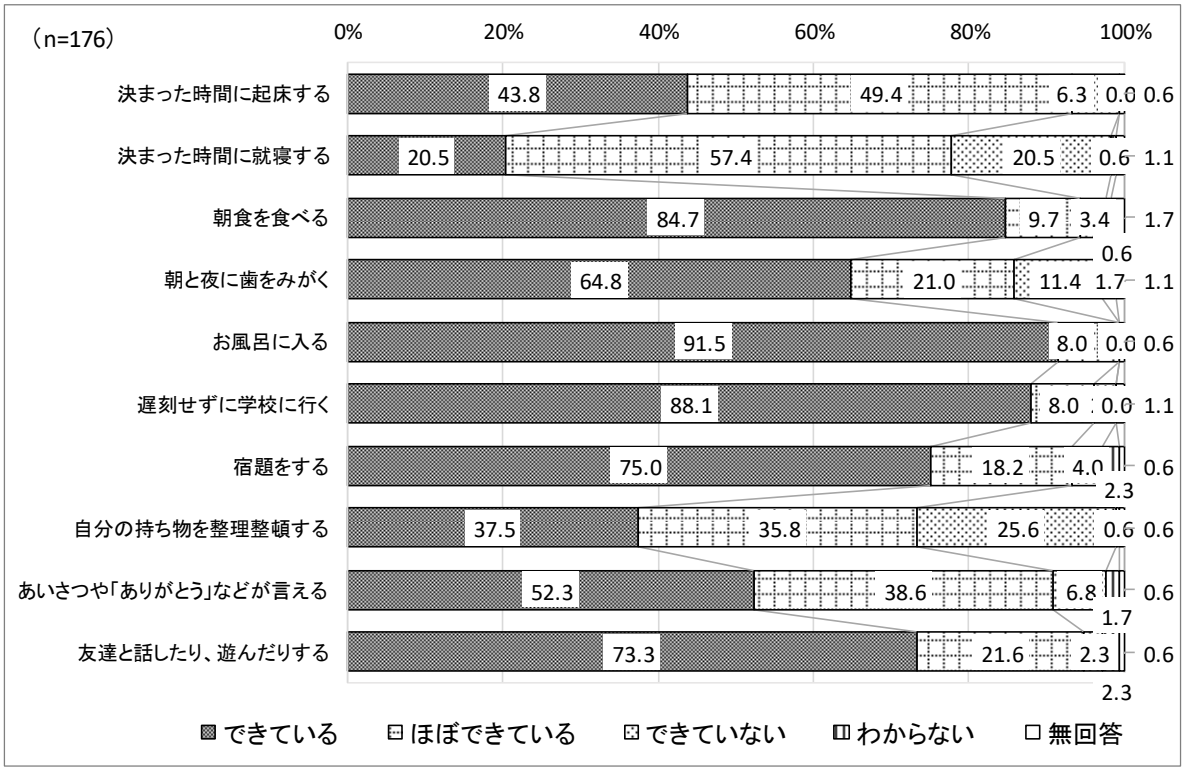
3．子どもの生活・学習習慣について

（1）基本的な生活・学習習慣の状況

問13　お子さんの基本的な生活･学習習慣について、各項目の状況をお答えください。（それぞれ1つに○）

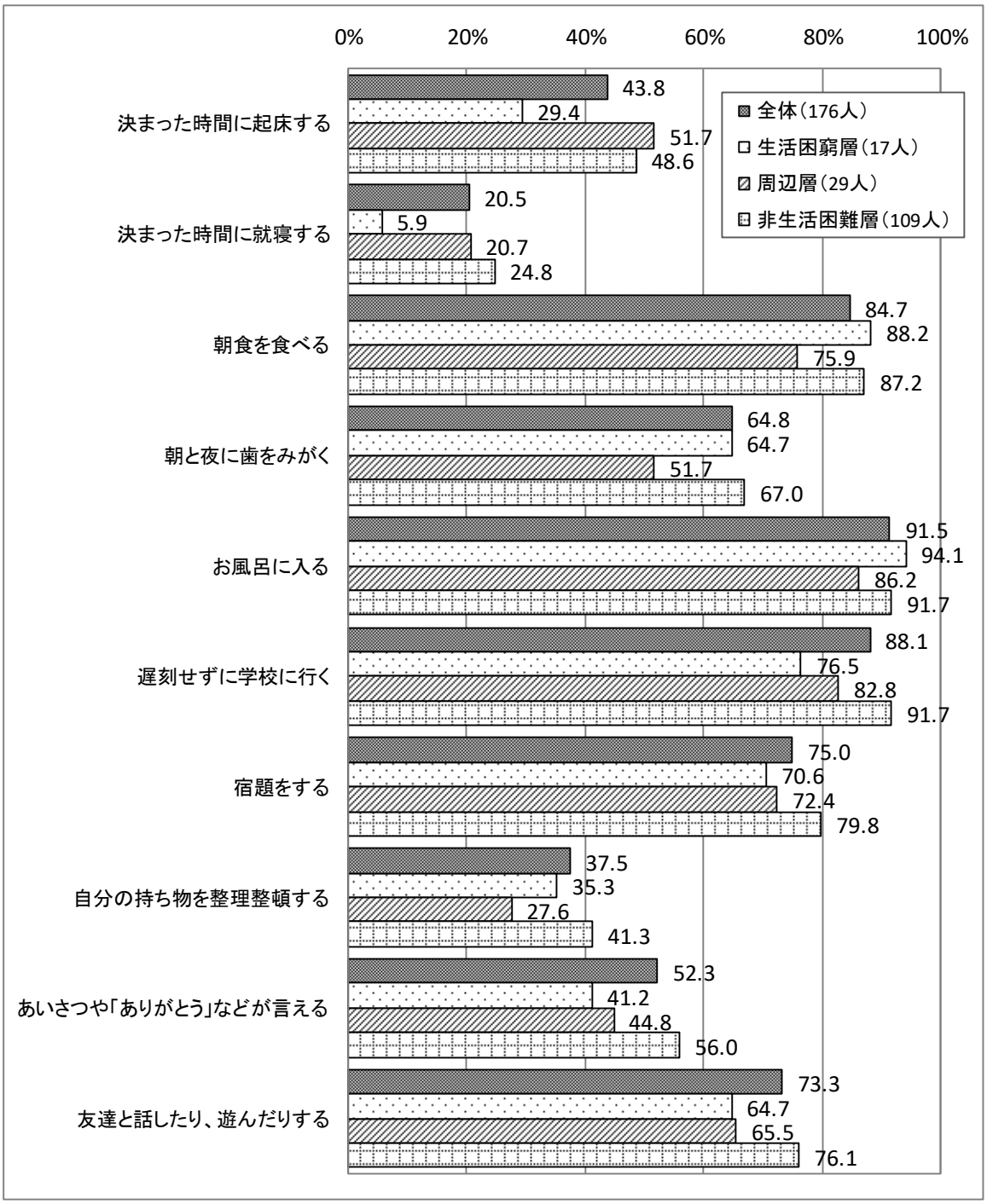
生活･学習習慣の状況についてみると、「できている」が多いのは“お風呂に入る”が 91.5%、“遅刻せずに学校へ行く”が 88.1%等で、これらを含め 10 項目中の7項目で「できている」が 50%以上となっています。

「できている」が 50%未満の項目は、“決まった時間に起床する”が 43.8%、“決まった時間に就寝する”が 20.5%、“自分の持ち物を整理整頓する”が 37.5%の3項目となっています。



「できている」割合を世帯状況別にみると、“生活困窮層”が“非生活困難層”より 10%以上低くなっているのは、「決まった時間に起床する」（29.4%）、「決まった時間に就寝する」（5.9%）、「遅刻せずに学校に行く」（76.5%）、「あいさつや「ありがとう」などが言える」（41.2%）、「友達と話したり、遊んだりする」（64.7%）となっています。

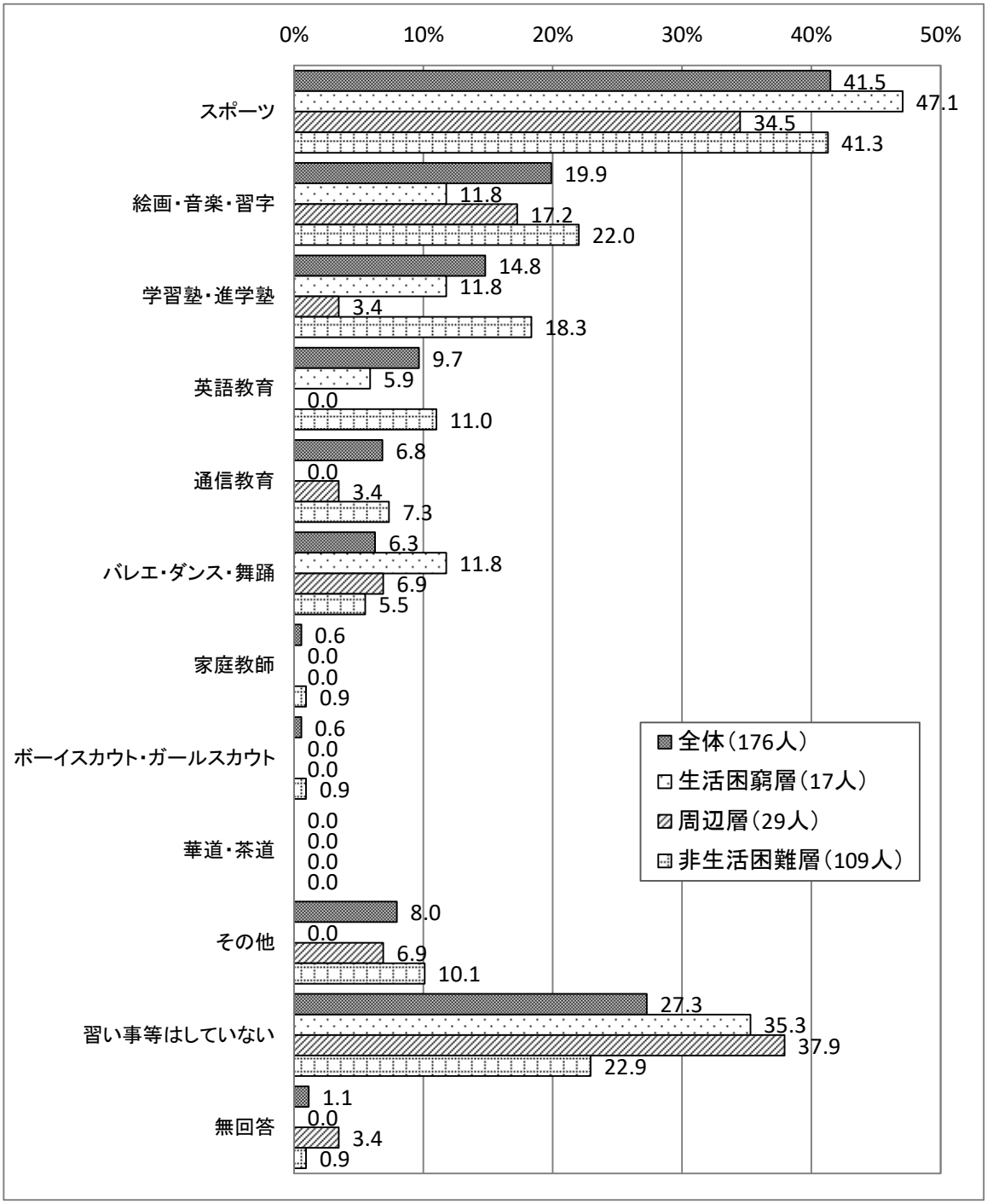
“周辺層”が“非生活困難層”より 10%以上低くなっているのは、「朝食を食べる」（75.9%）、「朝と夜に歯をみがく」（51.7%）、「自分の持ち物を整理整頓する」（27.6%）、「あいさつや「ありがとう」などが言える」（44.8%）、「友達と話したり、遊んだりする」（65.5%）となっています。



（2）習い事等の状況

問14　お子さんは、現在、習い事等をしていますか。（あてはまるものすべてに○）

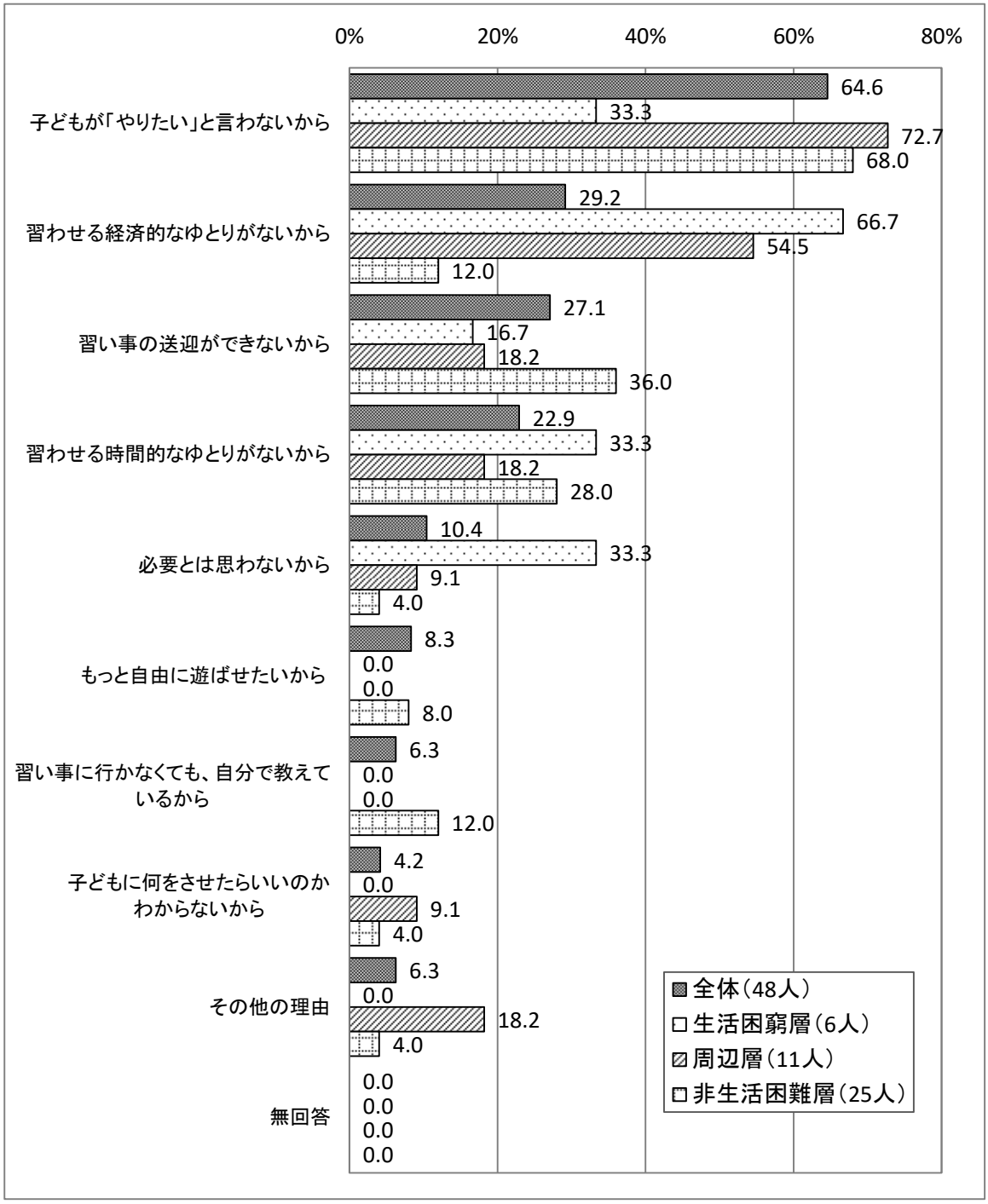
習い事等の状況についてみると、「習い事等はしていない」は、“非生活困難層”では 22.9%であるのに対し、“生活困窮層”では 35.3%、“周辺層”では 37.9%と多くなっています。



（3）習い事をしていない理由

問14－1　問14で、「11　習い事等はしていない」を選んだ方にうかがいます。
習い事等をしていない理由をお答えください。（あてはまるものすべてに○）

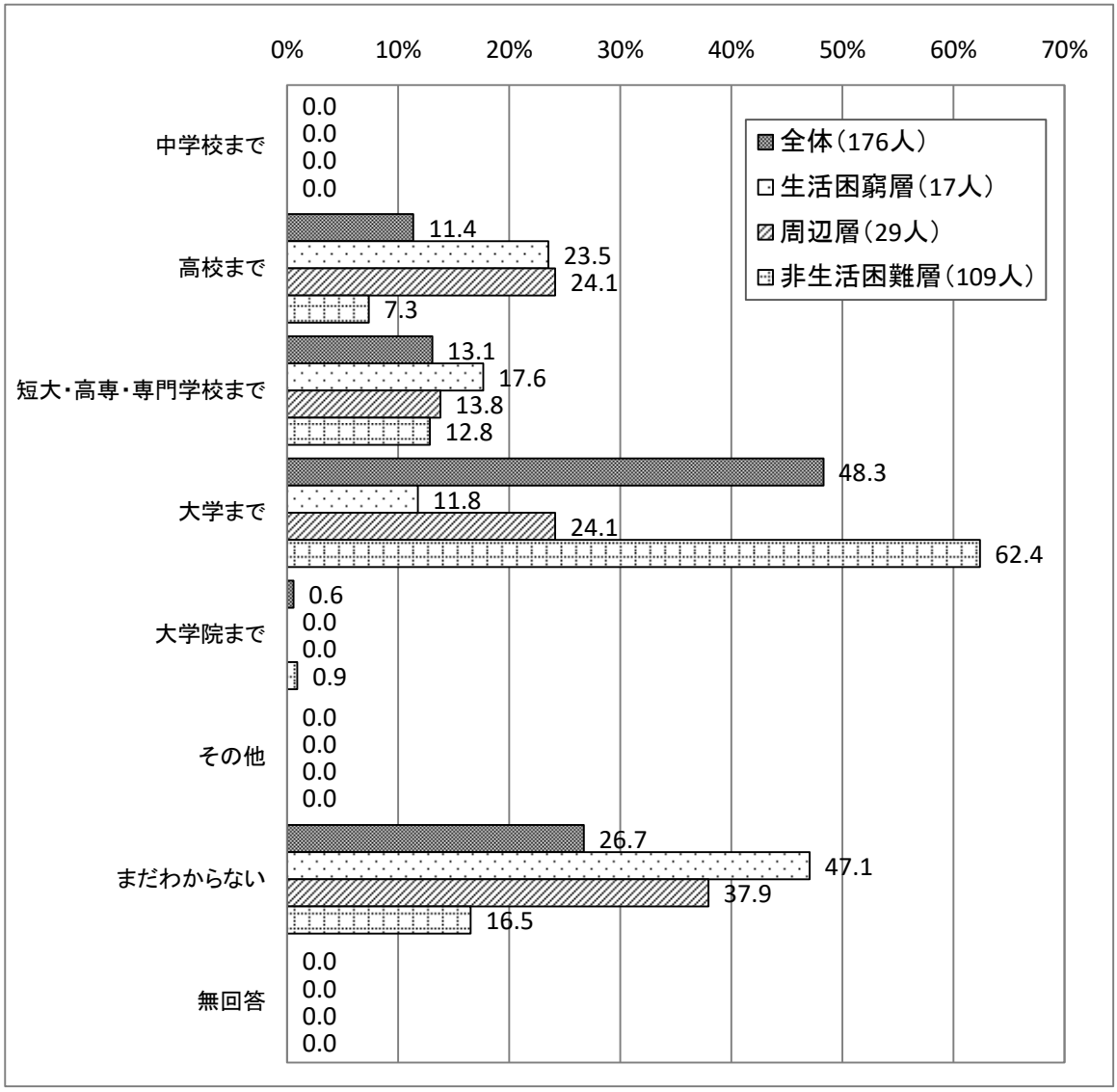
習い事等をしていない理由としては、“非生活困難層”と“周辺層”では「子どもが「やりたい」と言わないから」がそれぞれ 68.0%、72.7%で最も多いのに対し、“生活困窮層”では「習わせる経済的なゆとりがないから」が 66.7%で最も多くなっています。



（4）将来の進学見通し

問15　お子さんは、将来どの学校まで行くことになると思いますか。（1つに○）

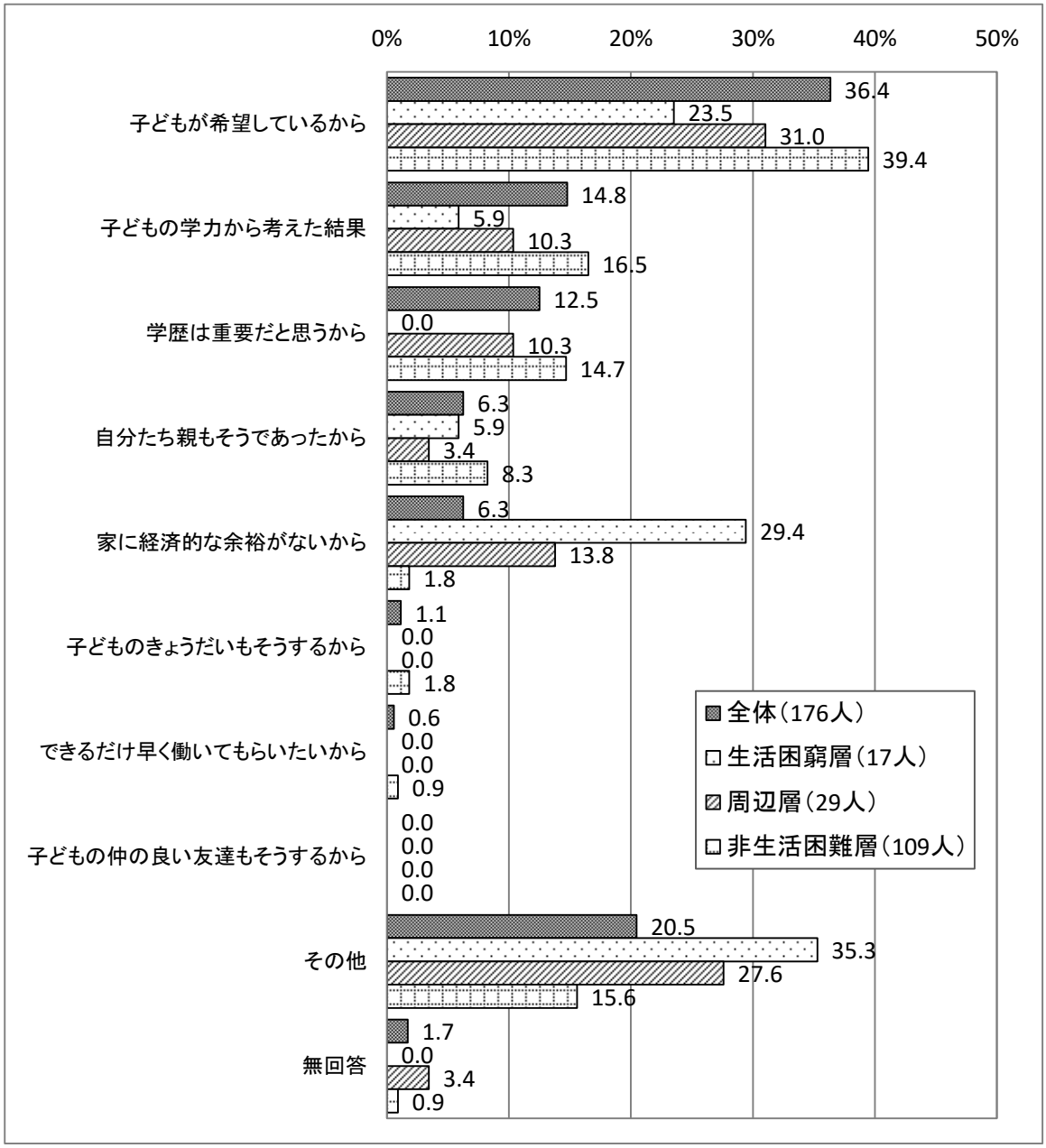
子どもの将来の進学見通しについては、“非生活困難層”では「大学まで」が 62.4%と最も多いのに対し、“生活困窮層”と“周辺層”では「まだわからない」が最も多くなっています。



（５）進学見通しの理由

問16　問15でそう考える最大の理由を教えてください。（1つに○）

進学見通しの理由として、「子どもが希望しているから」が 36.4%で最も多くなっています。
“生活困窮層”では「家に経済的な余裕がないから」が 29.4%で最も多くなっています。

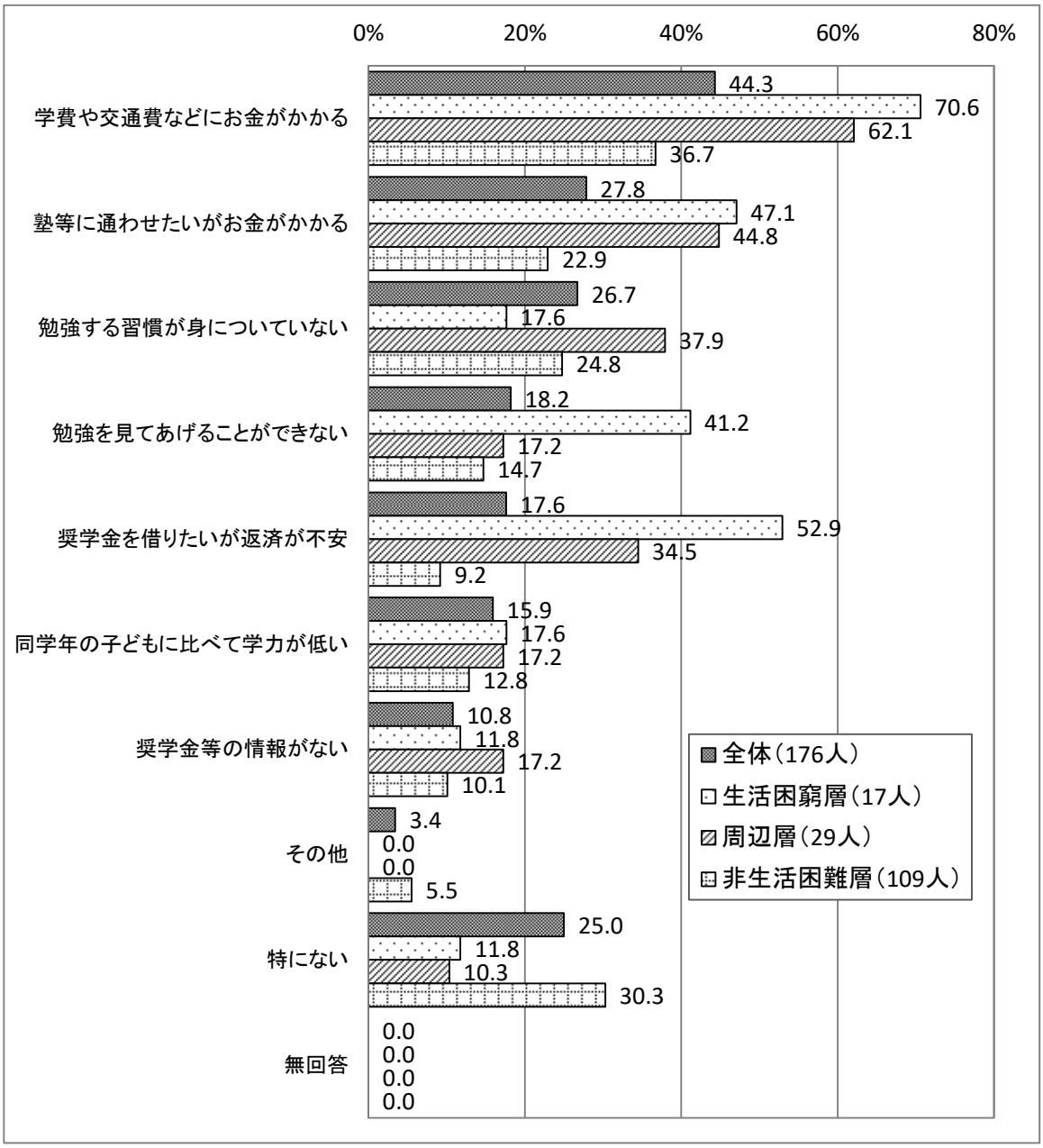


（6）子どもの教育や進学で心配なこと

問17　お子さんの教育や進学に関して心配なことは何ですか。　（あてはまるものすべてに○）

子どもの教育や進学で心配なことについては、「学費や交通費などにお金がかかる」が44.3%で最も多く、次いで塾等に通わせたいがお金がかかる」が 27.8%、「勉強する習慣が身についていない」が 26.7%となっています。

ほとんどの項目で“生活困窮層”と“周辺層”が“非生活困難層”を上回っていますが、特に「学費や交通費などにお金がかかる」「塾等に通わせたいがお金がかかる」「奨学金を借りたいが返済が不安」など経済的な項目が多く挙げられています。

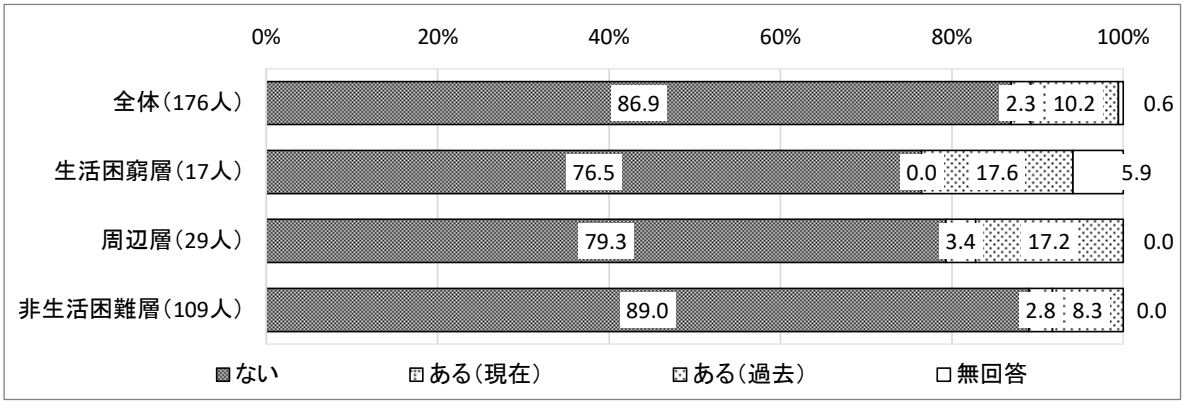


（7）子どもの不登校や学校に行かなくなった経験

問18　お子さんは不登校や学校に行かなくなった（行けなくなった）時期がありますか。（1つに○）

子どもの不登校や学校に行かなくなった経験については、「ない」が 86.9%、「ある（現在）」が 2.3%、「ある（過去）」が 10.2%）となっています。

“生活困窮層”と“周辺層”では、「ある（過去）」がそれぞれ 17.6%、17.2%と“非生活困難層”の 8.3%に比べ多くなっています。



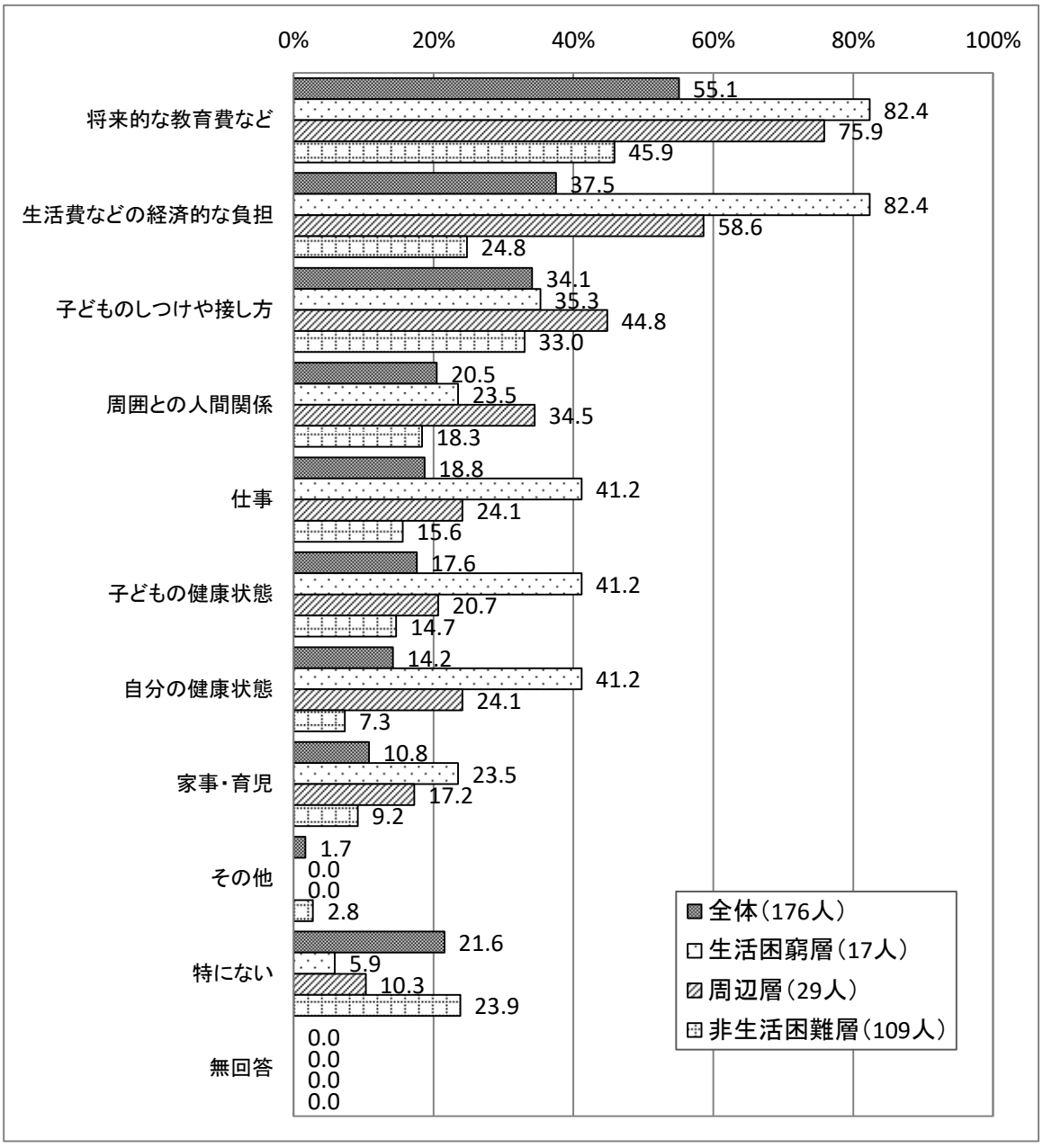
4．子育ての悩みや相談について

（1）子育てについての心配や悩み事

問19　あなたは、子育てなどについて、心配や悩み事はありますか。（あてはまるものすべてに○）

子育てについての心配や悩み事については、「将来的な教育費など」が 55.1%で最も多く、次いで「生活費などの経済的な負担」が 37.5%、「子どものしつけや接し方」が 34.1%となっています。

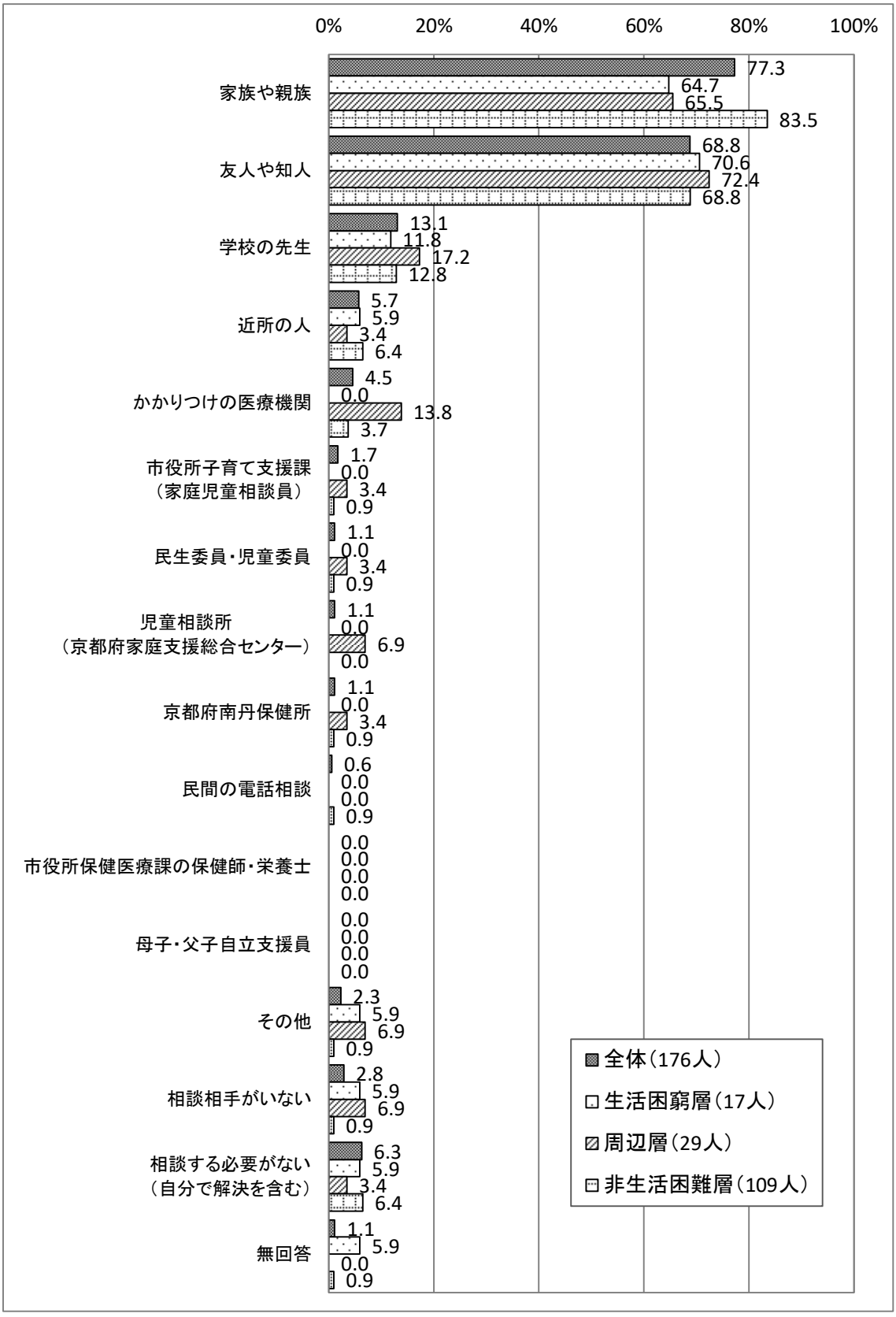
「子どものしつけや接し方」と「周囲との人間関係」以外では、“生活困窮層”で挙げられている割合が多く、特に経済的な項目について高くなっています。



（２）心配や悩み事の相談先

問20　あなたは、心配や悩み事などを誰に相談していますか。（あてはまるものすべてに○）

心配や悩み事の相談先については、「家族や親族」が 77.3%で最も多く、次いで「友人や知人」が 68.8%となっています。



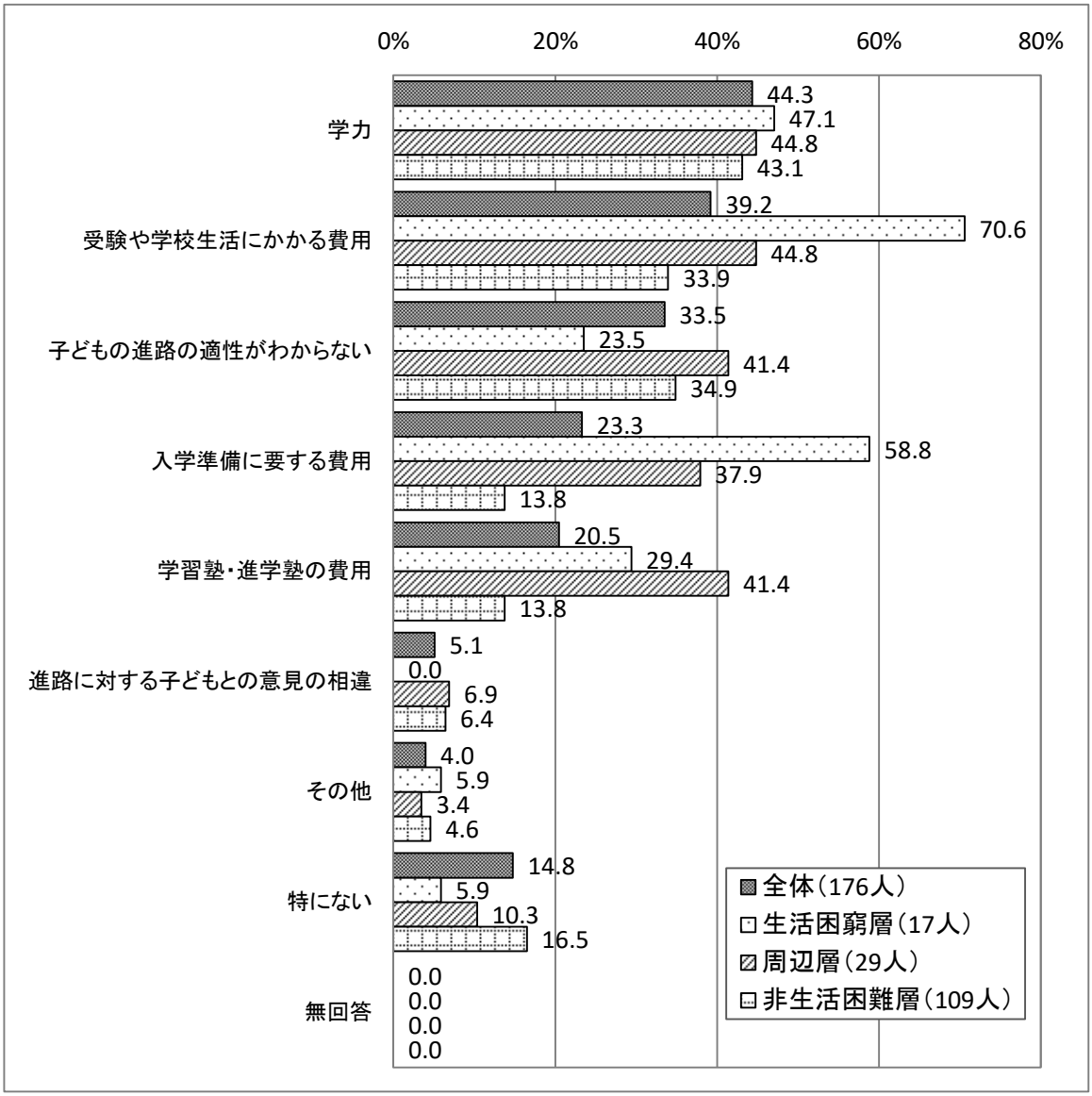
（3）子どもの進学で不安に思っていること

問21　お子さんが今後、中学校または高校に進学するにあたり、不安に思っていることは、どんなことですか。（3つまで○）

子どもの進学で不安に思っていることについては、「学力」が 44.3%で最も多く、次いで「受験や学校生活にかかる費用」が 39.2%、「子どもの進路の適性がわからない」が 33.5%となっています。

“生活困窮層”では「受験や学校生活にかかる費用」が 70.6%で最も多く、次いで「入学準備に要する費用」が 58.8%となっています。

“周辺層”では「学習塾・進学塾の費用」が 41.4%と、“生活困窮層”や“非生活困難層”に比べて多くなっています。



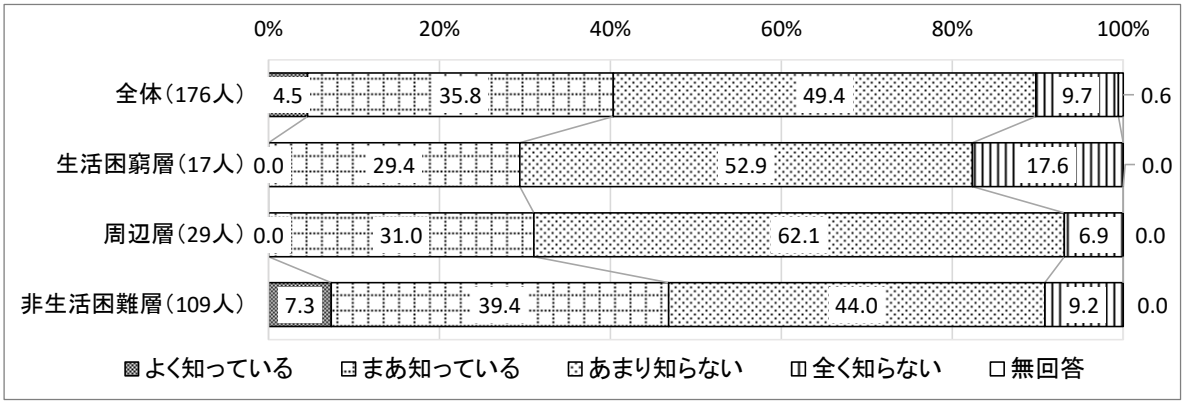
（4）奨学金制度の認知度

問22　高校や大学等へ進学するための奨学金制度について、知っていますか。（1つに○）

高校や大学に進学のための奨学金制度の認知度については、「よく知っている」（4.5%）と「まあ知っている」（35.8%）を合わせた『知っている』は 40.3%となっています。

“生活困窮層”と“周辺層”では「よく知っている」は0%で、「まあ知っている」がそれぞれ29.4%、31.0%となっています。

また、“生活困窮層”では「全く知らない」が 17.6%と多くなっています。

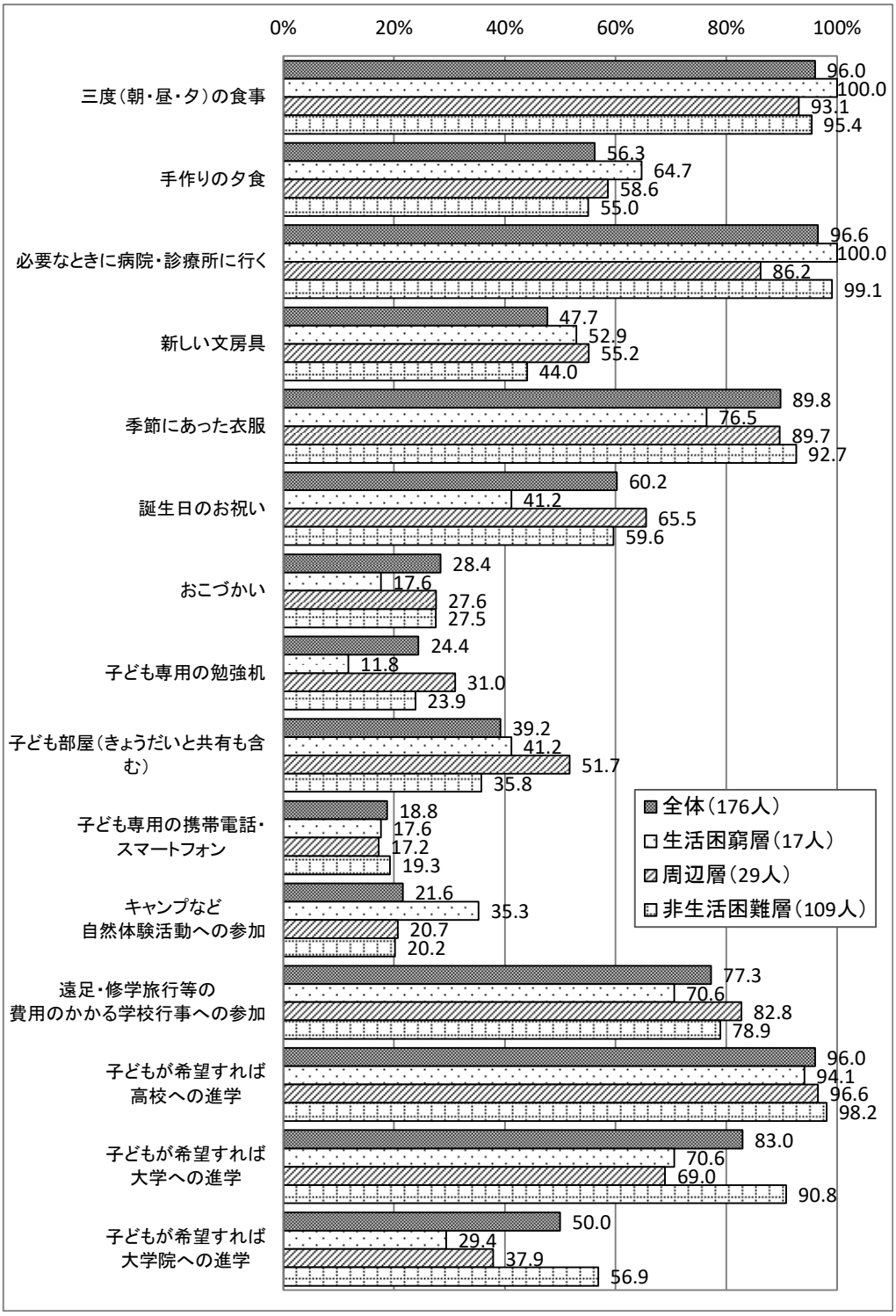


5．子どもを取り巻く環境・モノについて

（1）子どもにとって必要な環境・モノ

問23　次のような環境・モノについて、子どもにとって必要であると思いますか。（それぞれ1つに○）

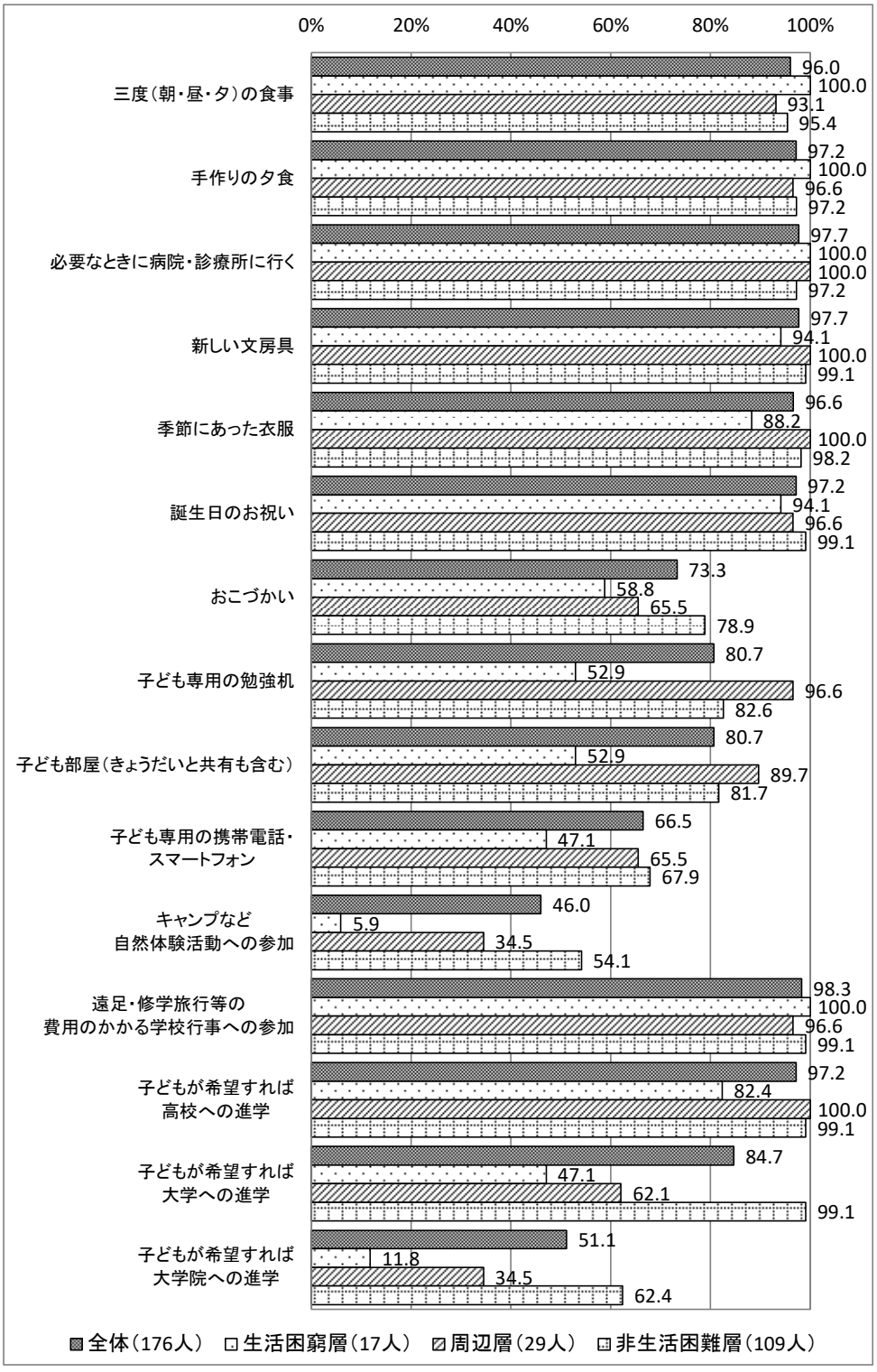
子どもにとって必要な環境・モノについて、「必要である」の割合をみてみると、“非生活困難層”に比べ“生活困窮層”が 10%以上低いものは、「季節にあった衣服」、「誕生日のお祝い」、「子ども専用の勉強机」「子どもが希望すれば大学への進学」「子どもが希望すれば大学院への進学」となっています。



（2）子どもに与えられている環境・モノ

問24　次のような環境・モノについて、あなたの家庭では経済的な理由によりお子さんに与えられていないものや与えられそうにないものがありますか。（それぞれ1つに○）

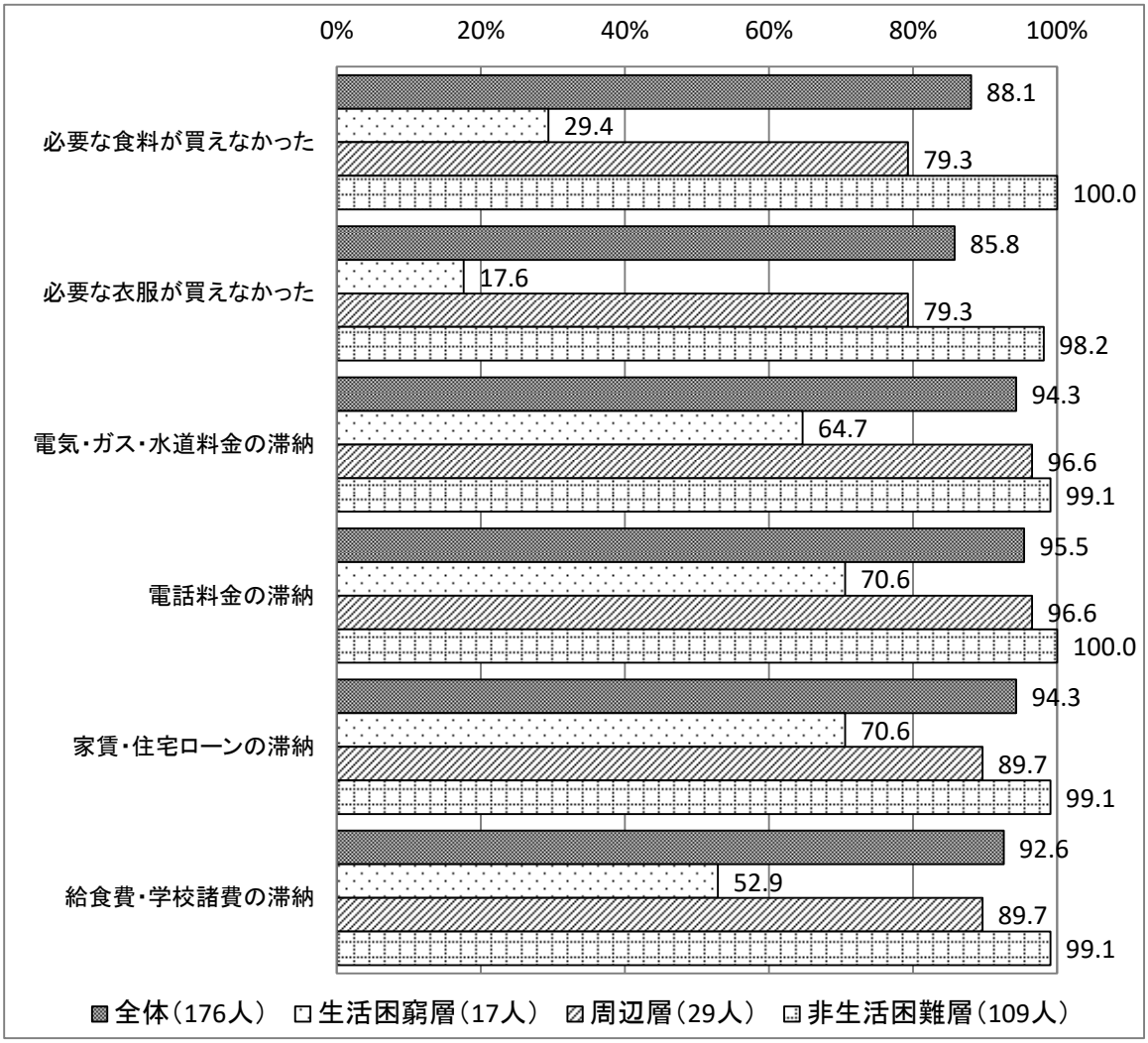
お子さんに与えられている環境・モノについて、「与えられている（与えられる見込である）」割合をみてみると、「おこづかい」、「子ども専用の勉強机」、「子ども部屋（きょうだいと共有も含む）」「子ども専用の携帯電話・スマートフォン」「キャンプなど自然体験活動への参加」「子どもが希望すれば大学への進学」「子どもが希望すれば大学院への進学」については、“非生活困難層”に比べ“生活困窮層”が 20%以上低くなっています。



（３）経済的理由による困窮経験

問25　あなたの世帯（家庭）では、過去1年間に、経済的な理由による次のような経験がありましたか。（それぞれ1つに○）

経済的理由による困窮経験について、「まったくない」割合をみてみると、“生活困窮層”では、「必要な食料が買えなかった」が 29.4%、「必要な衣料が買えなかった」が 17.6%と、他の項目に比べて特に低くなっています。

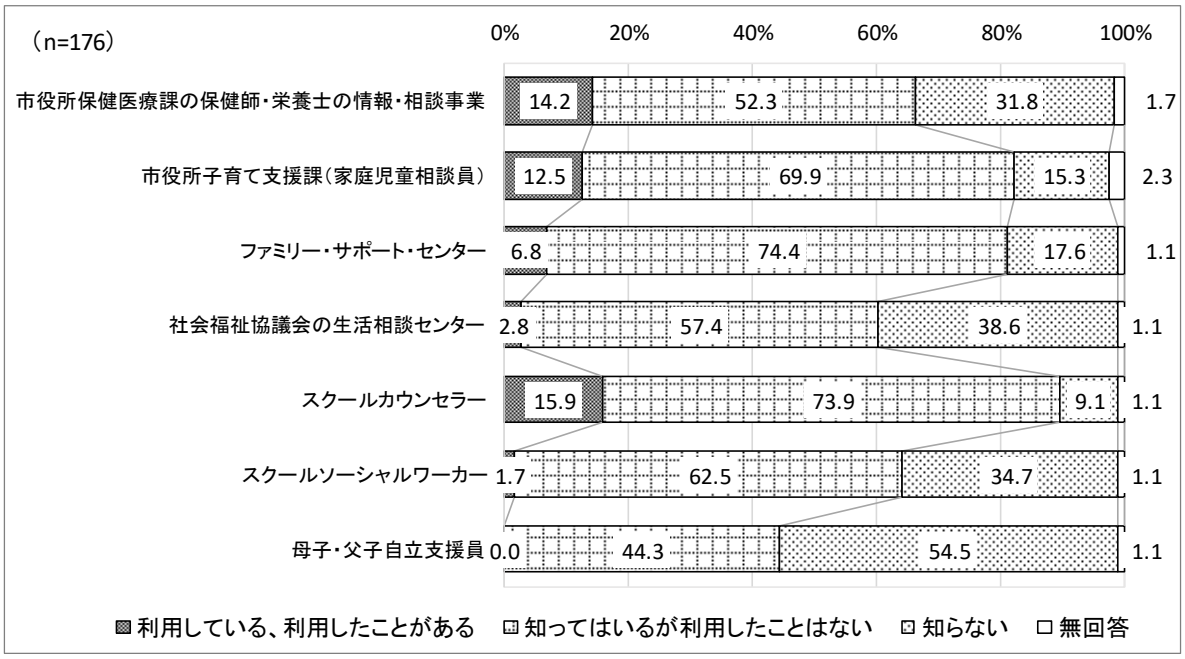


6．各種支援・サービスについて

（1）各種支援・サービスの利用経験

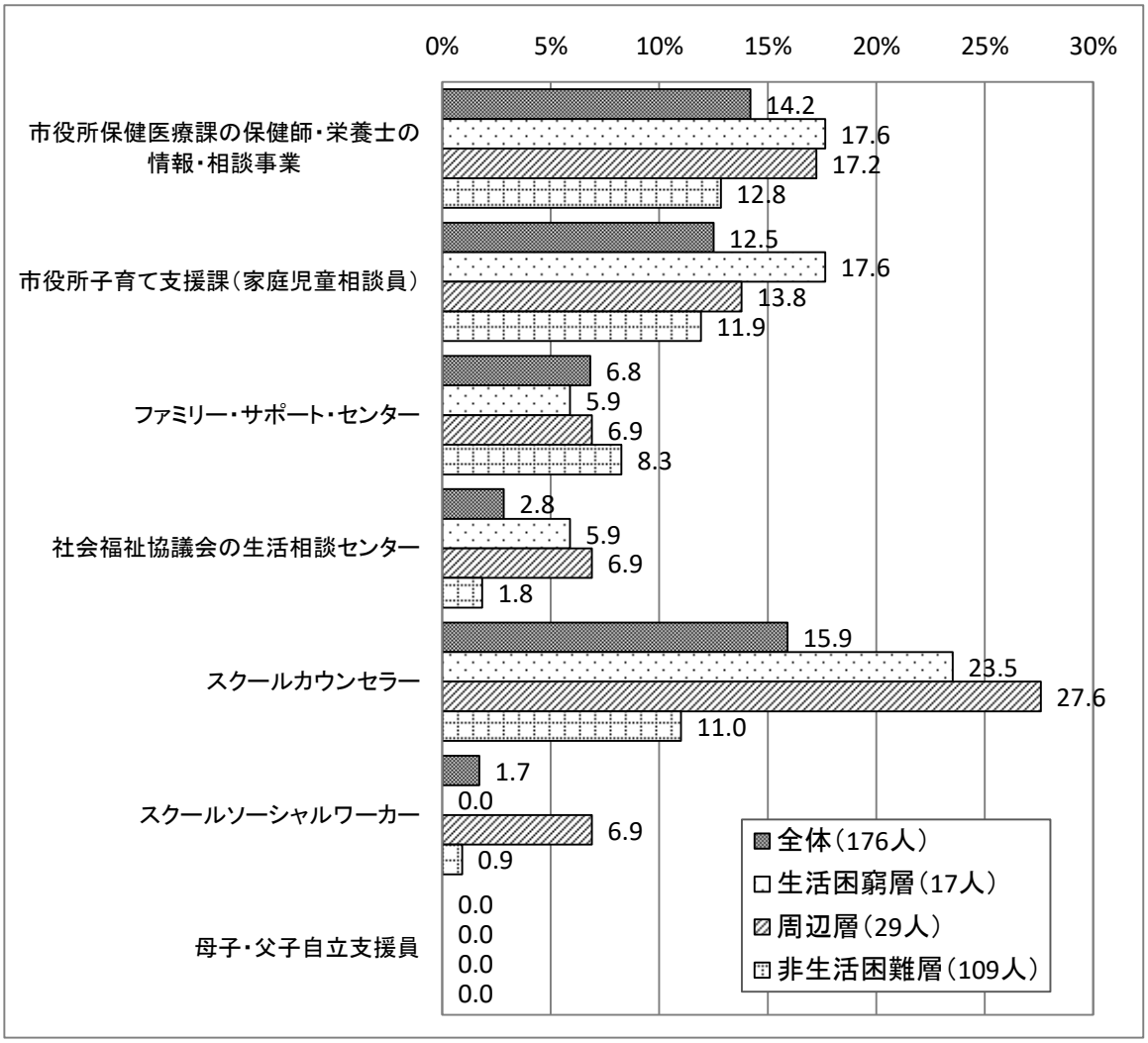
問26　あなたの世帯では、次のような支援・サービスなどを利用したことがありますか。（それぞれ1つに○）

各種支援サービス（7項目）の利用経験については、「利用している、利用したことがある」が最も多いのは、「スクールカウンセラー」で 15.9%、次いで「市役所保健医療課の保健師・栄養士の情報・相談事業」が 14.2%となっています。



各種支援サービスについて「利用している」割合が最も高い項目をみてみると、“生活困窮層”と“周辺層”では「スクールカウンセラー」がそれぞれ 23.5%、27.6%となっています。

“非生活困難層”では「市役所保健医療課の保健師・栄養士の情報・相談事業」が 12.8%となっています。

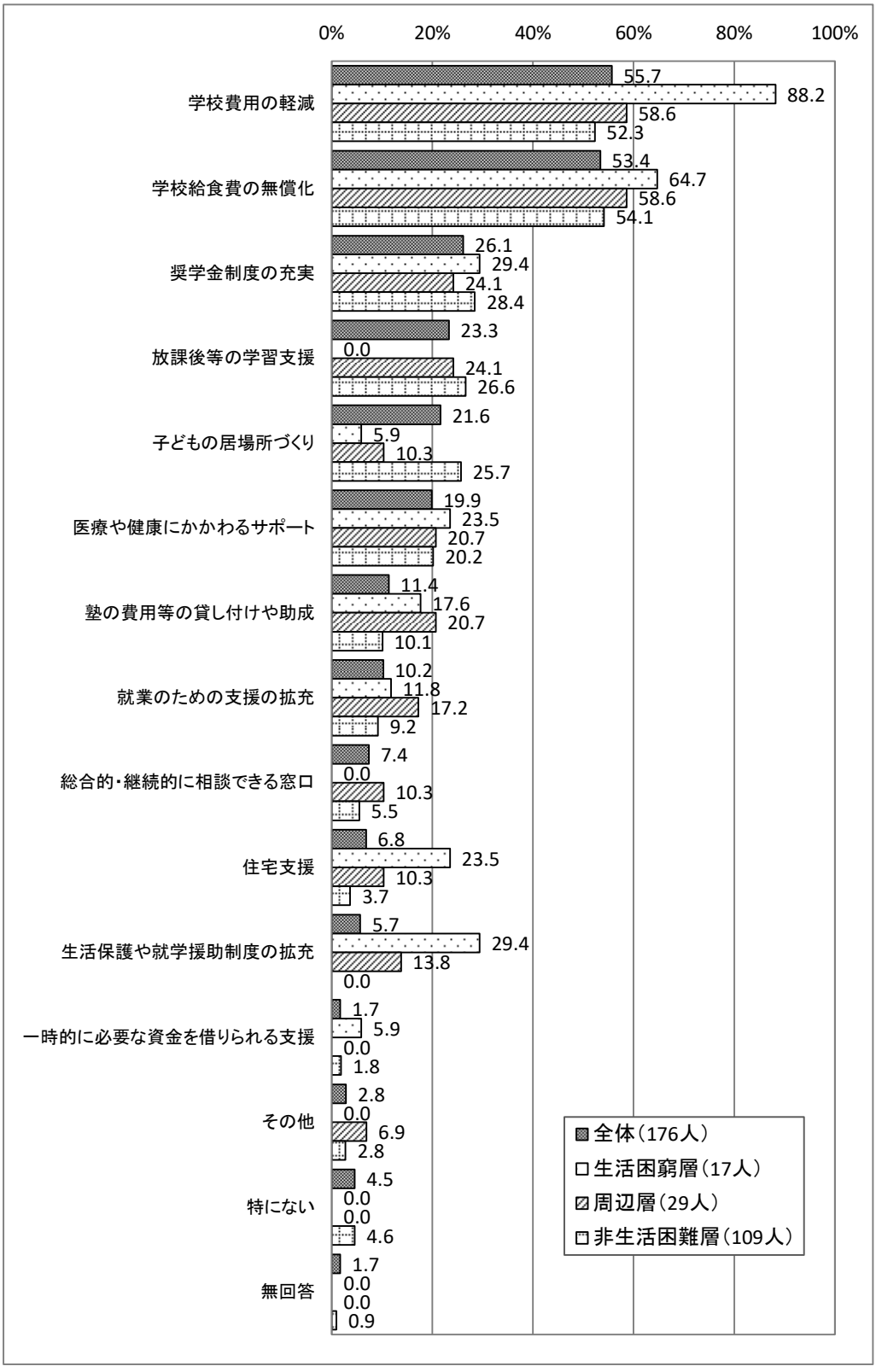


（2）必要だと思う支援

問27　あなたが必要だと思う支援はどのようなことですか。（3つまで○）

必要だと思う支援については、「学校費用の軽減」が 55.7%で最も多く、次いで「学校給食費の無償化」が 53.4%となっています。

“生活困窮層”では、「学校費用の軽減」（88.2%）、「住宅支援」（23.5%）、「生活保護や就学援助制度の拡充」（29.4%）が、“周辺層”や“非生活困難層”に比べ多くなっています。

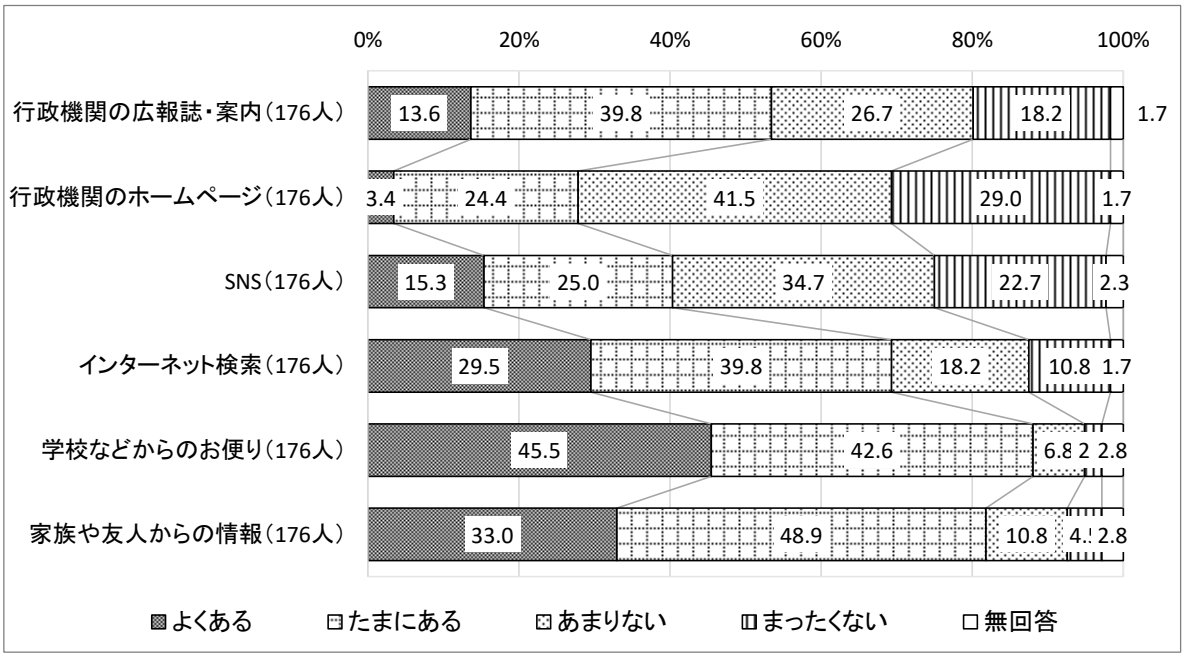


（１）情報を得るための媒体

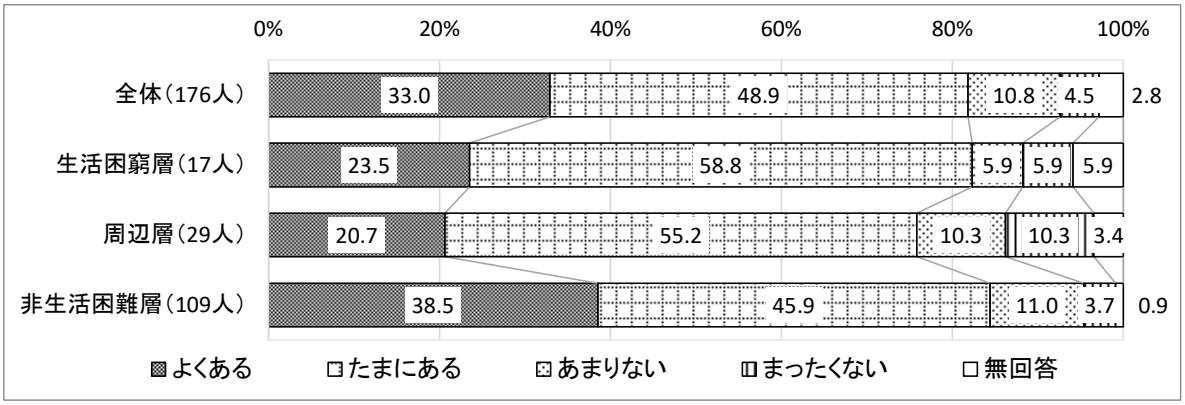
問28　子どもに関する施策等の情報を得るために以下のようなものをどの程度参考にしていますか。（それぞれ1つに○）

施策等の情報を得るために参考としている媒体について、「よくある」の割合についてみると、「学校などからのお便り」が 45.5％で最も多く、次いで「家族や友人からの情報」が 33.0%、「インターネット検索」が 29.5%となっています。

「家族や友人からの情報」については、“非生活困難層”に比べ、“生活困窮層”“周辺層”で「よくある」が少なくなっています。



【家族や友人からの情報】



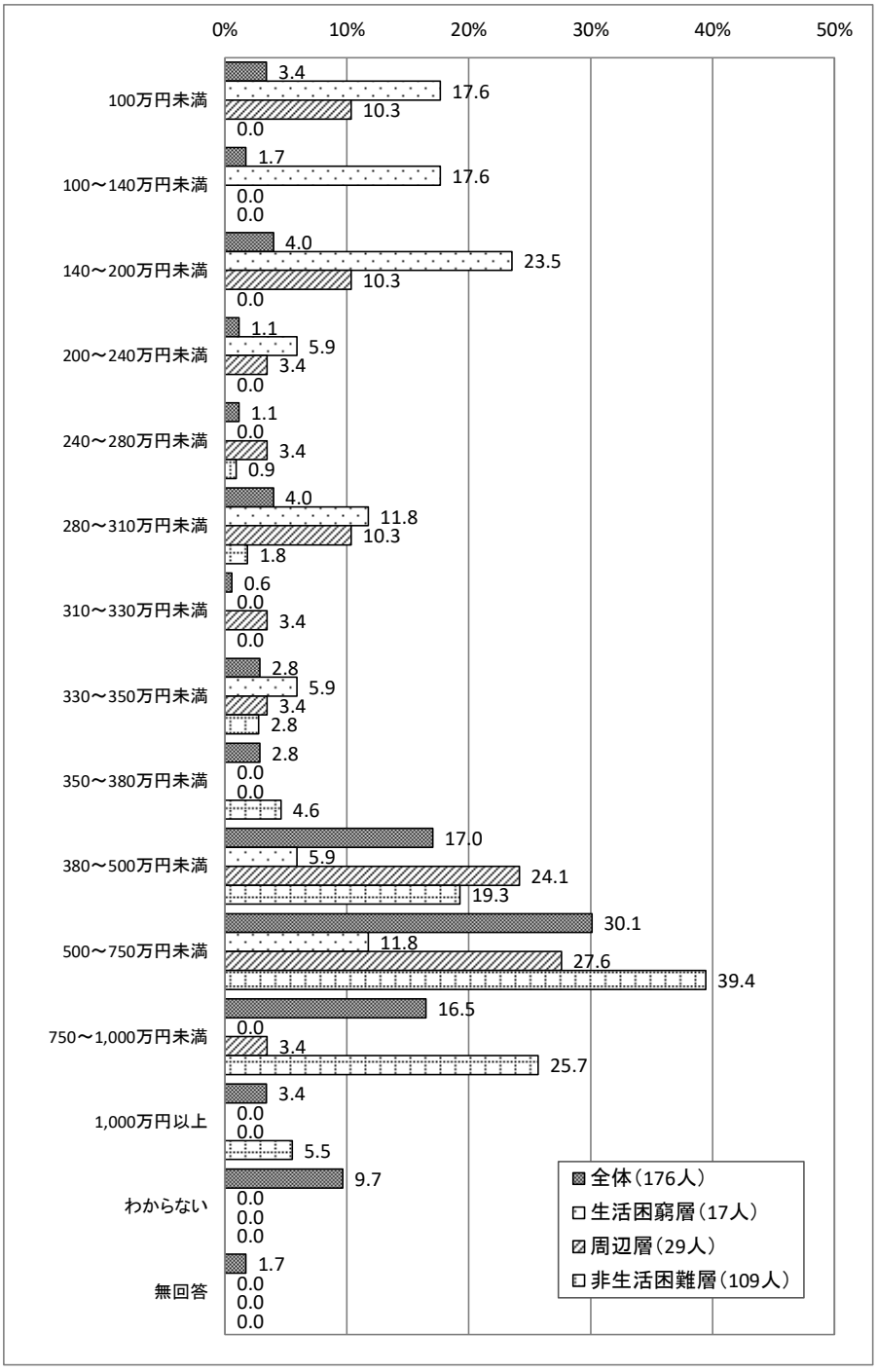
7．世帯の経済的状況について

（1）世帯収入

問29　生計を共にしているご家族全員の収入を合わせた「世帯の年間収入（手取り）」について、昨年（令和5年）はおよそいくらでしたか。（1つに○）

※世帯の年間の収入は、給与や事業の売上、年金や各種の給付・手当などの収入の総計から、税金・自動車税や社会保険料・企業年金などを除いた、手取り額をお答えください。

世帯の年間収入については、“非生活困難層”では「500 万円～750 万円未満」が 39.4%、“生活困窮層”では「140 万円～200 万円未満」が 23.5%、“周辺層”では「500 万円～750 万円未満」が 27.6%で最も多くなっています。

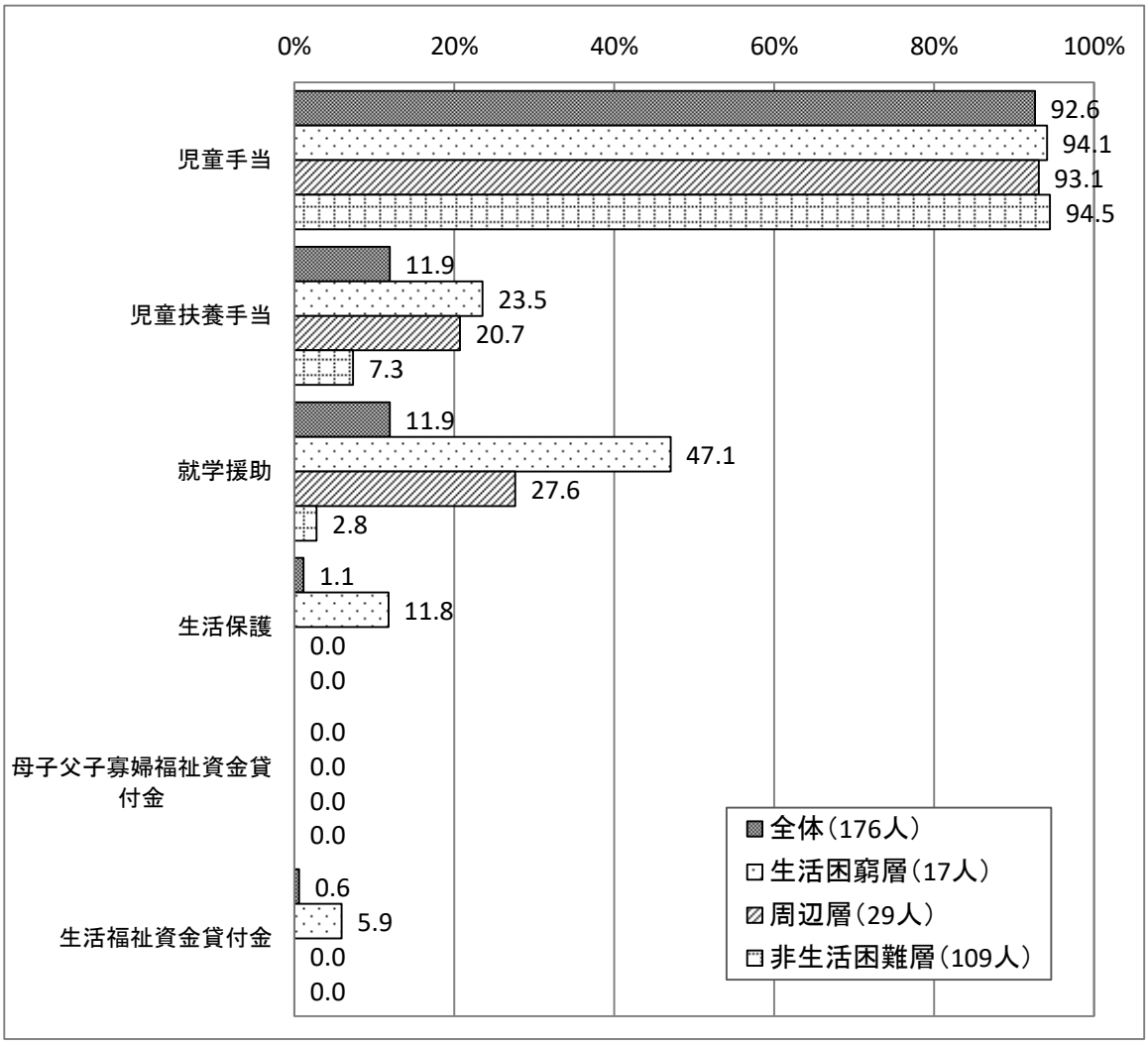


（2）各種手当・援助の受給経験

問30　あなたの世帯では、過去1年間に次のような手当や援助等を受けたことがありますか。（それぞれ1つに○）

各種手当・援助の受給経験について「現在も受けている」割合をみてみると、すべての世帯で“児童手当”が最も多くなっています。

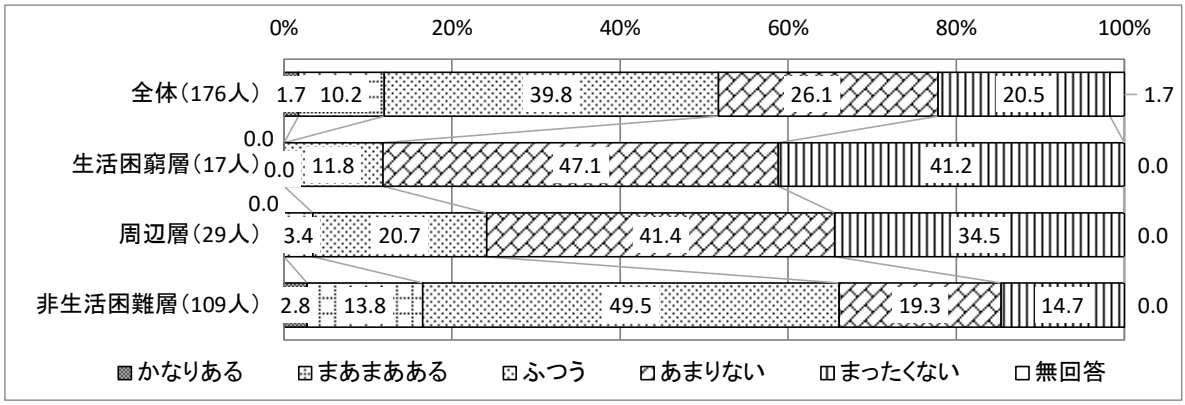
“生活困窮層”、“周辺層”では、「就学援助」がそれぞれ 47.1%、27.6%、「児童扶養手当」が 23.5%、20.7%で“非生活困難層”に比べ多くなっています。



（3）経済的なゆとり

問31　あなたの世帯では、現在の生活に経済的なゆとりがありますか。（1つに○）

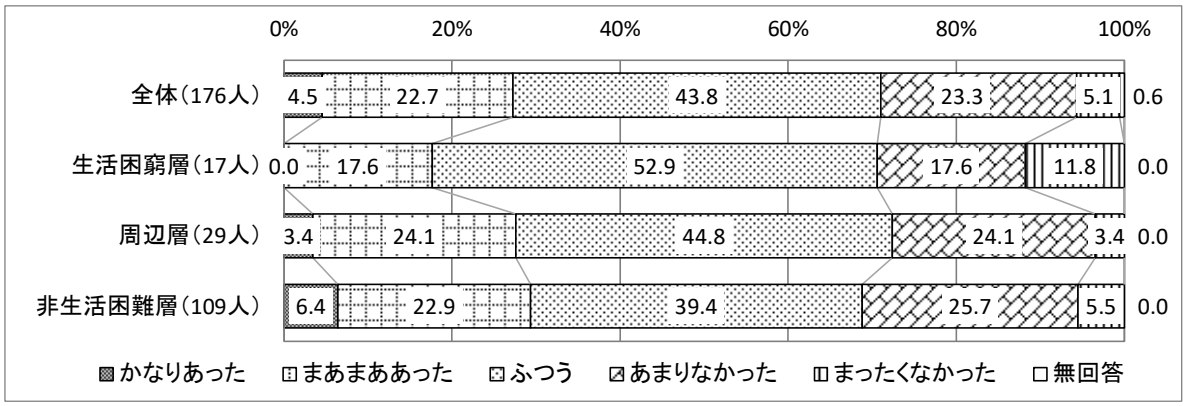
現在の生活の経済的ゆとりの程度については、“非生活困難層”では「ふつう」が最も多く49.5%であるのに対し、“生活困窮層”と“周辺層”では、「あまりない」と「まったくない」を合わせた『ゆとりはない』がそれぞれ 88.3%、75.9%となっています。



（4）子どものころの経済的なゆとり

問32　あなたが子どものころ、生活に経済的なゆとりがあったと思いますか。（1つに○）

子どものころの生活の経済的ゆとりの程度については、「ふつう」が 43.8%で最も多くなっています。

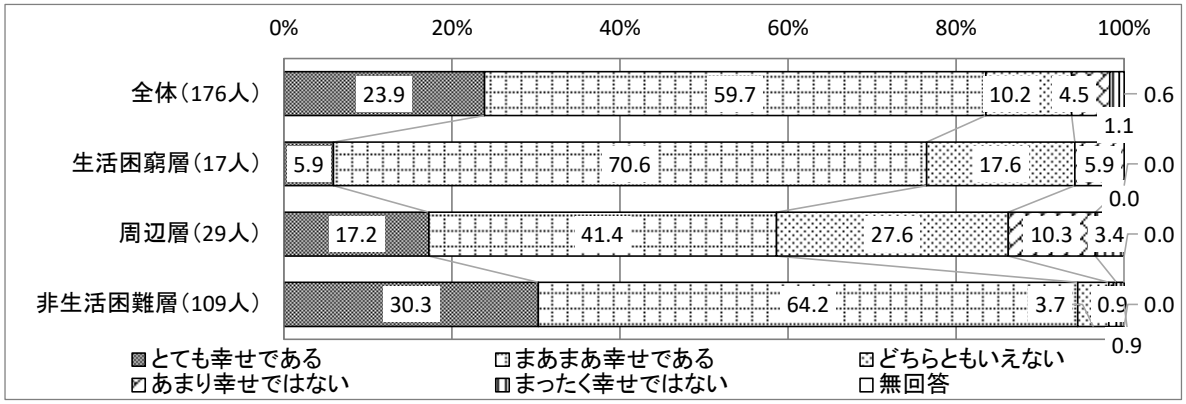


（５）現在の幸福度

問33　現在のあなたは、ご自身が幸せだと思いますか。（1つに○）

現在の幸福度をみると、「とても幸せである」が 23.9%、「まあまあ幸せである」が 59.7 と両者を合わせた『幸せである』は 83.6%となっています。

「とても幸せである」の割合をみると、“非生活困難層”が 30.3%であるのに対して、“生活困窮層”は 5.9%、“周辺層”は 17.2%となっています。

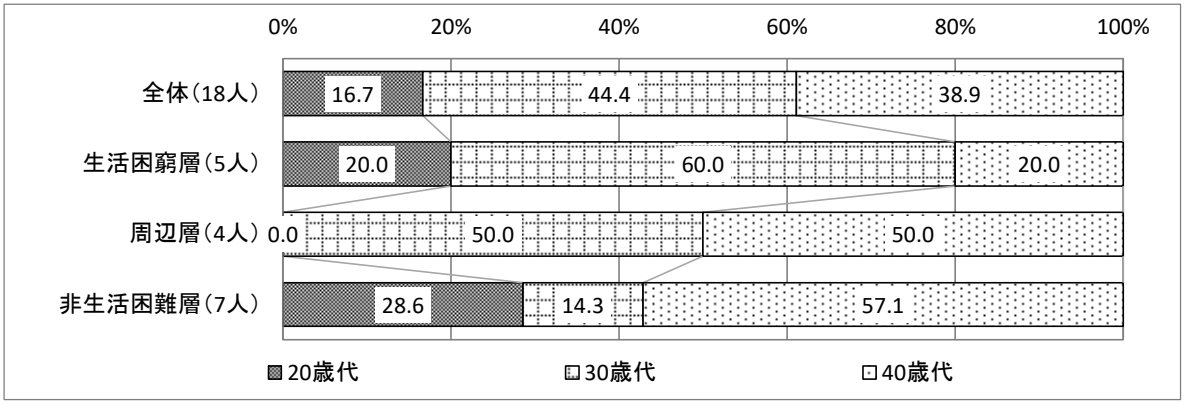


8．ひとり親家庭の方への質問

（1）ひとり親になった年齢

問34　ひとり親になられたのは、あなたが何歳の時ですか。2回以上経験されている方は、直近のことについてご記入ください。（年齢を記入）

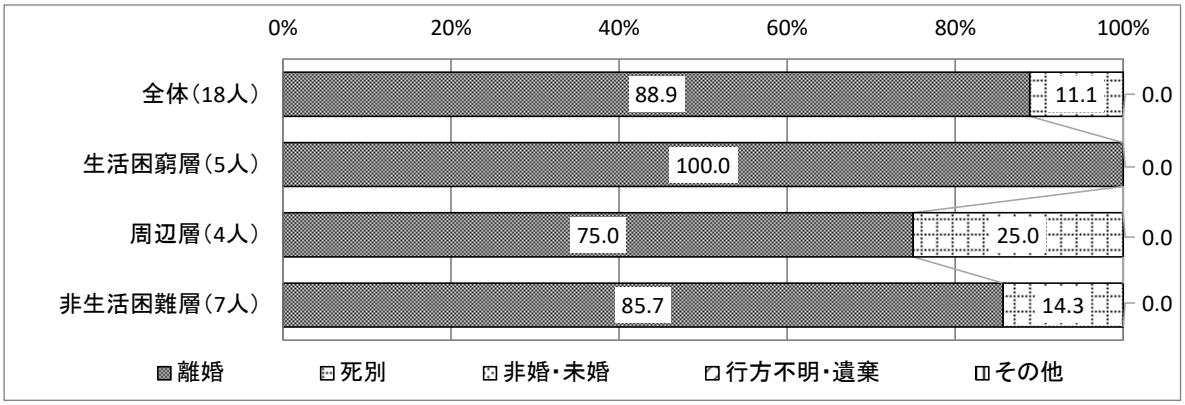
ひとり親になった時期は、“生活困窮層”は「30 歳代」、“周辺層”は「30 歳代」と「40 歳代」、“非生活困難層”では「40 歳代」が多くなっています。



（2）ひとり親になった事情

問35　ひとり親になられたご事情について、お答えください。2回以上経験されている方は、直近のことについてご記入ください。（1つに○）

すべての世帯で「離婚」が最も多くなっています。



９．自由意見

自由記述については、31 件の意見がありました。意見分類ごとの件数は以下のとおりです。
（意見は重複して分類しているため、件数の合計は意見の件数と一致しません。）

分類	件数
学費や教育費など経済的な悩みについて	14
支援の公平性や平等性に対する意見	6
市の支援策に対する要望	5
子育て環境や施設に関する要望	5
市の情報提供や管理について	5
子どもの遊び場等について	2
その他	3

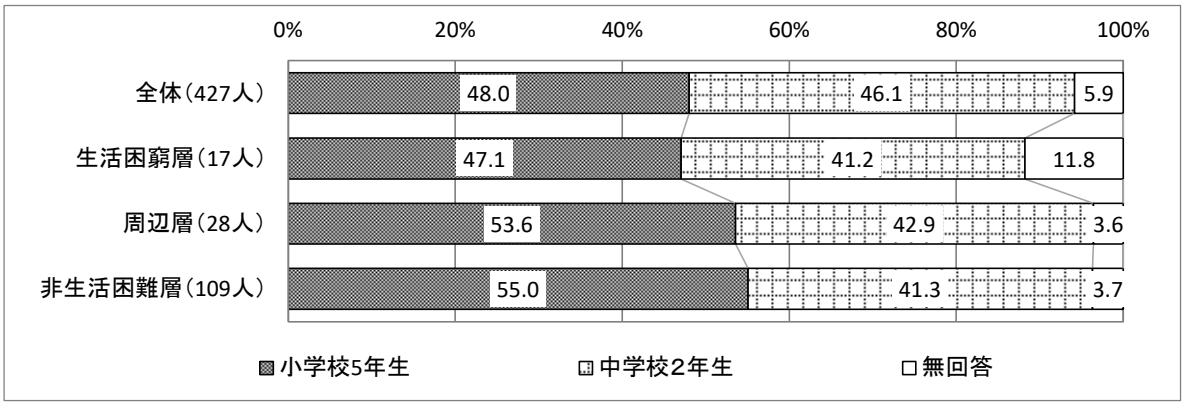
第４章　子ども向け調査結果

1．学年について

（1）学年

問1　あなたの学年について教えてください。（1つに○）

学年は、「小学校5年生」が 48.0%、「中学校2年生」が 21.5%となっています。

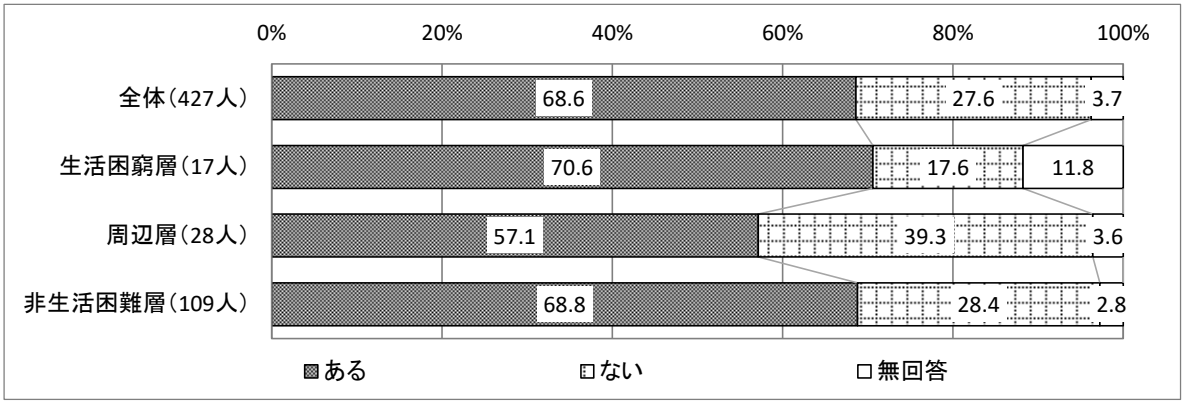


2．将来の夢について

（1）将来の夢の有無

問2　あなたには将来の夢がありますか。（1つに○）

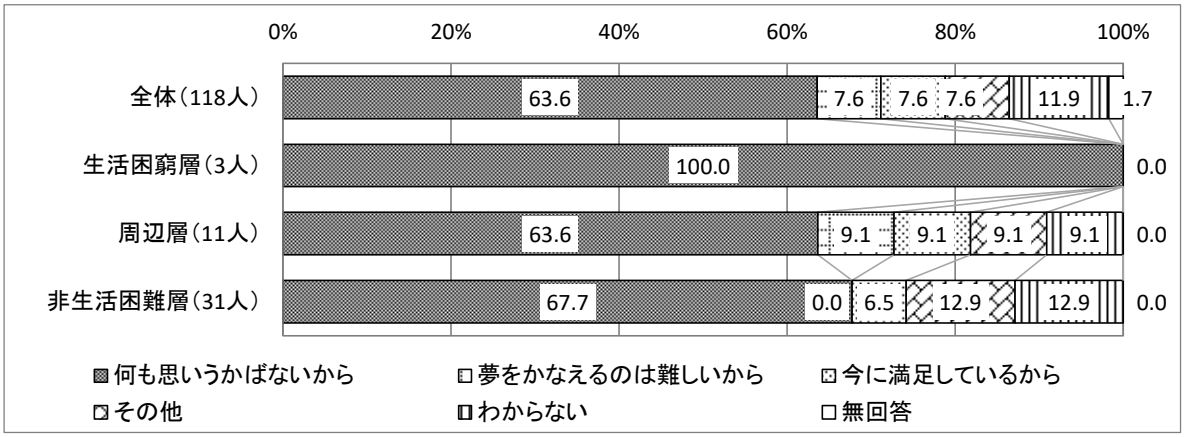
将来の夢については、「ある」が 68.6%、「ない」が 27.6%となっています。
“周辺層”で「ある」が 57.1%とやや少なくなっています。



（２）将来の夢がない理由

問2－1　問2で将来の夢が「2　ない」と答えた方にお聞きします。
将来(の夢がない理由を教えてください。(1つに○)

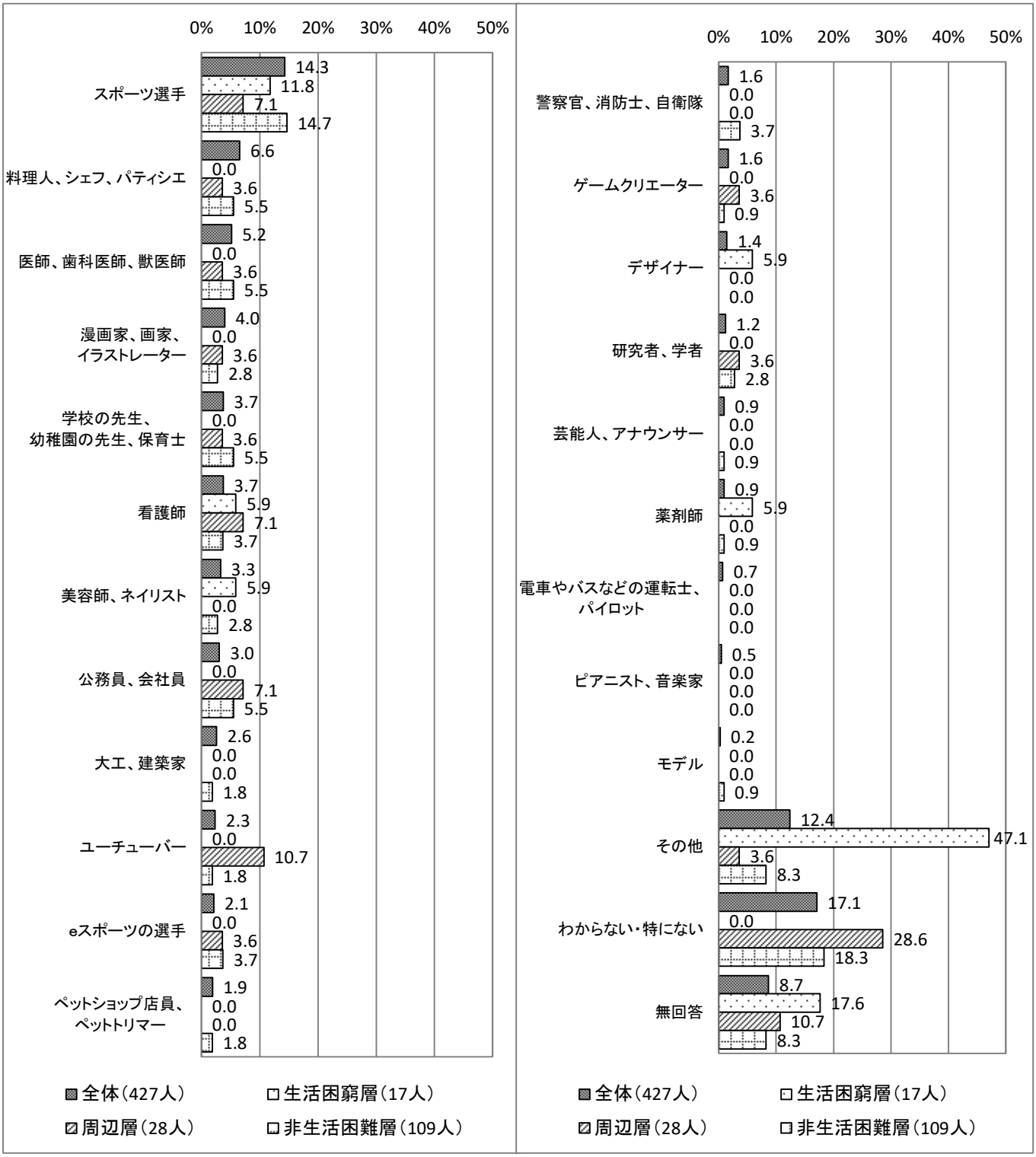
将来の夢がない理由としては、「何も思いうかばないから」が 63.6%で最も多くなっています。



（3）将来なりたい職業

問3　あなたが将来なりたい職業について教えてください。（1つに○）

将来なりたい職業については、「わからない、特にない」や「その他」を除くと、「スポーツ選手」が最も多く 14.3%となっています。“周辺層”では「ユーチューバー」が 10.7%で最も多くなっています。

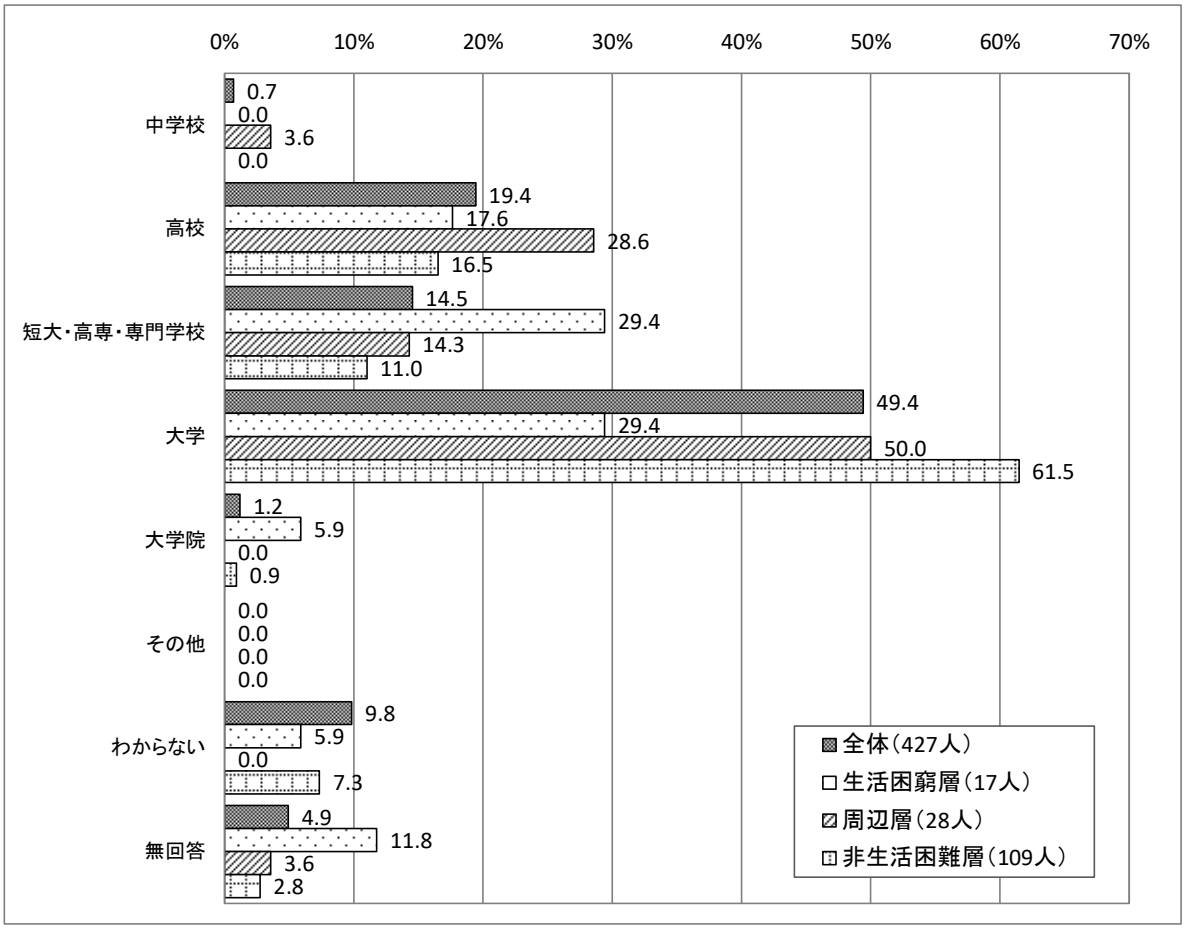


（4）将来の進学希望

問4　あなたは、できれば将来どの学校まで行きたいと思いますか。（1つに○）

将来の進学希望については、「大学」が 49.4%で最も多く、次いで「高校」が 19.4%となっています。

“非生活困難層”では「大学」が 61.5%であるのに対し、“生活困窮層”は 29.4%、“周辺層”では 50.0%と少なくなっています。

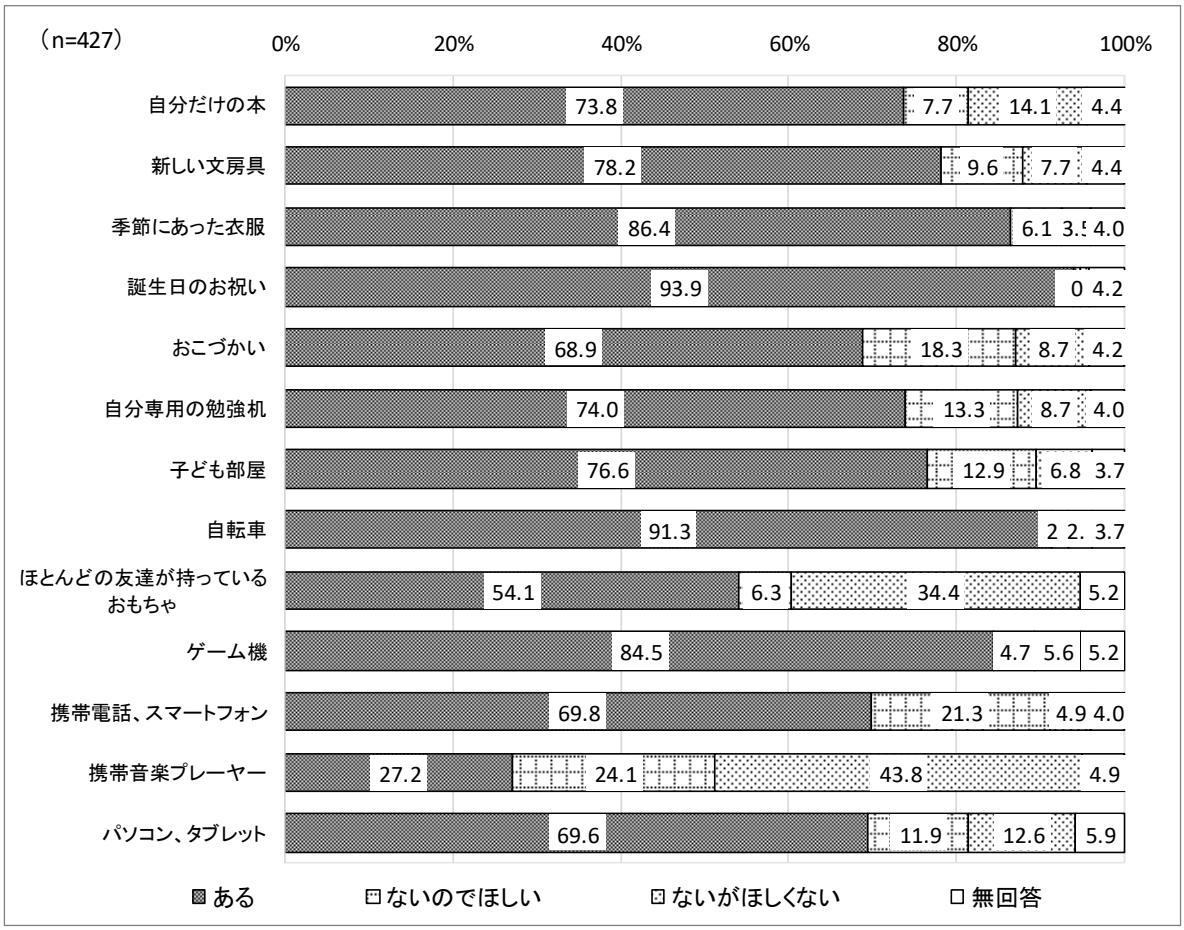


3．自分の持ち物について

（1）持っている物

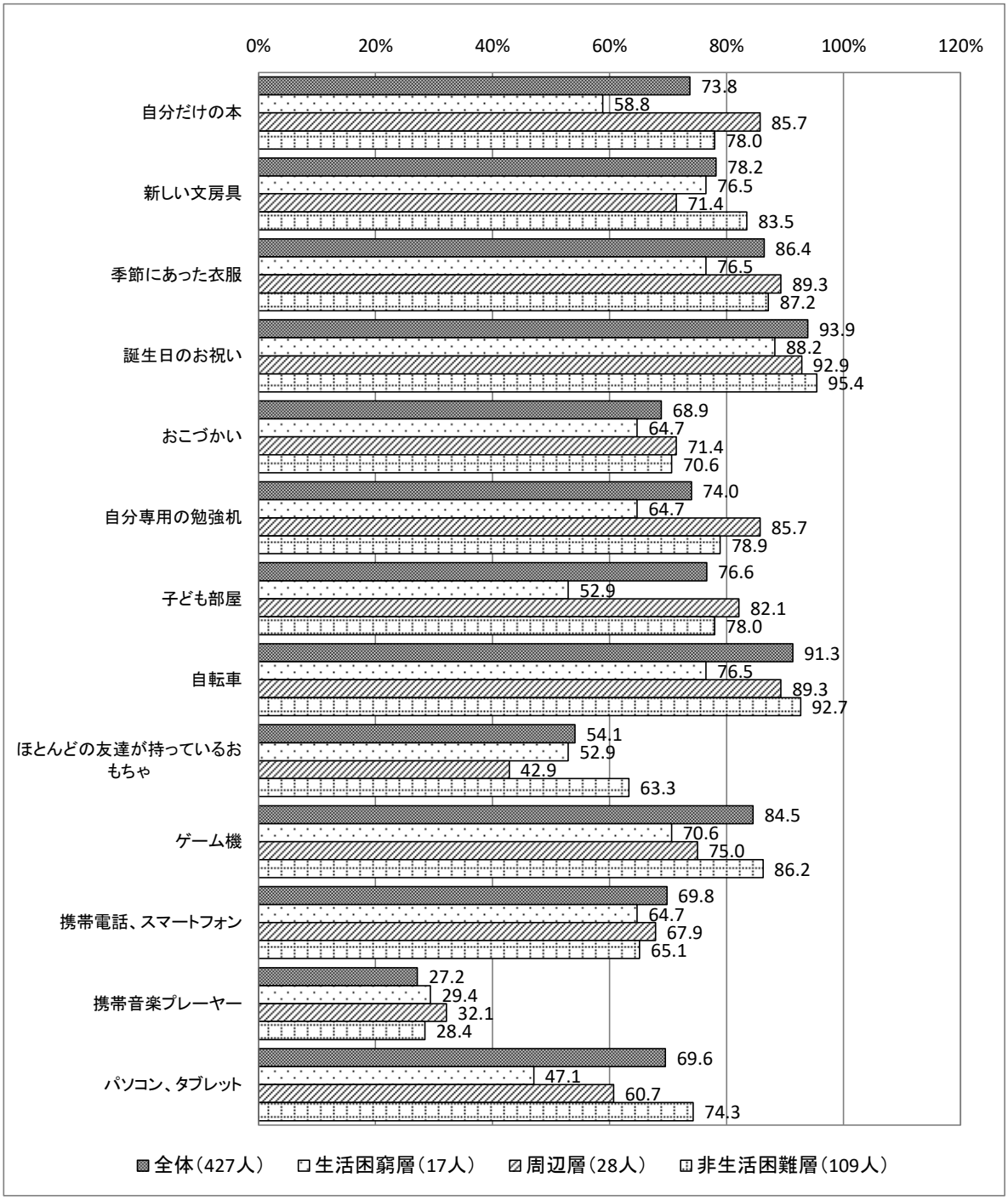
問5　次の中に、あなたが持っている物やあなたにあてはまることがありますか。（それぞれ1つに○）

持っている物について「ある」の割合が最も多いのは、「誕生日のお祝い」で 93.9%、次いで「自転車」が 91.3%となっています。



「ある」の割合をみてみると、“非生活困難層”に比べ“生活困窮層”が多いものは、「携帯音楽プレーヤー」となっています。

“非生活困難層”と“生活困窮層”の差が最も大きいものは「パソコン、タブレット」で、“非生活困難層”が 74.3%であるのに対し、“生活困窮層”では 47.1%となっています。次いで「子ども部屋」が 78.0%に対して 52.9%となっています。

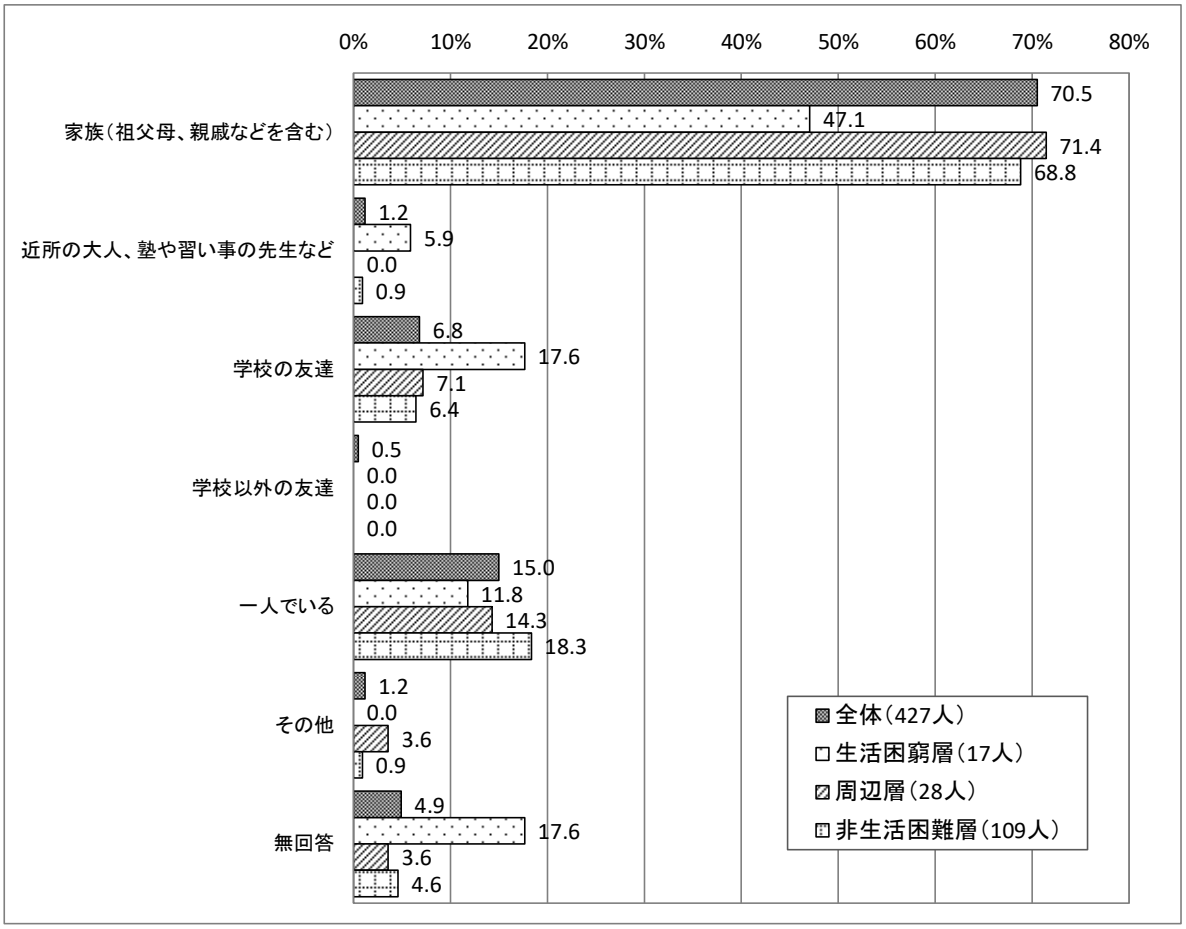


4．ふだんの生活の状況について

（1）放課後を一緒に過ごす相手

問6　学校から帰って、だれと一緒に過ごすことが多いですか。（1つに○）

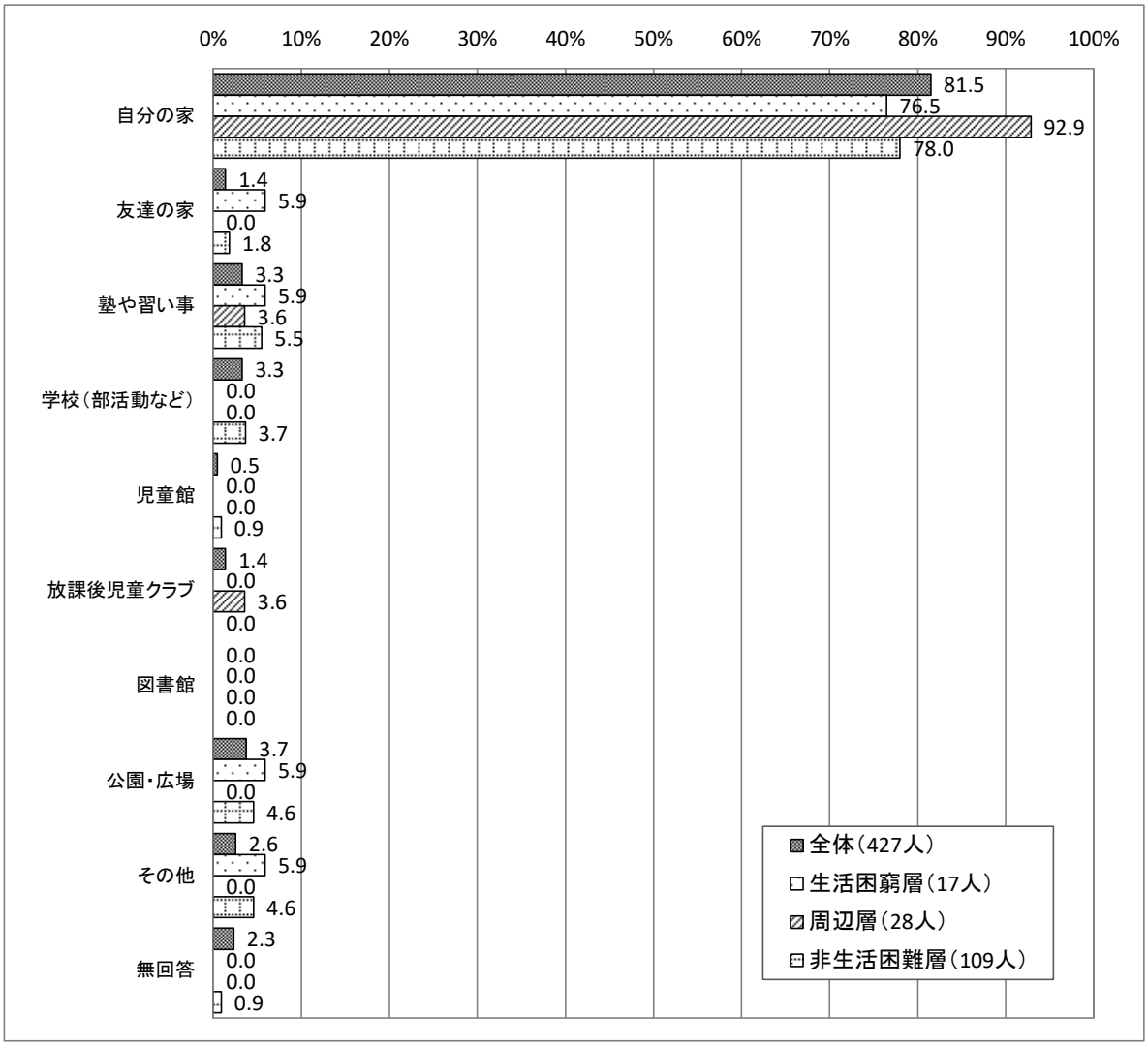
放課後を一緒に過ごす相手については、「家族」が 70.5%で最も多くなっています。
“生活困窮層”では、「家族」が 47.1%と少なく、「学校の友達」が 17.6%と多くなっています。



（2）放課後を過ごす場所

問7　あなたは、学校が終わってどこで過ごすことが一番多いですか。（1つに○）

放課後を過ごす場所については、「自分の家」が 81.5%で最も多くなっています。
“周辺層”では、「自分の家」が 92.9%と9割以上を占めています。

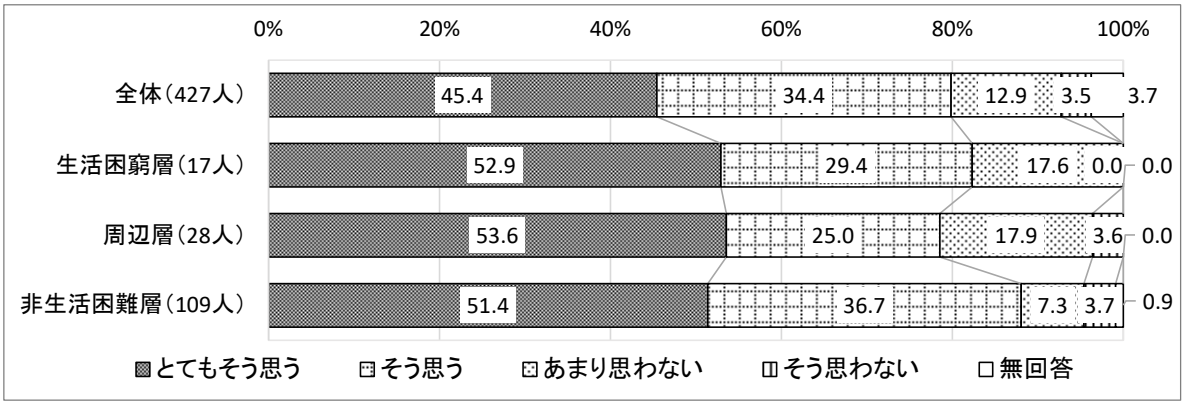


（3）友達との関係

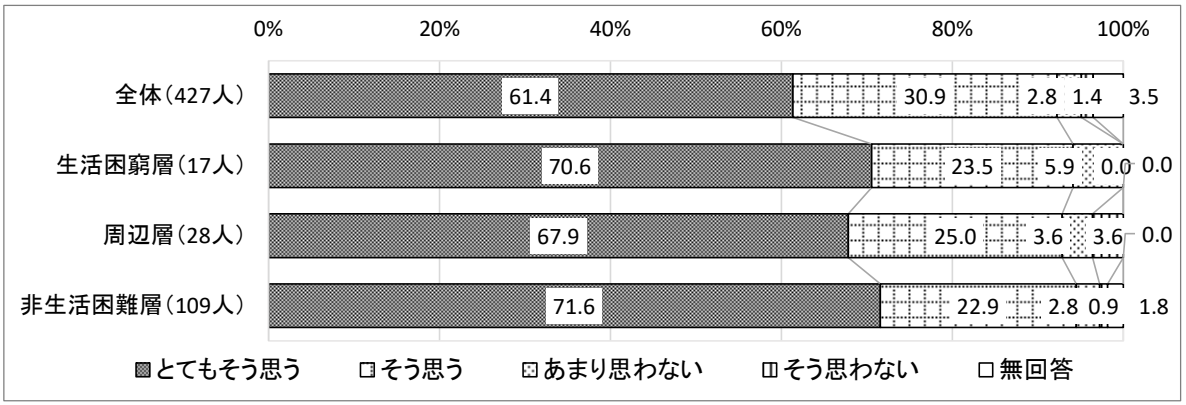
問8　あなたと友達の関係について、どのように思いますか。（それぞれ1つに○）

友達との関係について、下記の4項目について聞いたところ、【友達に好かれていると思う】について、“生活困窮層”で「そう思う」がやや多くなっていましたが、その他の項目については、“生活困窮層”“周辺層”“非生活困難層”に大きな差は認められませんでした。

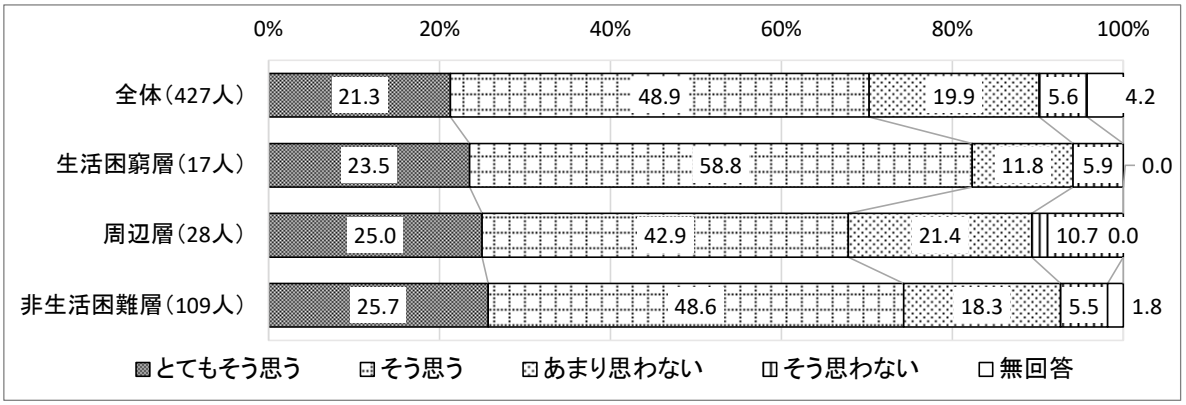
【友達といっしょにたくさん遊んでいると思う】



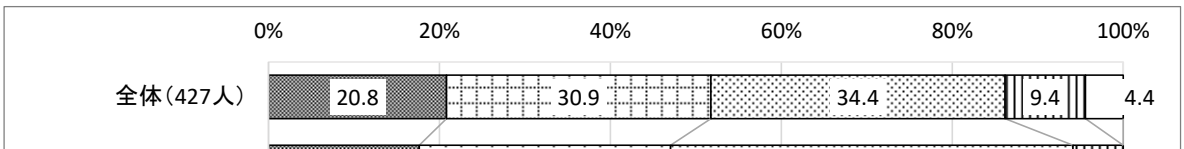
【友達と仲良くしていると思う】



【友達に好かれていると思う】



【自分がほかの人たちとくらべて違うと感じる】

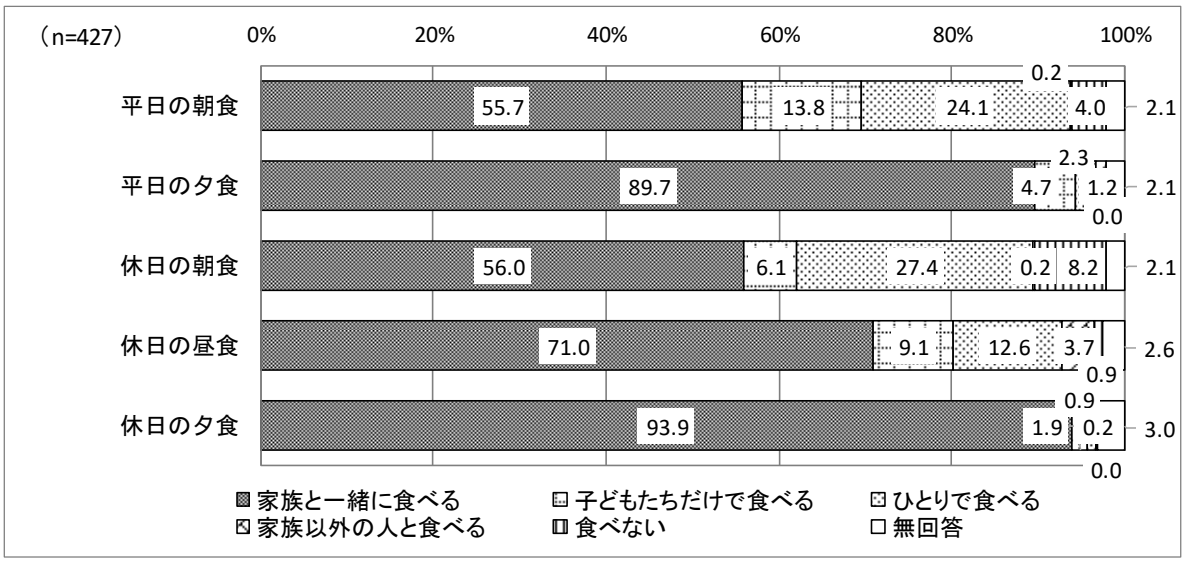


（４）食事を一緒にする相手

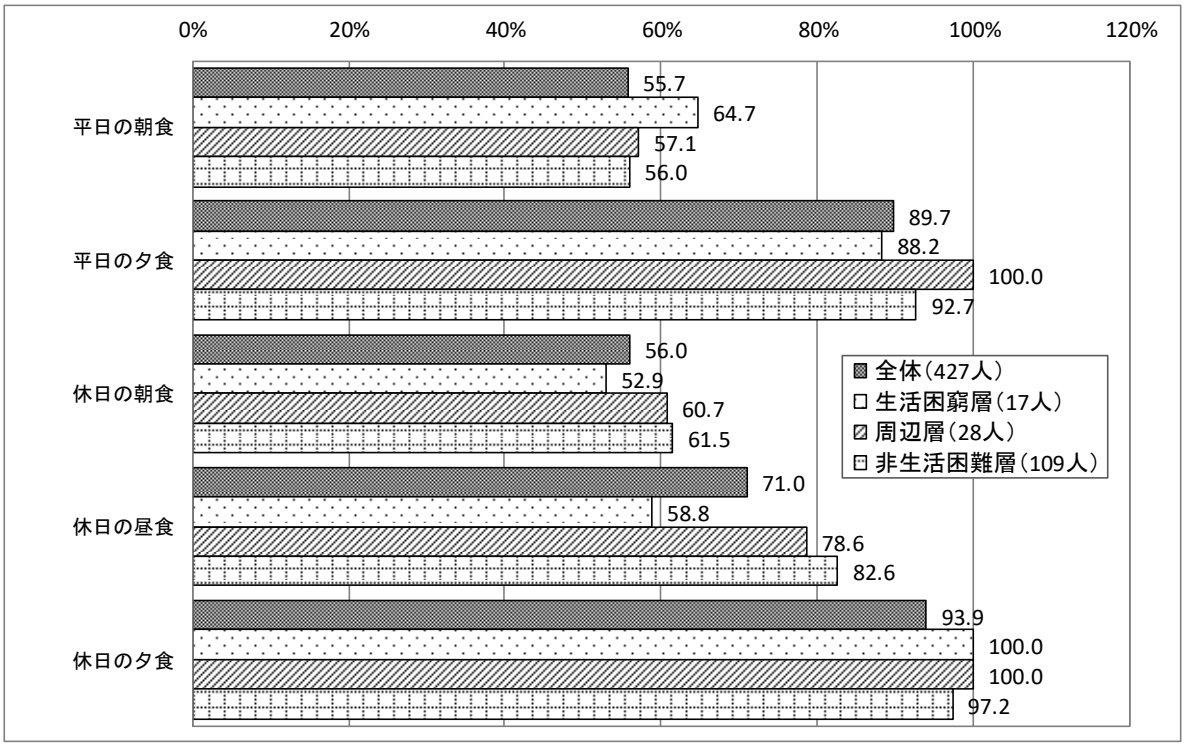
問9　あなたは、ふだん食事をだれと一緒に食べていますか。（それぞれ1つに○）

食事を一緒に食べる相手について「家族と一緒に食べる」が最も多い機会は、「休日の夕食」で93.9%、次いで「平日の夕食」が 89.7%となっています。

朝食については、平日も休日も「家族と一緒に食べる」のは6割以下となっており、「子どもたちだけで食べる」や「ひとりで食べる」が多くなっています。



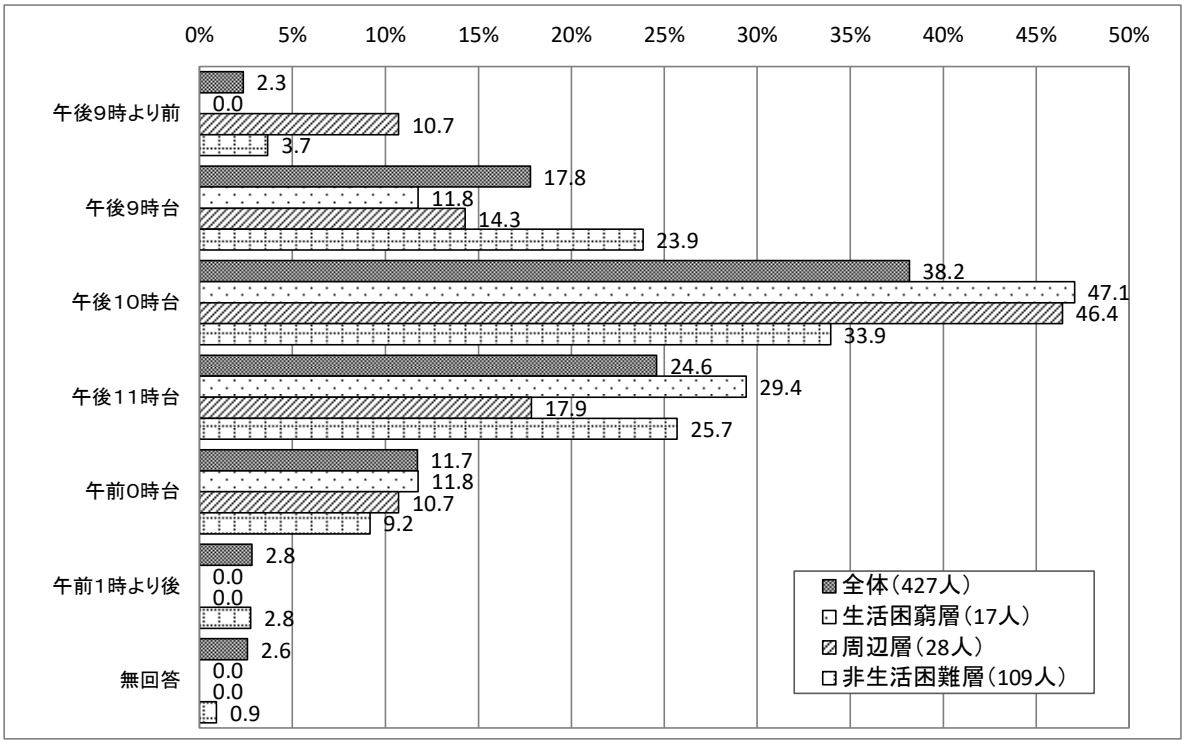
「家族と一緒に食べる」の割合に着目してみると、“生活困窮層”では「休日の朝食」と「休日の昼食」がそれぞれ 52.9%、58.8%と少なくなっています。



（５）就寝時間

問10　あなたは翌日に学校がある日の夜は、だいたい何時くらいに寝ますか。（1つに○）

翌日に学校がある日の就寝時間については、「午後10時台」が 38.2%で最も多く、次いで「午後11時台」が 24.6%となっています。

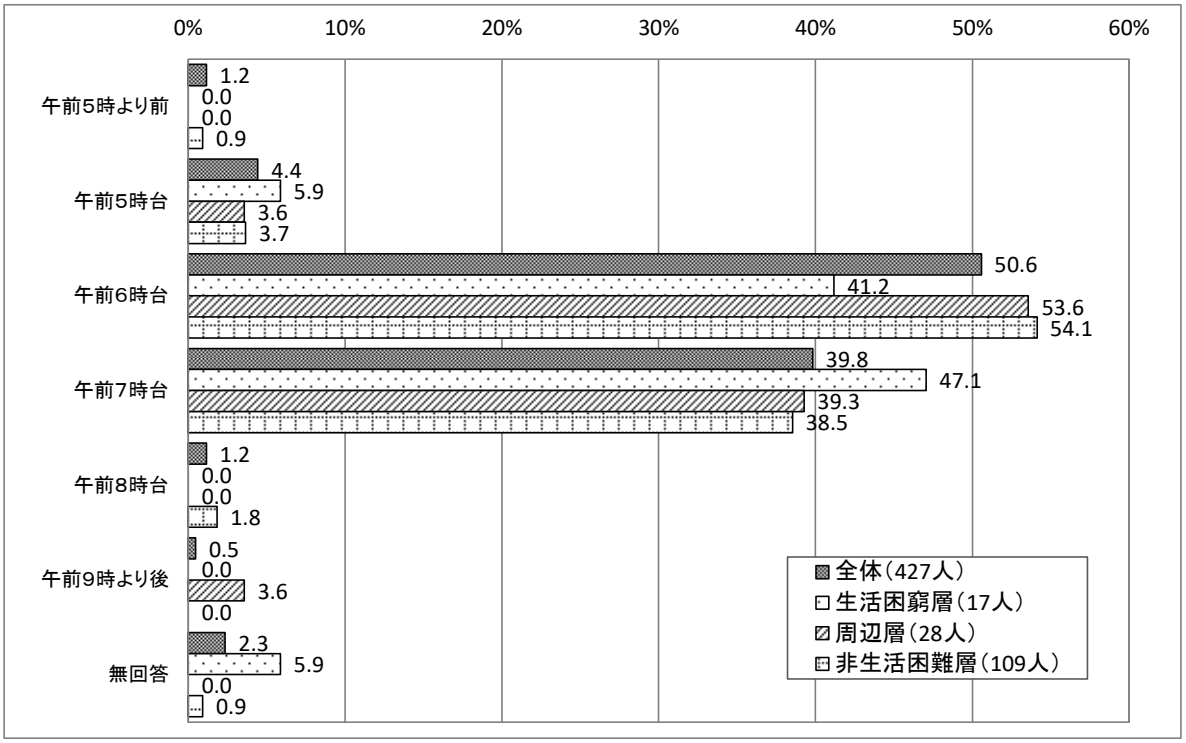


（6）起床時間

問11　あなたはふだん学校がある日の朝は、だいたい何時くらいに起きますか。（1つに○）

学校がある日の起床時間については、「午前6時台」が 50.6%で最も多く、次いで「午前7時台」が 39.8%となっています。

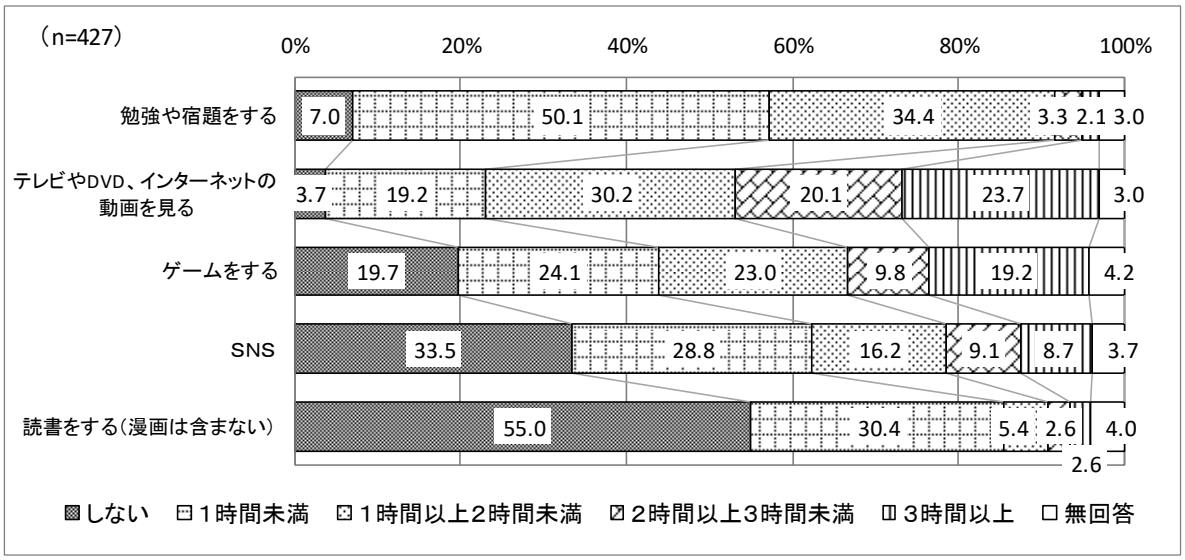
“生活困窮層”では、「午前6時台」は 41.2%とやや少なく、「午前7時台」が 47.1%で最も多くなっています。



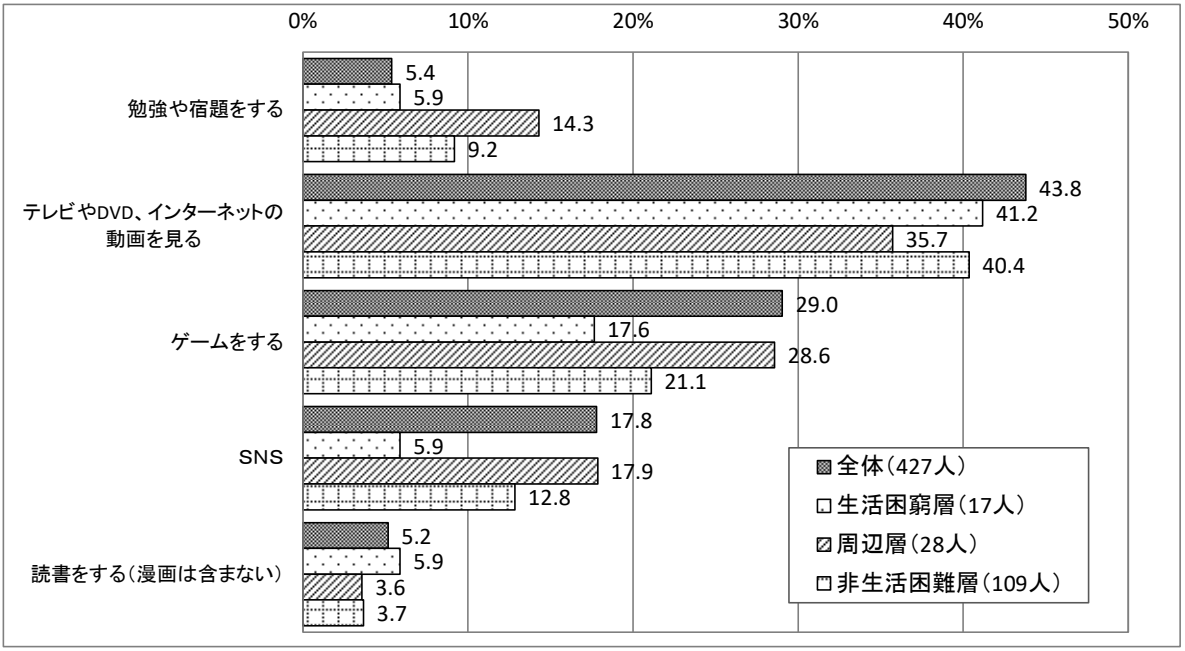
（7）平日の時間の過ごし方

問12　あなたが、平日に家で過ごしている時間について教えてください。（それぞれ1つに○）

平日の時間の過ごし方として「しない」が最も多いのは、「読書をする（漫画は含まない）」が55.0%で最も多く、次いで「SNS」が 33.5%となっています。



「2時間以上」に着目してみると、“生活困窮層”では「ゲームをする」と「SNS」が “周辺層”や“非生活困難層”に比べ少なくなっています。

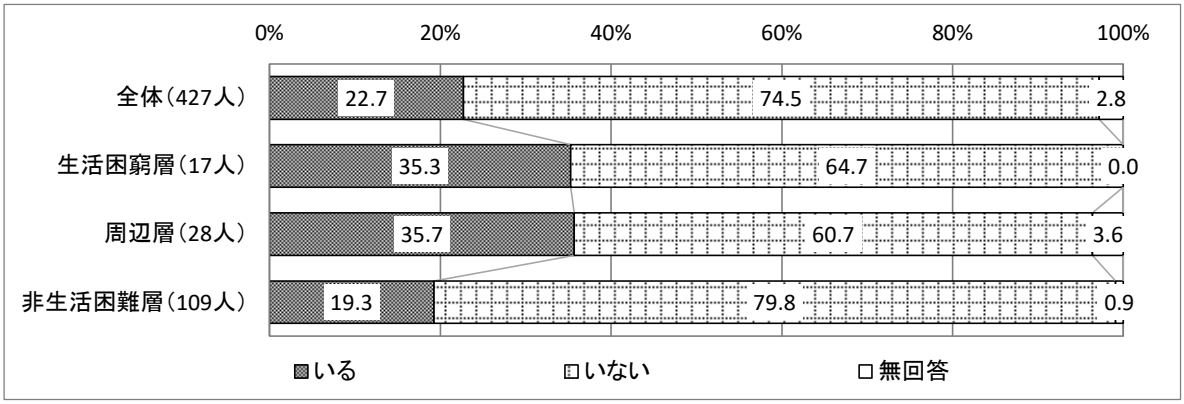


（8）世話をしている家族の有無

問13　家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。（ここで「お世話」とはおうちの人に代わって家事や家族の世話などをすることです。）（1つに○）

家族の中に自身が世話をしている人については、「いる」が 22.7%になっています。

“生活困窮層”と“周辺層”では、それぞれ 35.3%、35.7%と、“非生活困難層”（19.3%）よりやや多くなっています。

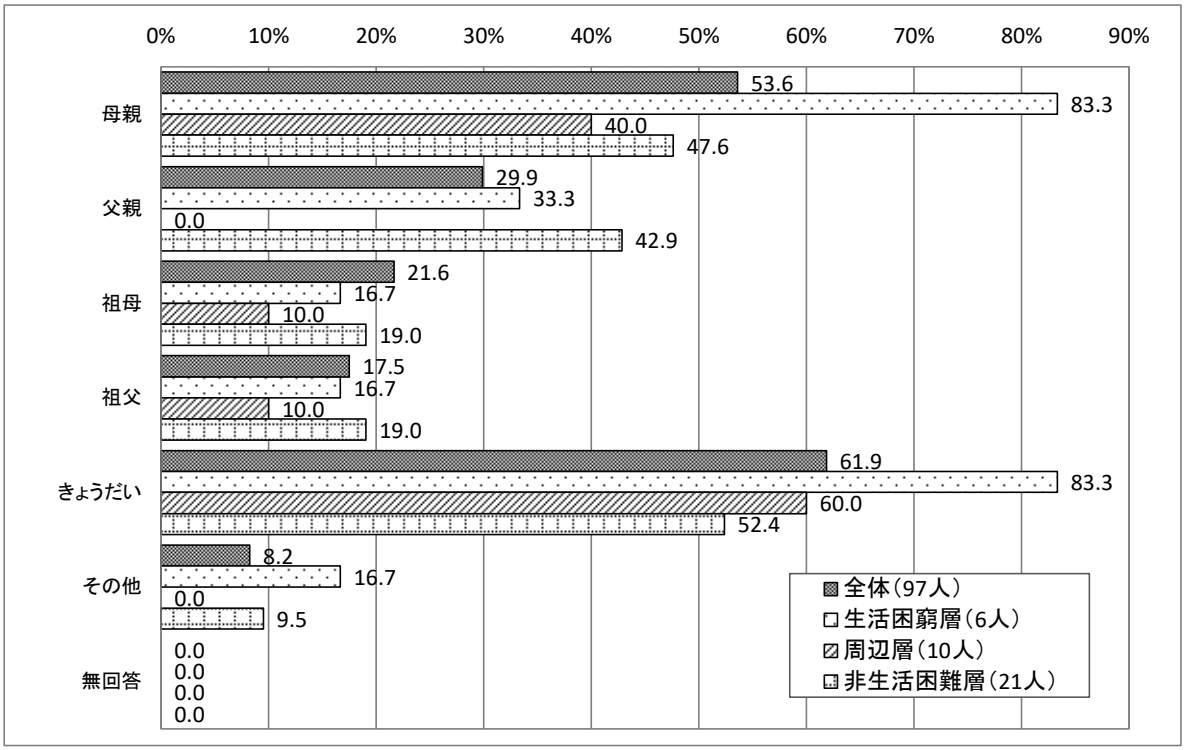


（9）世話をしている家族

問13－1　問13で「1　いる」と答えた方におききします。
あなたがお世話をしている人を選んでください。（あてはまるものすべてに○）

世話をしている家族については、「きょうだい」が 61.9％で最も多く、次いで「母親」が 53.6%となっています。

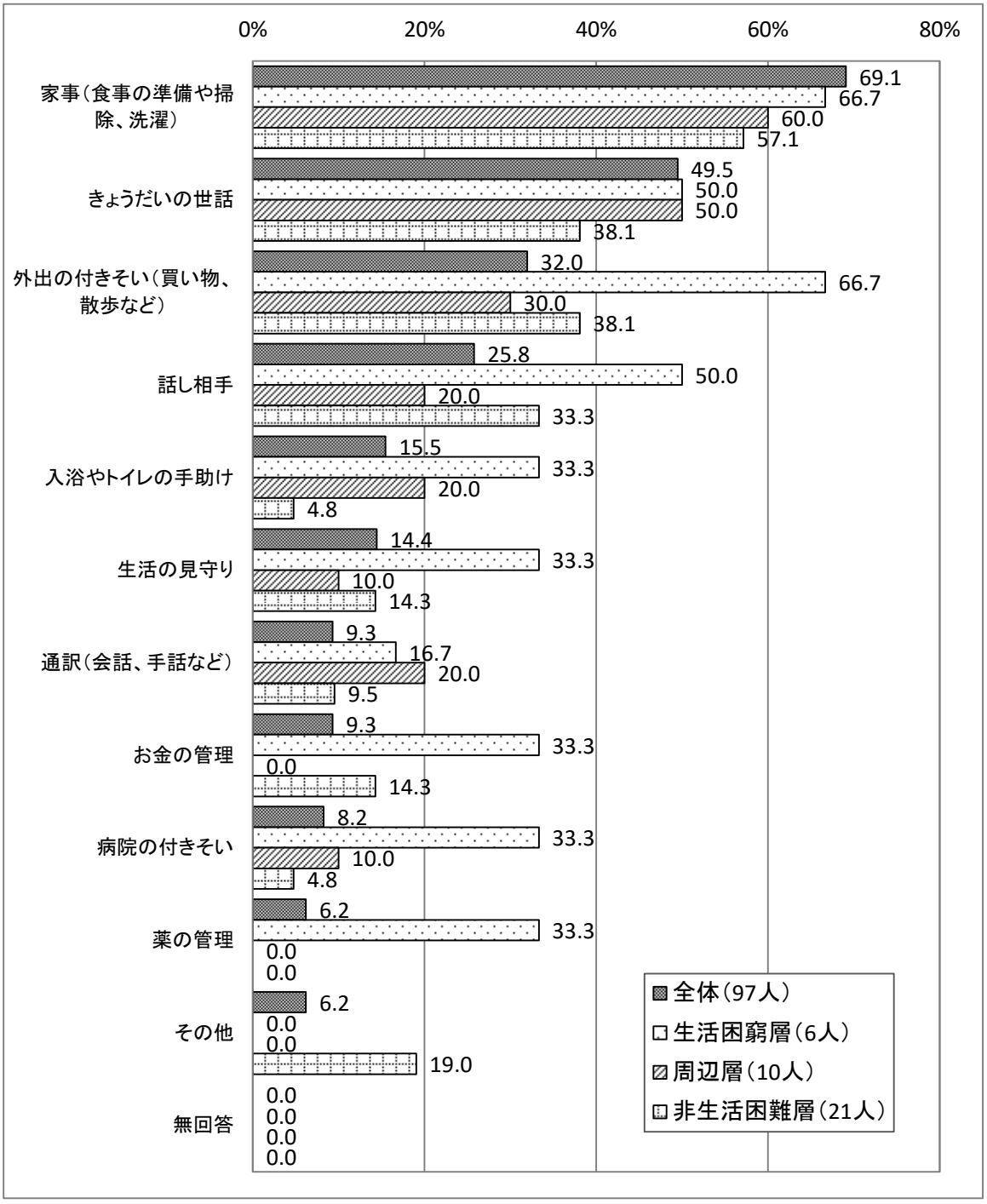
“生活困窮層”では、「きょうだい」と「母親」が共に 83.3%で最も多くなっています。



（10）行っているお世話の内容

問13－2　問13で「1　いる」と答えた方におききします。
あなたが行っているお世話の内容を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

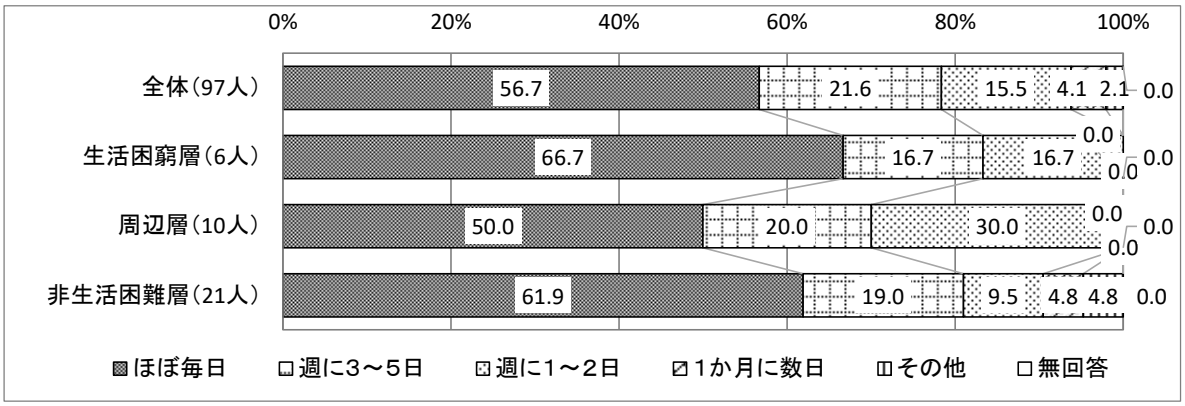
行っているお世話の内容については、「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が 69.1%で最も多く、次いで「きょうだいの世話」が 49.5%、「外出の付きそい（買い物、散歩など）」が 32.0%となっています。



（11）世話をしている頻度

問13－3　問13で「1　いる」と答えた方におききします。
お世話をしている頻度を教えてください。（1つに○）

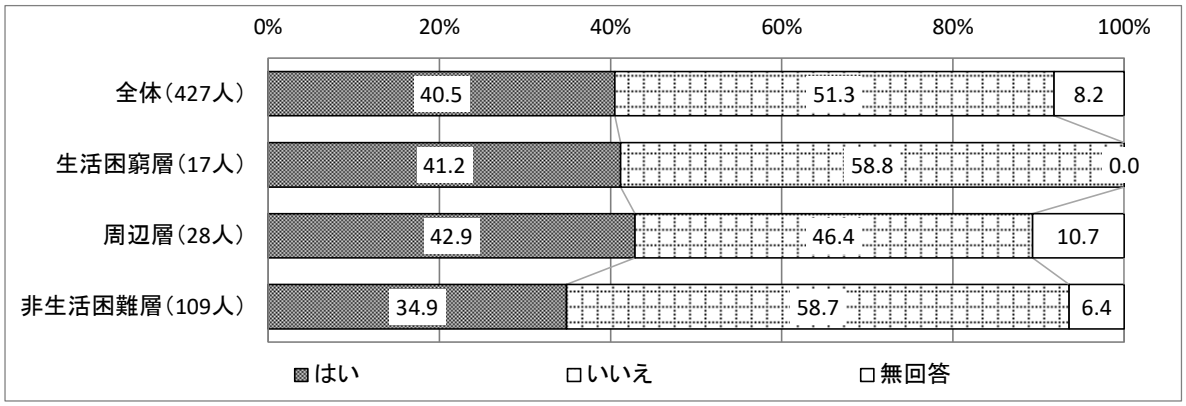
世話をしている頻度については、「ほぼ毎日」が 56.7%で最も多く、次いで「週に3～5日」が 21.6%、「週に1～2日」が 15.5%となっています。



（12）悩み事の有無

問14　あなたには、悩み事がありますか。（1つに○）

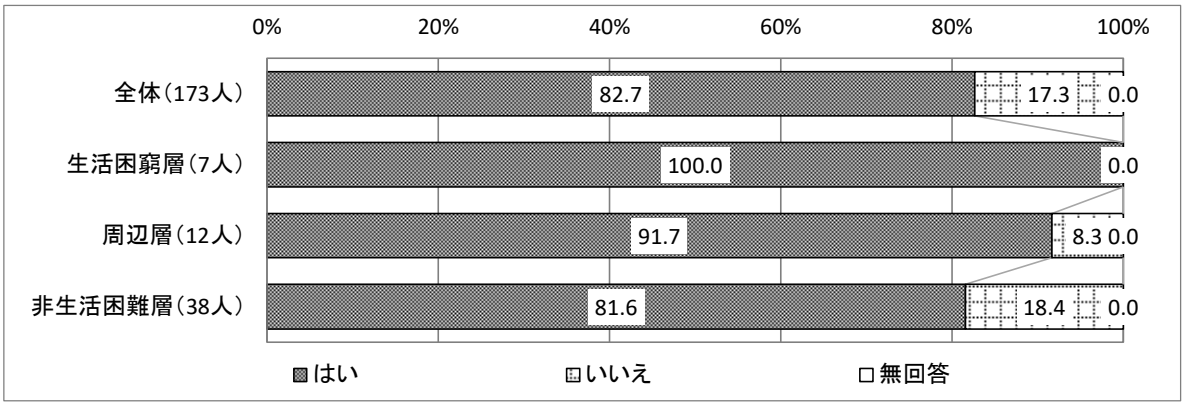
悩み事の有無については、「はい」が 40.5%、「いいえ」が 51.3%となっています。
“非生活困難層”では「はい」が 34.9%とやや少なくなっています。



（13）相談相手の有無

問14－1　問14で「1　はい」と答えた方におききします。
あなたには、悩(み事を相談できる人がいますか。（1つに○）

相談相手の有無については、「はい」が 82.7%、「いいえ」が 17.3%となっています。
“生活困窮層”では、「はい」が 100%になっています。

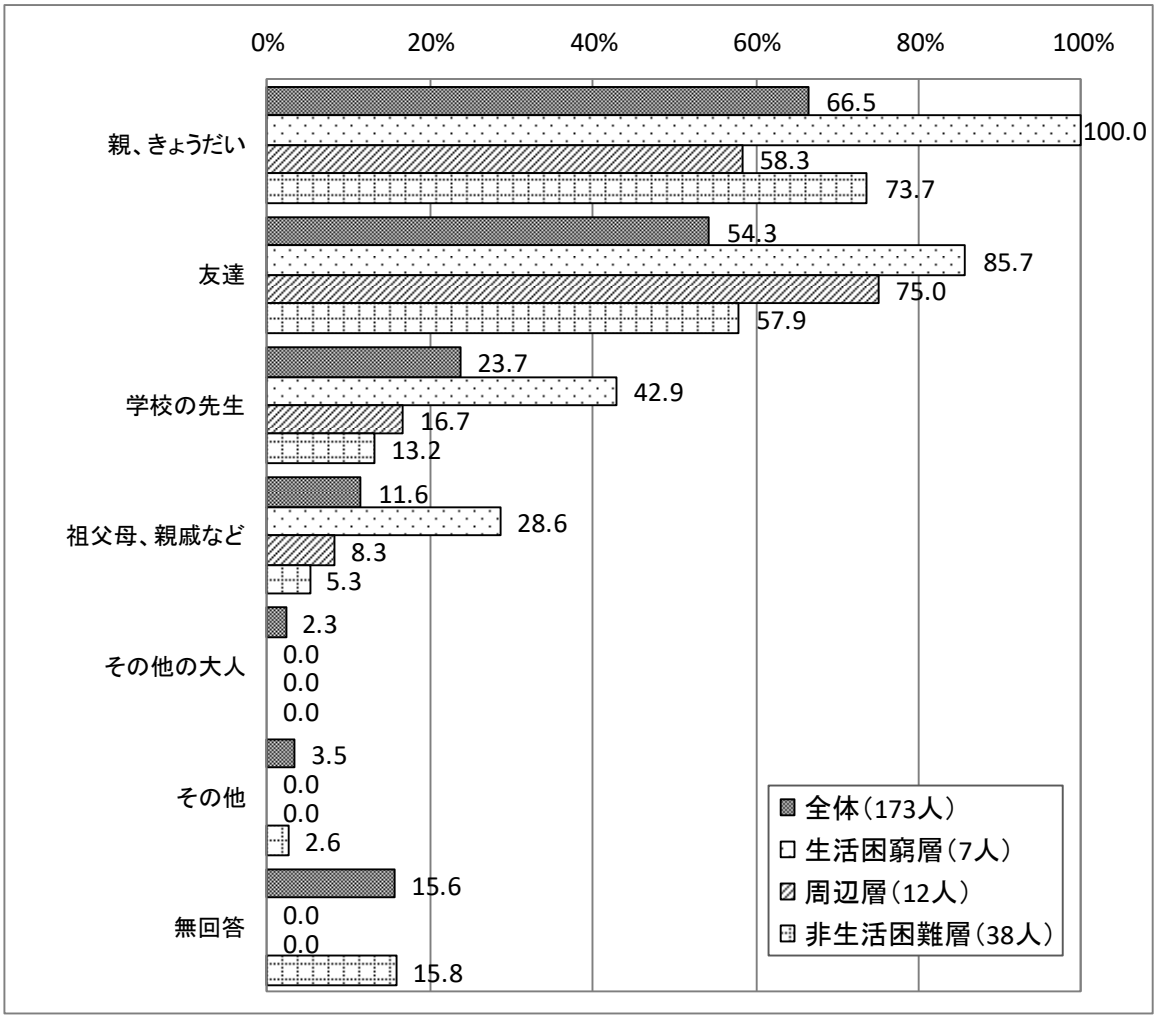


（14）困ったときの相談相手

問14－2　問14－1で「1　はい」と答えた方におききします。
あなたは、困ったことなどがあった場合、だれに相談していますか。（あてはまるものすべてに○）

困ったときの相談相手については、「親、きょうだい」が 66.5%で最も多く、次いで「友達」が 54.3%となっています。

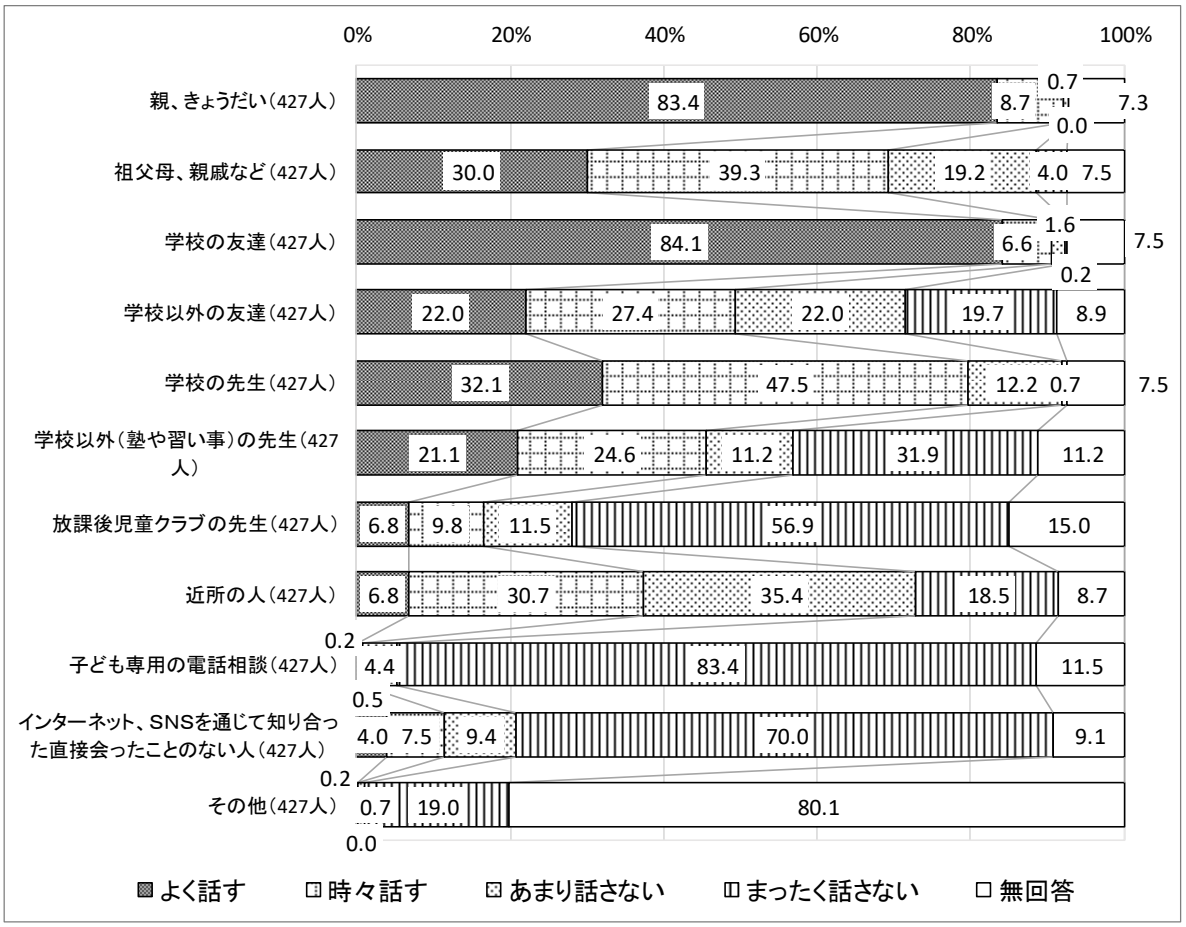
“生活困窮層”では、「親、きょうだい」が 100%になっています。



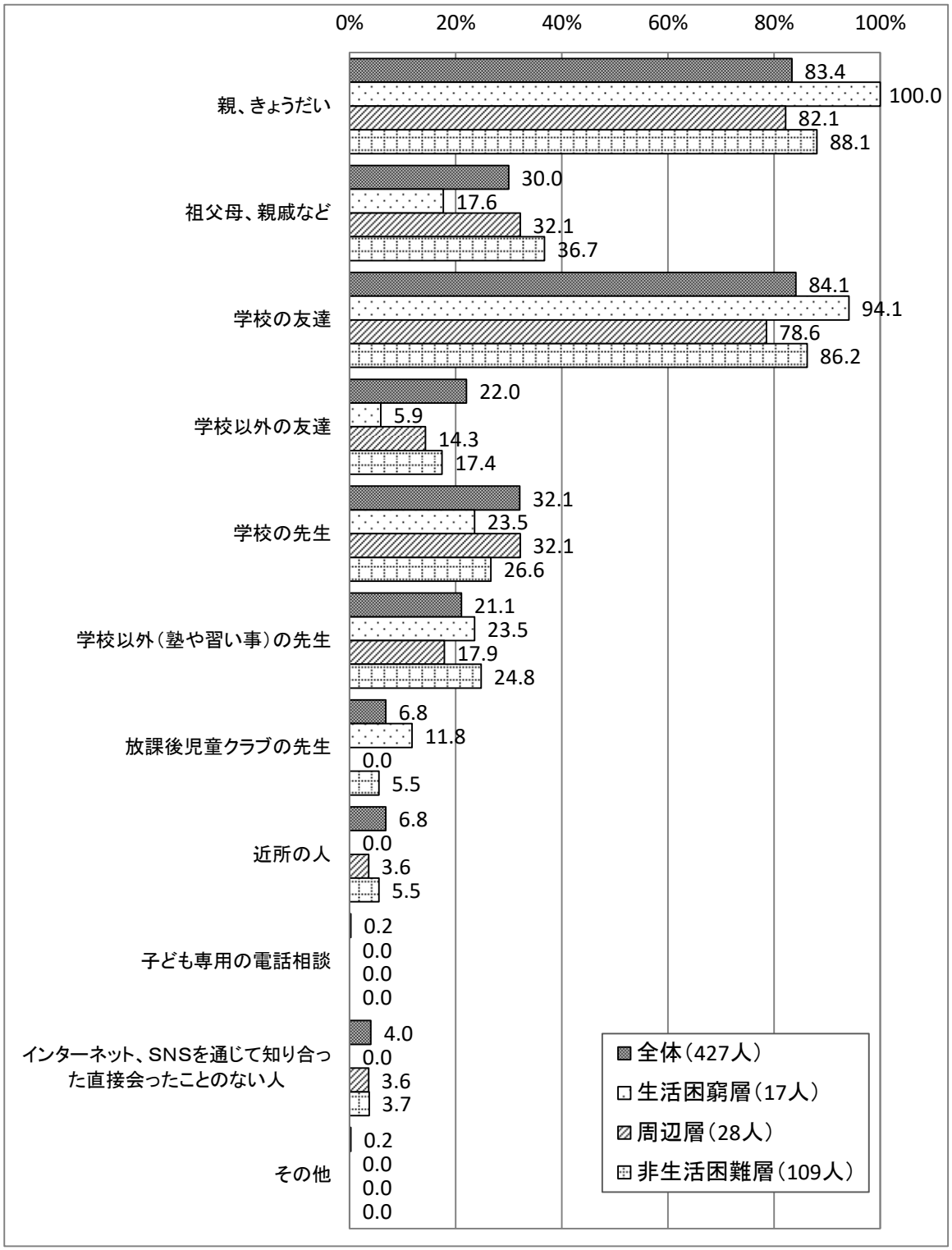
（15）ふだんの会話の状況

問15　あなたは、ふだんどれくらい会話をしますか。（それぞれ1つに○）

ふだんの会話の状況については、“よく話す”が最も多いのは「学校の友達」で 84.1%、次いで「親、きょうだい」が 83.4%、「学校の先生」が 32.1%の順となっています。



「よく話す」の割合についてみると、“生活困窮層”では「祖父母、親戚など」と「学校以外の友達」が“周辺層”や“非生活困難層”に比べ少なくなっています。

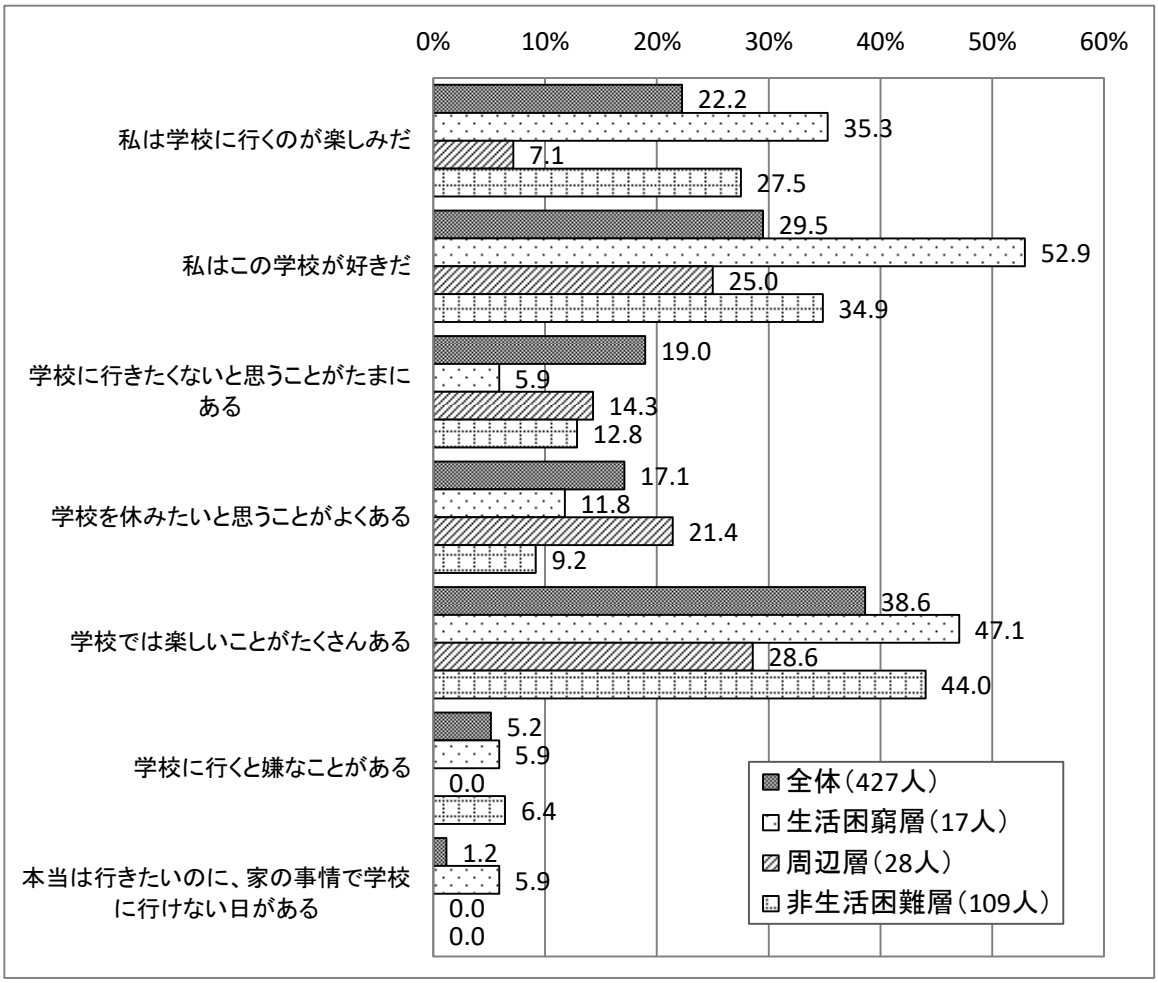


（16）学校への気持ち

問16　あなたの学校への気持ちをおたずねします。（それぞれ1つに○）

学校への気持ちについて、“すごくあてはまる”についてみると、「私は学校に行くのが楽しみだ」と「私はこの学校が好きだ」では“生活困窮層”で多くなっています。

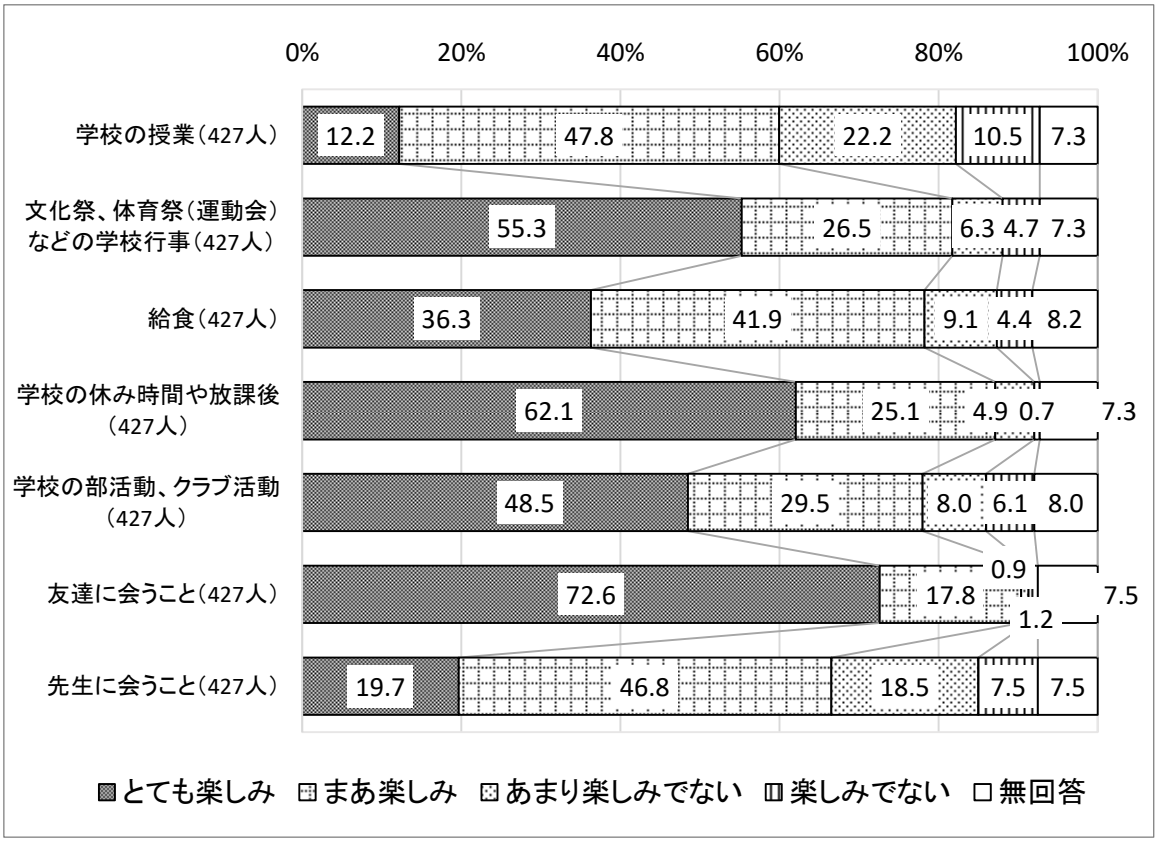
“周辺層”では、「私は学校に行くのが楽しみだ」と「学校では楽しいことがたくさんある」が全体に比べ少なくなっています。



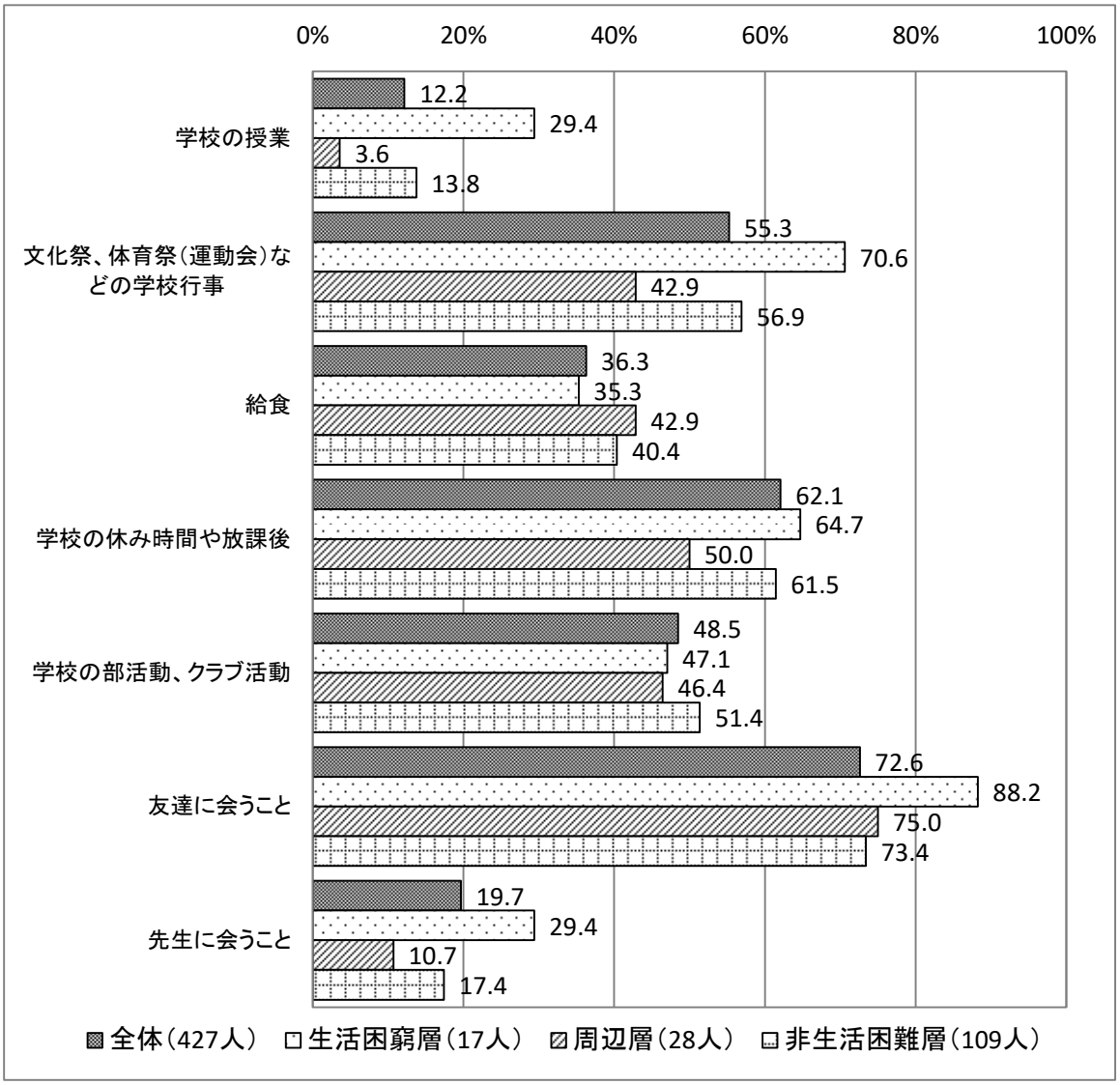
（17）学校生活での楽しみ

問17　あなたが学校生活の中で、楽しみにしていることについて教えてください。（それぞれ1つに○）

学校生活での楽しみについて、「とても楽しみ」が最も多いのは「友達に会うこと」で 72.6%、次いで「学校の休み時間や放課後」が 62.1%、「文化祭、体育祭（運動会）などの学校行事」が 55.3%となっています。



「とても楽しみ」の割合についてみると、“生活困窮層”は、「学校の授業」「文化祭、体育祭などの学校行事」「友達に会うこと」「先生に会うこと」について、“非生活困難層”や”周辺層“に比べ多くなっています。

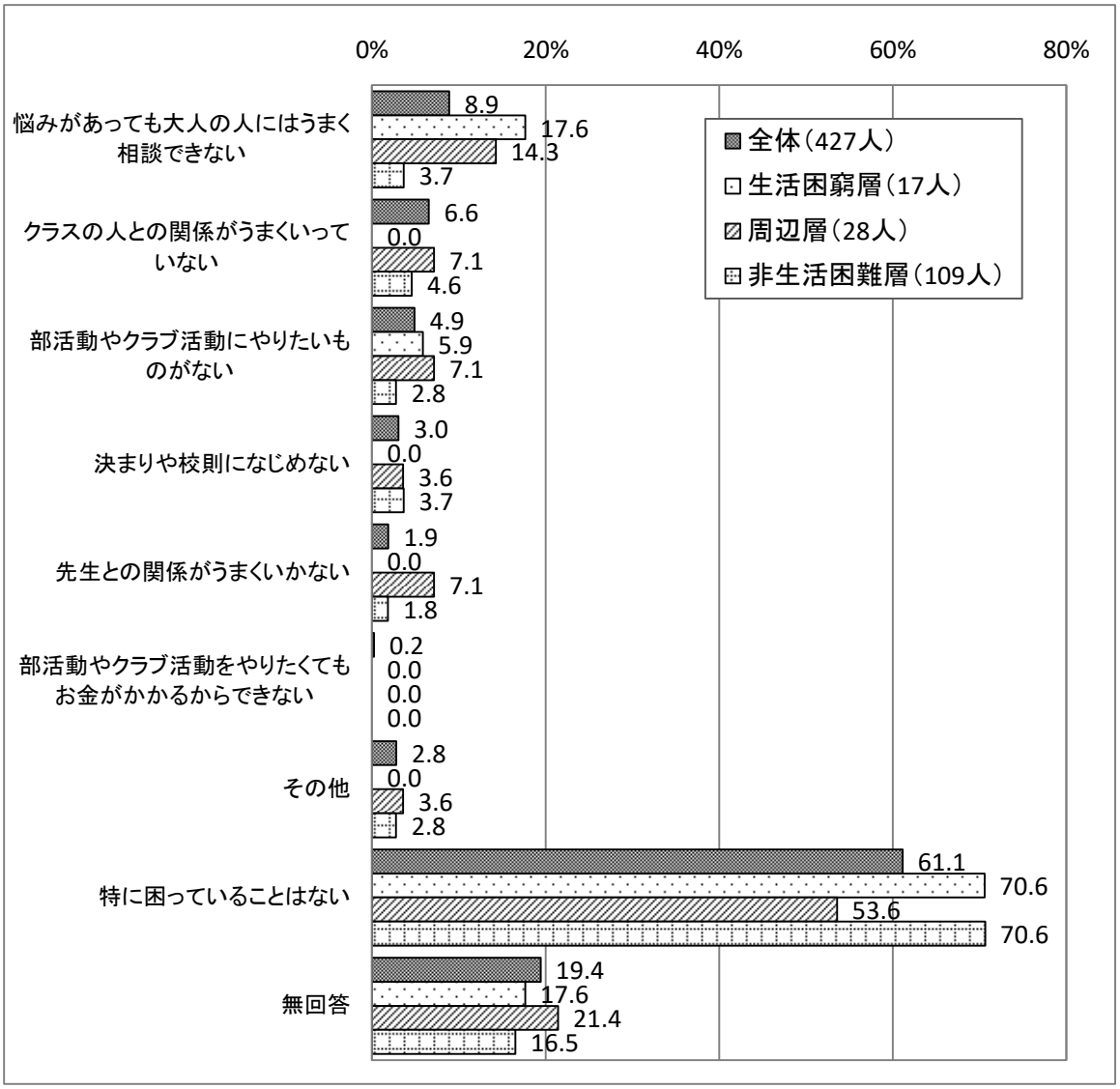


（18）学校で困っていること

問18　あなたは、学校のことで困っていることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

学校で困っていることについては、「特に困っていることはない」が 61.1%で最も多くなっていますが、困っていることについては「悩みがあっても大人の人にはうまく相談できない」が 8.9%で最も多くなっています。

「悩みがあっても大人の人にはうまく相談できない」については、特に“生活困窮層”と“周辺層”で多くなっています。

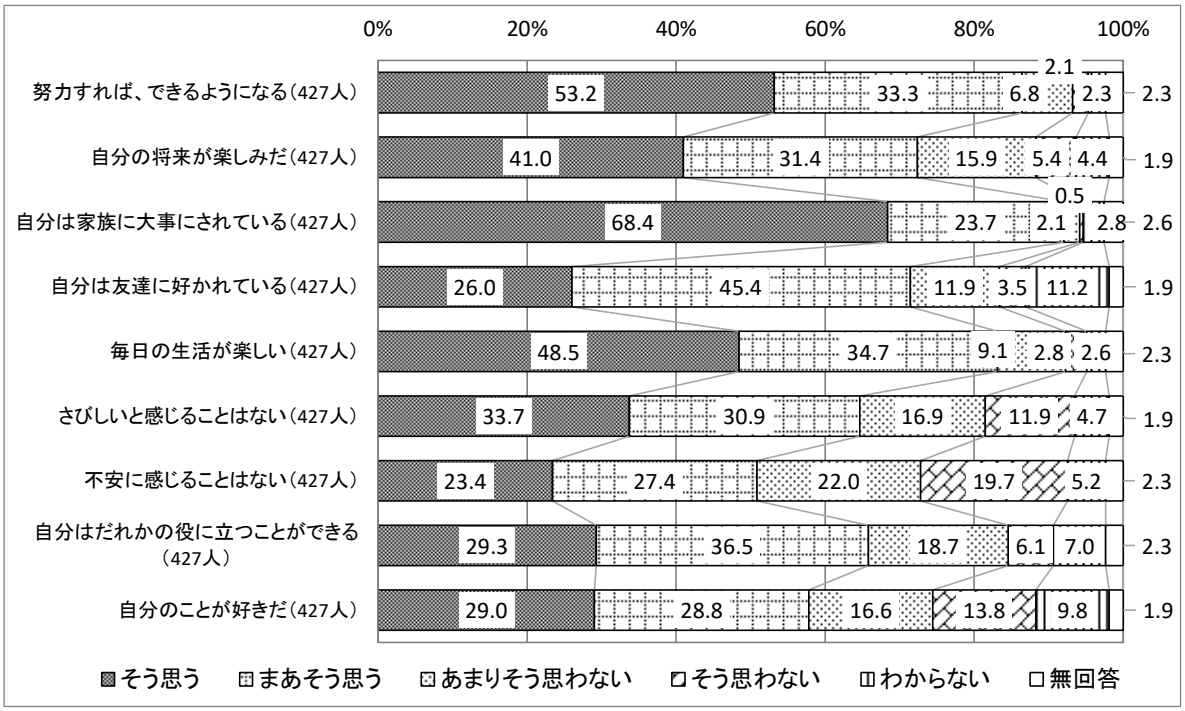


5．ふだんの生活で感じていることについて

（1）日常生活の中で感じていること

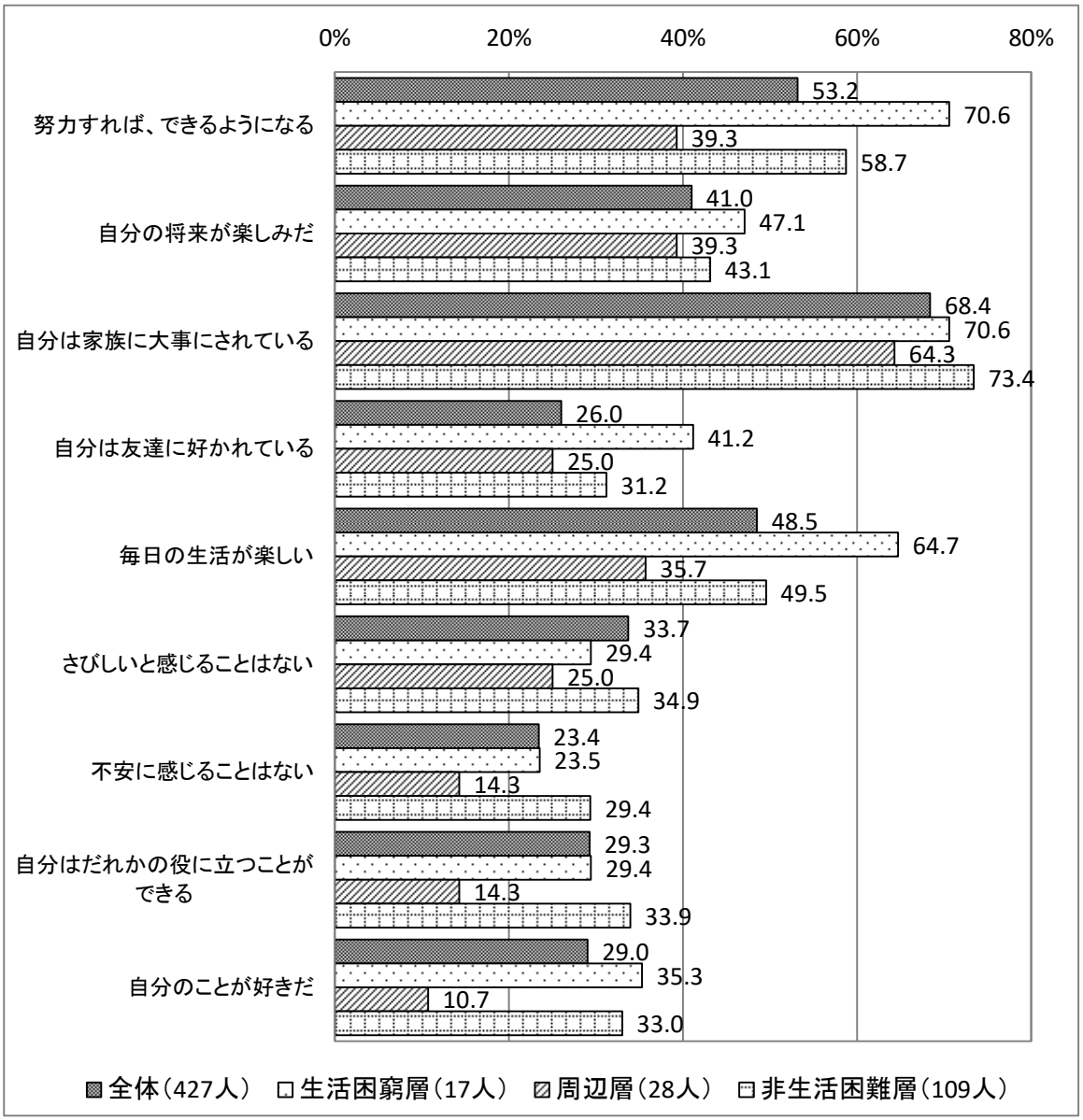
問19　あなたがふだんの生活で感じていることについて、教えてください。（それぞれ1つに○）

日常生活の中で感じていることについて、“そう思う”が最も多かったのは「自分は家族に大事にされている」で 68.4%となっています。次いで「努力すれば、できるようになる」が 53.2%、「毎日の生活が楽しい」が 48.5%となっています。



「そう思う」の割合についてみると、“生活困窮層”では、「努力すれば、できるようになる」と「自分は友達に好かれている」、「毎日の生活が楽しい」については、“非生活困難層”や”周辺層“に比べ多くなっています。

また、“周辺層”では、全項目について「そう思う」が少なくなっています。



6．自由意見

自由記述については、66 件の意見がありました。意見分類ごとの件数は以下のとおりです。
（意見は重複して分類しているため、件数の合計は意見の件数と一致しません。）

分類	件数
アンケートに対する評価や感想	30
自己認識について	19
日常生活や学校生活について	12
将来の夢や目標について	6
友人関係や人間関係について	5
その他	3